

7. 自己点検・評価報告書

(1) 2020年度第3クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	1
人文学部	人類文化学科	5
人文学部	心理人間学科	9
人文学部	日本文化学科	11
外国語学部	英米学科	13
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	18
外国語学部	フランス学科	20
外国語学部	ドイツ学科	22
外国語学部	アジア学科	23
経済学部	経済学科	24
経営学部	経営学科	31
法学部	法律学科	38
総合政策学部	総合政策学科	43
理工学部	システム数理学科	48
理工学部	ソフトウェア工学科	50
理工学部	機械電子制御工学科	52
国際教養学部	国際教養学科	53
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	58
教職センター		58
国際センター		59
情報センター		60
外国語教育センター		60
体育教育センター		62

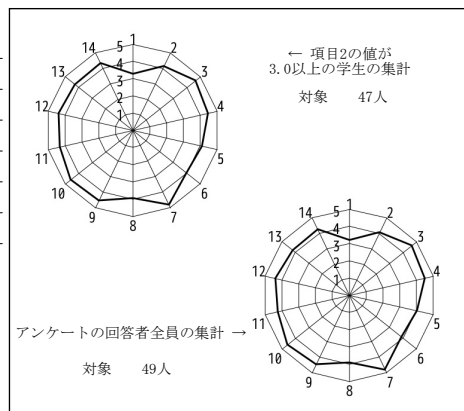
非常勤教員

【所属】

人文学部	人類文化学科	63
人文学部	心理人間学科	64
人文学部	日本文化学科	66
外国語学部	英米学科	67
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	68
外国語学部	フランス学科	69
外国語学部	アジア学科	69
経済学部	経済学科	70
経営学部	経営学科	72
法学部	法律学科	74
総合政策学部	総合政策学科	75
共通教育	仏語	76
共通教育	中国語	77
共通教育	共通	77
教職センター		88
外国語教育センター		89

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[B]2
授業コード 10A01-010
教員名 MCMULLEN, Matthew
教員コード 103838
登録人数 108
回答数 49
回答率 45.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

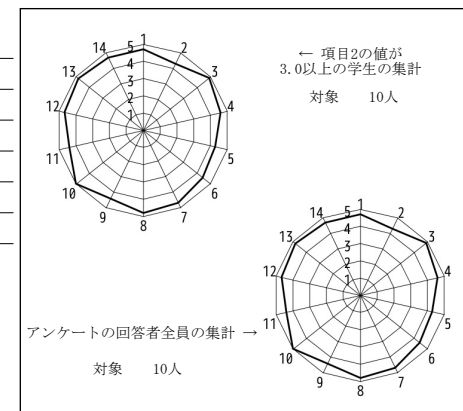


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) Compared with previous years, I changed the content of this year's course to provide a more comprehensive overview of 宗教論.
- (2) Because of the online format, I could include video and audio to illustrate the topics of the class. I did this by using various media and online forums, namely YouTube and Google Forms, which allowed the students to engage with the material discussed in class. Reading the evaluations, the students clearly appreciated this part of the course.
- (3) As some of the student evaluations note, occasionally the volume of the lectures were difficult for some students to hear. However, only a few students seemed to have this problem. I created a tutorial on how to adjust the sound on their computers or smart phones, but a few students still seemed to have difficulty. Next time I will use a higher quality mic instead of the computer mic to improve the sound quality, which I can then edit in a video editor for clearer audio.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学B5
授業コード 12A02-005
教員名 渡邊 学
教員コード 017186
登録人数 36
回答数 10
回答率 27.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

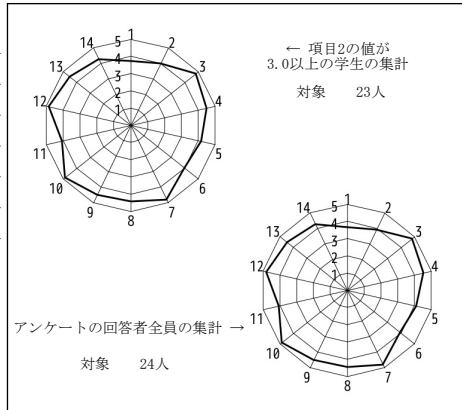


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標に関しては、オンライン授業という異例な形式ながら、目標を達成することができたと考える。毎回の講義に対して小テストを課し、1週間程度の余裕を持たせて解答させた。また、質問や感想なども記入できるようにして、次の講義までに寄せられた質問に関しては講義のはじめに答える努力をした。毎回提出する小テストに20%配点し、レポートに80%配点した。そのため、学生の小テストに対する解答が充実したものになったのは評価できる。学生の感想には以下があった。「毎回講義後に小テストが課されていたことが良かったと思います。その提出期限も余裕をもって設けられていたことから、ゆとりのある時間に講義内容を思い返しながら自分が納得するまで理解を深めることができました」。講義内容に関しては、「様々な思想を年代別に分けることが出来た。また、同じ思想のジャンルを複数の思想家、複数回の授業を用いて学べたため、分かりやすかった」という感想があった。設問項目の平均値に関して言えば、2と5が若干低かった。講義の改善すべき点としては、予習復習のポイントを明示して学習効果を高める努力をすること、PowerPointに図式や画像などを増やし視覚的にも興味を抱きやすいものにすることが挙げられる。Zoomの使用にもだいぶ慣れてきて、時々動画共有などで音声を共有できないという問題もだいぶ解消されてきた。今後はこれらの経験を生かして、対面授業でもオンライン授業でもいかにできるようにしていきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教文化
 授業コード 20A08-001
 教員名 清水 美佐
 教員コード 152757
 登録人数 48
 回答数 24
 回答率 50.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

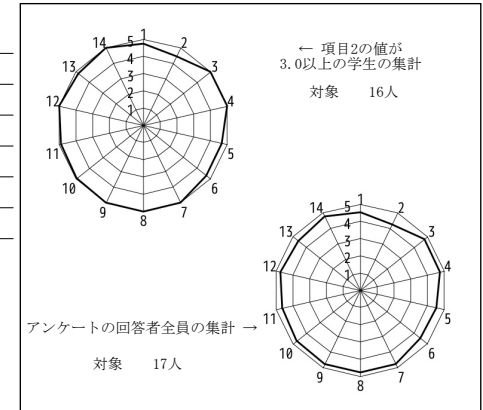


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①毎回のリアクションペーパー・期末レポートを読む限り、多くの履修生が授業目標に十分到達できたと思われる。
- ②設問1「履修前に授業内容に興味を持っていたか」3.67に対し、設問13「授業を通して新しい知識を得たり理解が深まったか」4.46、設問14「この授業に満足したか」4.25であったので、元々興味が薄かった履修生にとっても満足を得られる内容だったと考えられる。自由記述のうち良かった点として特に多く挙げたのは、質問に対する回答が充実しているとのことであった。過日12/23の全学FDでも学生の質問に答えることの重要性が話されていたが、そのことが授業評価にも表れていた。改善したほうがよい点に1件挙げられたスライド配布資料の小ささについては、著作権法違反への対策と教育効果のバランスの難しさを感じた。本授業では使用に注意が必要な写真資料を多数扱うため、対策として(つまり履修生がコピー/再配布することを防ぐため)配布用ファイルのみ解像度を落とした。ただし例年に比べると、配布資料がカラーになりデータで閲覧する形式に変わったため、復習がしやすくなったと考えられる。関連して、オンライン授業のほうが見やすいとの声があった。資料を見るデバイスが良ければ、実際のところスクリーンに映す教室授業よりも高い教育効果を得やすい。しかし各人の環境によって差が生じることので不公平についても考える必要がある。
- ③質問への回答は今後も引き続き力を入れる。また、オンライン授業の利点を今後も取り入れていきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教哲学B
 授業コード 21C35-001
 教員名 佐藤 啓介
 教員コード 102874
 登録人数 29
 回答数 17
 回答率 58.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

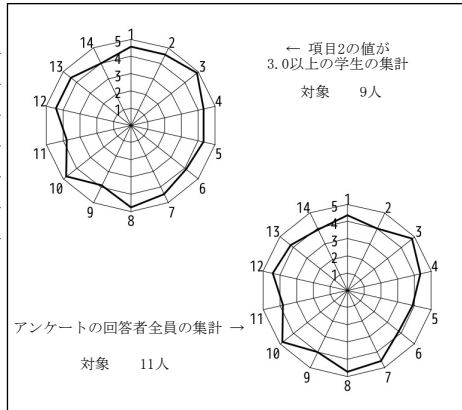


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は「1. 近代以降の西洋世界において、キリスト教思想がもつ哲学的な意義を理解する」「2. 近代以降におけるキリスト教思想の変容とその背景を理解する」「3. 現代世界を他者とともに生きるうえで求められる価値観や態度を学ぶ」の3点であり、到達目標理解度は4.53、到達目標達成度は4.47と、おおむね目標を達成することができたといえるだろう。それ以外の授業内容・運営に関する項目はほとんどが4.6~4.7台であり、授業内容・運営については問題なくおこなわれたと自己評価することができるだろう。また、自由記述欄からは「オンライン授業になってから、講義によって授業の受けやすさに差があると感じていたが、この講義は授業日程や課題の出し方などがはっきりと決められていて、安心して受講ができた」といったコメントからもうかがえるように、オンライン授業としても受講しやすいとの評価を得た。次年度以降も、オンライン授業形式も想定しつつ、今回同様の評価が得られる授業を心がけたい

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織神学(キリスト論A)
授業コード 21C36-001
教員名 VARGHESE, Rejimon
教員コード 100555
登録人数 14
回答数 11
回答率 78.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

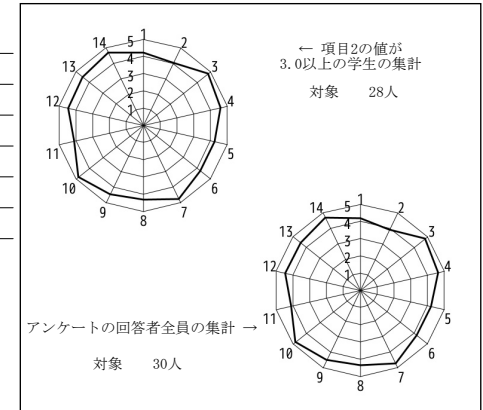


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 基本的に、イエス・キリストという神人を様々な角度（視点）から取り上げて理解する内容の授業でした。15回にわたる組織神学（キリスト論A）は、zoom利用オンライン授業でした。開講当初に設定してあったシラバス及び授業計画による毎回のテーマ（内容）にそった講義をしていたので、その目標と到達店に達しているはずだと思います。zoom式授業にはその限界があるということは事実でしょう。
- ② 項目1から14の平均は4.27です。学生の自由記述回答によると、かなりよく評価されているようです。資料を毎回アップロードしたこと、よく準備して熱心に教えていたこと、内容がわかりやすかったこと、テキストが十分であったこと、学生とのコミュニケーションが好良だったことなどが積極的に評価されています。
- ③ 次クオーターの改善点、抱負、方針についてですが、次回もzoom授業になるか、又は対面授業になるかによって異なると思います。学生の自由記述回答にも改善して頂きたいいくつかの点が挙げられています。しかし、それらの対象はzoom授業です。いずれにせよ、もっと楽しい授業を次回提供したいと思っております。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本キリスト教史
授業コード 21C54-001
教員名 三好 千春
教員コード 101173
登録人数 51
回答数 30
回答率 58.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



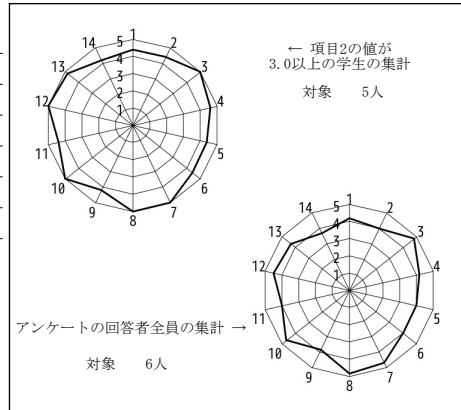
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回はオンライン授業ということで、学生の反応をダイレクトに見ることができない中で講義を行わねばならず、こちらが伝えたいことが学生に伝わっているのかどうか不安であったが、この結果を見る限り、まずまず伝わっていたようで安心した。特に、オンライン授業のツールとしてパワーポイントを使うため、その利点を生かそうと地図や写真を始め視聴資料を多く入れて授業したが、それが学生の側にも肯定的に受け取られていたのは良かったと思う。また、チャット機能があるため、学生も対面授業の時よりも質問が心理的にやりやすかったらしく、質問に答えてくれるという評価が出ていた点も、オンラインの利点であろうと思われる。

来年度がまだオンライン授業が継続となるのか、対面授業に戻るのか定かではないが、対面に戻ったとしても、このオンライン授業で得た利点を活かす形で講義を行いたい。

2020年度 Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教思想B
授業コード	21C60-001
教員名	SOUSA, Domingos
教員コード	100753
登録人数	14
回答数	6
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



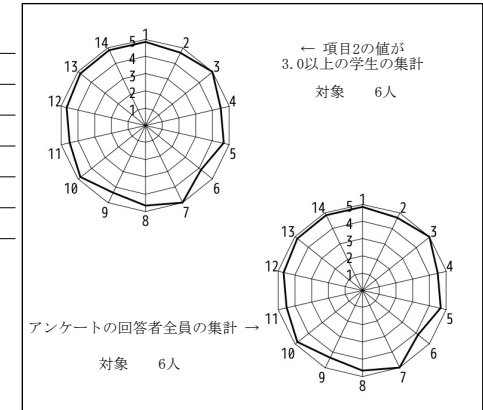
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は、極めて多様な価値観が存在する現代において、相互理解や対話が、どのような根拠の上に立って成立するのかを追究するとともに、思想の比較を通して自分たちの文化と他国の文化についての理解を深めながら、グローバルな視座で現代世界の動向を考えることを目指している。学習の補助のため各項目の内容をまとめるプリント教材も配布した。

講義に対する学生の評価結果は、全体として良好な評価であると思われる。自由記述回答には否定的な評価として「授業中に資料のどこの話をしているのかわからなくなることが多かったため画面共有しながら、話して欲しかった。日にちごとに資料が整理されていなかったため、どの資料を使えばよいか分かりにくかった」などがあげられる。画面共有の不具合があり、パワーポイント利用は不可能であったので、授業についていくのが難しかった時もあったであろう。オンライン形式の授業は継続するならば、この問題への解決策を見つける必要である。予習や復習などについての得点は多少低いので、講義の各項目についてより分かりやすいレジメを提供し、関連文献を紹介することにより、主体的な学習と学習意欲を向上させる工夫をしたい。

2020年度 Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	聖書ギリシア語(初級)I
授業コード	21C69-001
教員名	KUCICKI, Janusz
教員コード	101877
登録人数	9
回答数	6
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」の結果によると、「初級ギリシア語(Q3)」は全般的に良い評価を得た科目であったと思われる。科目の内容と教え方については問題がなかった。学生授業評価の結果によると、学生たちは授業の準備に対して自主的な動機を持っていた。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	聖書ヘブライ語(初級)II
授業コード	21C72-001
教員名	加藤 久美子
教員コード	103475
登録人数	5
回答数	2
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で授業計画を変更したQ1開講の聖書ヘブライ語(初級)Iの学習内容を踏まえて、開講時に新たな授業計画を提示した。以下ではまずそれに照らし授業目標の到達の程度について述べてい。

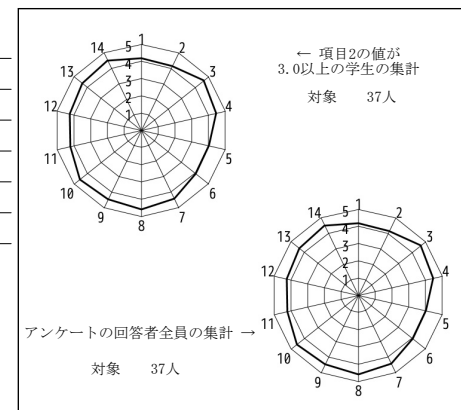
今期の学習範囲は例年よりも広がったため、練習問題の量を通常よりもやや限定し、代わりに、初学者にとって特に難解な動詞の語形と用法に関する解説に時間を向けた。今期の履修者は全般に学習意欲が高かったが、中でもすべての授業に出席した履修者(全体の8割)においては、開講時の到達目標は達成されたといえることができる。

15回のZoom利用オンライン授業では、講師と履修者の双方がカメラとマイクを使い、また、PowerPointやPDFだけではなく、iPadを用いた板書、単語帳アプリなどを画面共有することによって、対面の授業に近い形態を目指した。履修者側のカメラの利用、宿題の写真を撮ってメールで送るなど、履修者には様々な協力を求めたが、それらがよく実行され、総合的に肯定的に評価できる授業であった。アンケートの回答数が基準に達しないため、チャートは表示されないが、寄せられた回答でよい評価が示された点にもそれは反映されていると思われる。

来期の授業形態はまだわからないが、対面授業が再開された場合にも、今期に行った工夫を何らかの形で継続することが必要であると考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本との出会い2
授業コード	13B01-002
教員名	藤川 美代子
教員コード	103115
登録人数	116
回答数	37
回答率	31.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

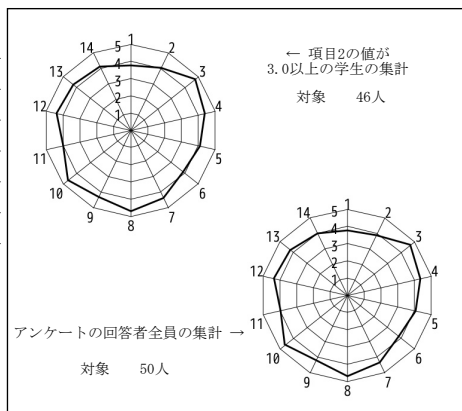


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初、「自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作ること」「日本の中にある異文化を理解することで、自らの文化や考え方を相対化する姿勢を身につけること」という到達目標を立てた。オンライン授業というイレギュラーな状況下であったものの、授業の内容はほぼシラバス通りに進行できたこともあり、2つの到達目標については達成できたと考える。②学生の回答からは、映像の鑑賞により授業内容の理解を助けるという試みが、オンライン授業下においても機能していることがわかる。オンライン授業の運営にあたって、通常の対面授業で話す内容のほとんどをレジュメに掲載し、配布するという手法を採ったが、学生からは特段の不満や意見が出なかったことに安堵している。③来年度以降、仮にオンライン授業と対面授業が併用される場合、レジュメに掲載する内容と口頭で説明する内容のバランスをいかに保つかを考慮する必要があるため、この点に留意して準備を進めたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジアとの出会い2
授業コード 13B02-002
教員名 宮沢 千尋
教員コード 019562
登録人数 115
回答数 50
回答率 43.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

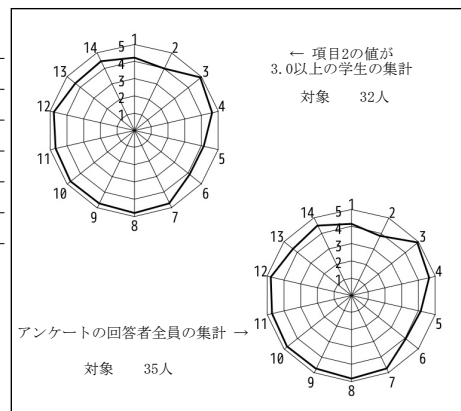
Q2開講のリポート科目である。Q2では評価はほぼ平均値であったが、Q3では項目1から14の平均が、共通教育科目の平均値より0.25、項目3から14の平均が0.23下回った。

Q2と授業内容や方法は変えていない。このように数値が下がった理由はいきりとはわからないが、項目1がQ2よりも0.29下がっていることから考えると、もともと授業内容に興味があった学生はQ2に履修をしており、Q3ではそれほど関心が無い学生が多かったのではないと思われる。Q2では授業時間内に収まらないほどの質問があり、また、メールでの質問も度々あったが、Q3では質問がほとんどなかったことにもそれは現れているように思う。

今回の授業評価では、授業内容について「高校時代の世界史・日本史の内容とほぼ変わらないので簡単すぎる」（3件）、「授業内容がむずかしく、レジメもわかりにくいので理解できない。もっとわかりやすくしてほしい」（2件）と2極化した。授業内容に関心がある学生には簡単すぎ、無い学生には難しいということか。後者の学生のうち1件はDLサイトにレジメが上がっていることを知らなかったとおぼしき記述をしている。当たり前すぎて言わなかったが、このような学生もいることを意識しなければならないと痛感した。授業内容のレベルに関しては、様々な入試形態や背景を持った学生がいることを考えると変更はむずかしいが配慮したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の倫理学
授業コード 22C11-001
教員名 奥田 太郎
教員コード 100642
登録人数 125
回答数 35
回答率 28.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

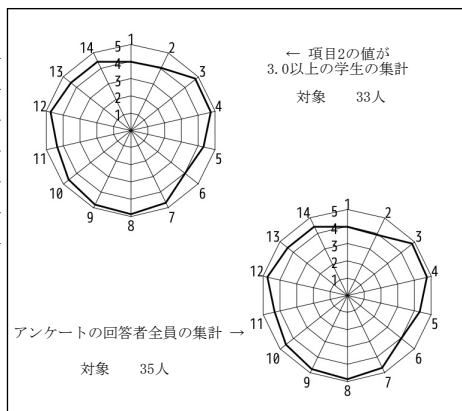
(1) 開講当初に受講者向けに設定した3つの到達目標については、提出された論述課題を見る限り、概ね達成されたと考えられる。

(2) 授業アンケートの結果を見ると、数値については、各質問項目の平均値が開講主体別の平均値をすべて上回っており、概ね好評だったことが伺われる。ただし、登録者数が100名以上のなか、回答者が30名程度であったため、熱心な受講者の回答傾向だと考えるべきではある。自由記述の回答では、今回の授業形式、つまり、授業時間のうち最初の1時間を受講者との時間差コミュニケーション（事前に提出されたコメントや質問に回答すること）に費やし、授業内容は残りの30分で集中して講義する、というやり方や、Zoomのアンケート機能を用いたリアルタイムのコミュニケーション、すべての授業を録画し閲覧可能にしたこと等が好評であったことが伺われる。他方で、上記の授業形式では本題になかなか入らないため「やる気がそがれた」というコメントも少数であった。

(3) メリハリをつけた授業構成・授業運営は概ね好評だったため、今後も踏襲していきたい。他方で、よりハードな授業構成を求める声もわずかながら存在することに考慮し、同時に、上級者向けの課題や参考文献をもっと積極的に提示する等の工夫をしたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域の文化と歴史(環太平洋)
授業コード	22C44-001
教員名	吉田 竹也
教員コード	019158
登録人数	74
回答数	35
回答率	47.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、奄美・沖縄の文化や歴史を、島ごとの特徴に留意しつつ、多角的な視点から捉えようとするものであり、授業担当者が現地で集めた情報や写真をできるだけ盛り込むことを心がけている。こうした趣旨は、数値データや自由記述を見るかぎり、おおむね学生に理解されたと考える。

今年度は、全15回をライブ式オンライン授業としたが、「声が聞き取りやすい」「特に不満もなくスムーズに授業を受けられました」「一方通行の授業を阻止する努力をしていたと思いました。特にメモを取る重要性を強調していた事が大いに授業内容を消化する手助けになりました」「学生への対応(質問や説明など含めて)非常に丁寧で、とても良かった」などのコメントがあり、Zoomによる授業となったことが問題を生むという状況ではなかったと判断している。このことにまずは安堵している。

ただ、授業担当者がまたZoomに慣れていないことから、「ミュートにしない生徒がいるので、最初から強制ミュートにした方が良いと感じる」という不満の指摘があるなど、ミュートの設定ミスから、ある回に雑音が入る状況がしばらくつづいたことについては、反省している。それ以降は、ミュートの設定に気を配るようになった。次年度どうなるかはわからないが、この授業に関するかぎり、Zoomで運営するめどはついたと思っている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化コミュニケーション<国際科目群>2
授業コード	22C53-902
教員名	ANTONY SUSAIRAJ
教員コード	103820
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

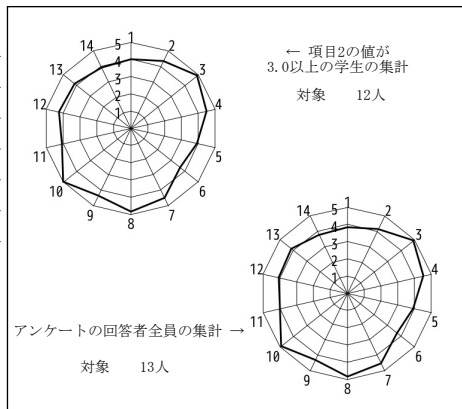
The aim of this course is to understand the different elements of culture, and its challenges and prospects during intercultural communication. It helps to overcome the prejudices on other cultures and enables to appreciate the cultural diversities. It focuses on the skills of intercultural competence to identify the challenges and recognizing the advantages of living in a multicultural world.

It was achieved by 3 ways; Learning the basic theories of Inter-cultural communication, Listening to Guest Speakers who had inter-cultural experiences in different countries, and Students' presentation on their cross-cultural experiences in foreign countries.

These helped them to learn about inter-cultural communication both in practice and theory.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(縄文文化論)
 授業コード 22C71-001
 教員名 上峯 篤史
 教員コード 104108
 登録人数 42
 回答数 13
 回答率 31.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

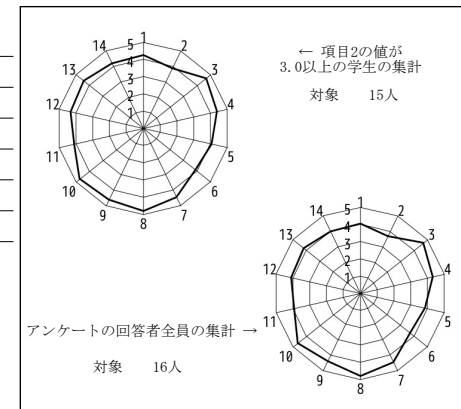


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では当初、縄文時代の概説講義を予定していたが、開講形態をオンライン授業に変更するにあたり、予習・復習がしやすいよう教科書(専門書)を採用し、縄文時代の石器研究の解説を中心に、関連する縄文時代の基礎知識を配列する授業に変更した。到達目標は、概説的知識の獲得と研究動向の理解の2点に定めていたが、これらは十分に達成できたと考える。受講生からのアンケートデータは回答率が低く、数値の評価をしにくいのが、約3割程度の受講生は授業内容についてこれなかったものと推察される。人類文化学科科目は学科生の誰もが受講できるようになってはいるが、3年生以上に割り当てられる本講義は特殊講義であり、考古学に関する基礎的な知識が予め必要となるのは自明である。来年度はこの点をシラバスに強く明記し、専門性の高い講義が展開されることをすべての受験生が予見できるように配慮したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(農耕文化論)
 授業コード 22C73-001
 教員名 黒澤 浩
 教員コード 100758
 登録人数 30
 回答数 16
 回答率 53.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

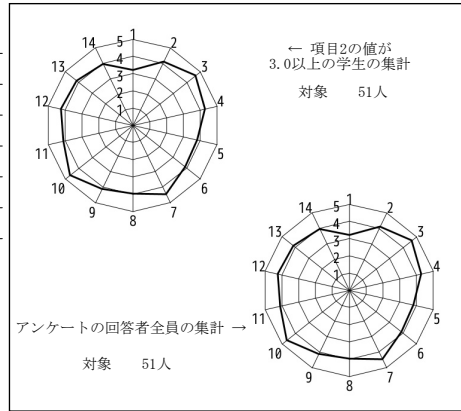


授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンラインの講義では、Zoom操作の不慣れな点もあり、行き届かない点も多かったと思う。しかし、評価を見る限り、学生の方が良くついてきてくれたと思うので、改めて感謝したい。
 授業はパワーポイントを画面共有しながら進め、時折質問をするなどしてメリハリをつけたつもりで、その点については高評価だったものと思う。ただ、時間配分のペースがうまくつかめず、最後のまとめができなかった点は反省すべき点である。また、レジュメがないため復習が難しいという意見もあった。これについては、対面の授業のレジュメをパワーポイントに落とし込んでいるので、内容的には問題はないと思うが、やはり少し詳しい解説を付けたレジュメを準備しておく必要があるようだ。その点は改善していきたい。
 授業としては受講学生の顔が見えないので、反応がわからないというやりくさはあったが、その点も含めて授業構成を見直していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[P]3
授業コード	10A51-016
教員名	ABRAHAM, Joy Plathottathil
教員コード	104278
登録人数	108
回答数	51
回答率	47.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

キリスト教のことを初めて学ぶ学生に簡単にキリスト教の事を教え、写真や映画を通して様々なことを説明することやキリスト教の価値観を伝えて、学生が自分の人生について考える機会を与える事でした。学生のレビューを読んで、多くの学生の方がその目的を良く理解したと思いました。

日本語で長く教える時、様々な方法を使うことを計画して置きましたが、オンライン授業になってしまったので、思った通りに授業計画を果たすことが難しくもありました。

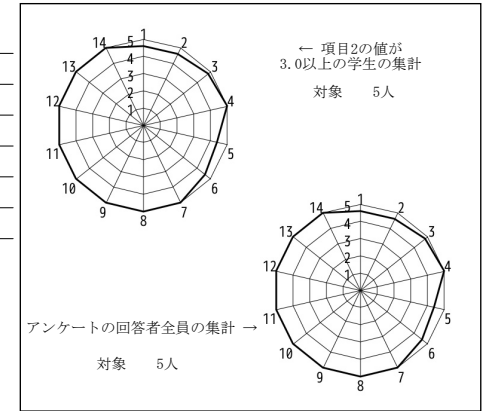
映画を毎回見せましたが、学生はパワーポイントのスライドが希望していたようですので、次回スライドで内容を説明して行きたいと思います。

授業後、毎回レビューを書いて送るように願って置きます。その時、日本語での理解良いかどうか訪ねます。

次回の授業で学生が理解できるようにゆっくりと話していきたいと思います。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育・文化における人間の尊厳4
授業コード	10D07-004
教員名	坂中 正義
教員コード	102720
登録人数	5
回答数	5
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は以下の通りであった。

- ・ ロジャーズを中心とした人間性心理学の基礎的事項を理解している。
- ・ パーソンセンタードな姿勢や発想で自分や他者と関わることができる。
- ・ 自身との対話を深める。

この目標を実現するため、以下の取り組みを中心に授業を展開した。

- ・ 理論学習と体験学習を有機的に組み合わせた。
- ・ 傾聴を軸とした実習を多く取り入れた。
- ・ 毎回、振り返りシートと自身との対話用紙を用いて自身との対話を促した。

。

授業時の感想やレポート、定期試験としてのレポート、授業割評価アンケートによる到達目標達成度4.60等を勘案すると到達目標について各学生なりの形で手応えを感じていることが伺えた。

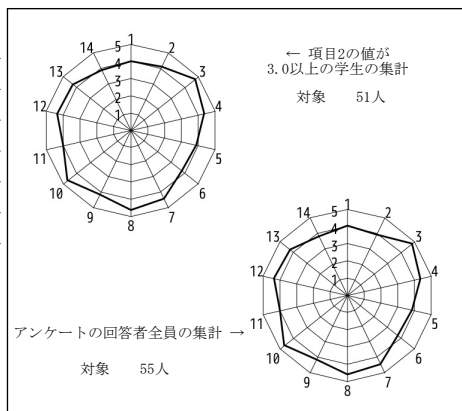
授業割評価アンケートの全項目が4以上を示した。全体との比較においてもすべての項目で平均以上であった。

これは、ワークや話し合いを取り入れた授業が学生の興味や関心を引き出したことなどが影響しているよう。こういった要因が授業への総合的な満足度につながっていると考えられる。

よって、今後もこの水準で授業が維持できるよう努力するとともに、到達目標に貢献するような新たな試みも試行錯誤していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	青少年問題論
授業コード	20A12-001
教員名	林 雅代
教員コード	018796
登録人数	89
回答数	55
回答率	61.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

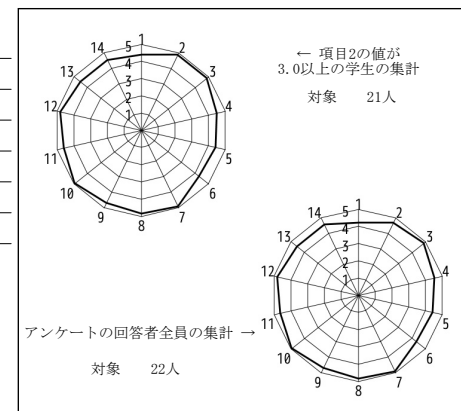


授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンライン授業にある程度慣れてきたQ3の授業であり、Q1の授業の反省を活かして、主に事前学習課題の定時、授業内の双方向のやりとり、WebClassでの中間試験・学期末試験の実施、という3つの新たな試みを行なった。事前学習課題の提示に関しては、授業の内容を理解することに役立ったというように積極的に評価する自由記述も見られたが、内容が難しいという声もあった。若干難しいと思われる事前学習課題を課した際には、授業内で丁寧に説明するなどの工夫をしたが、ついていけない受講生もいたことは反省点である。授業内の双方向のやりとりについては、事前学習の内容についての質問を行い、チャットで回答させることや、授業内容に関する質疑応答が中心であった。自由記述では、チャットへの回答が急かされるというものが多かった。チャットへの書き込みに時間がかかることへの配慮が必要であったと思う。通常の教室での授業では、活発な質疑応答は難しいが、オンライン授業ということで良い質問が多く出て、質疑応答は充実していたように思う。この点は、項目12が4.38とかなり高くなっていることにも表れた。中間試験・学期末試験に関しては、自由記述で回答時間が短いことや、テキストの引用というやり方への不満が多く見られた。テキストを引用するようという指示には、事前学習を積極的に促す意味や、ネットの安易なコピーによる解答を防ぐという意味があったが、少なくとも試験での解答時間はもう少し長く取った方が良かった。来年度の授業がどうなるかは分からないが、対面授業になっても、今回試みた授業方法は、改善しつつ何らかの形で継続していけたらと思う。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IIB
授業コード	23A09-003
教員名	青木 剛
教員コード	103923
登録人数	28
回答数	22
回答率	78.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

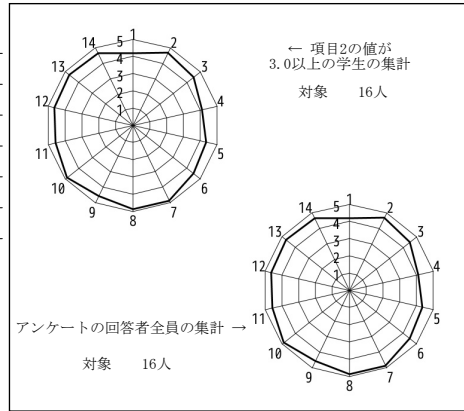


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本科目では、これまでに修得したことを活用し、研究テーマ定め検討し、その成果を発表することを通して、研究を深めることや成果を効果的に伝えること、他の発表をクリティカルに検討する観点を持つことを目標としていた。実際に学生は、熱心に取り組んでおり、限られた時間の中で研究を進める体験ができていたと見受けられた。また、発表もそれぞれが創意工夫を凝らし、質疑も活発になされていた。これらのことから、限られた時間の中で、本科目の到達目標は達成できていたのではないと思われる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
アンケート結果から、全項目が4以上で学生から高い評価が得られたと言える。また、自由記述からも、教員に質問することが出来た点等のサポートが評価されていた。本科目は、全受講者数に対して十分なサポートを教員ができるように、教員当たりの学生数・グループ数が決められており、この配慮がうまく機能した結果、上述の評価が得られたものと考えられる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上述の評価が得られた一方で、今年度はオンライン授業となったことで、例年よりも発表準備の時間はあったものの、例年と同じく発表準備にかかる時間が足りないという自由記述が認められた。この意見・感想に対応するためには、同じ15回の授業でも、週2回のクォーター制での実施ではなく、週に1度の形態にするなどの工夫が必要であるが、この点に関しては本科目が学部で統一された科目となっている以上、筆者個人の判断では変更することは難しい。学生には、限られた時間ではあるが、その中でできうることを今後もサポートできればと考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IIB
授業コード	23A09-004
教員名	解良 優基
教員コード	103910
登録人数	30
回答数	16
回答率	53.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、以下の4点であった。

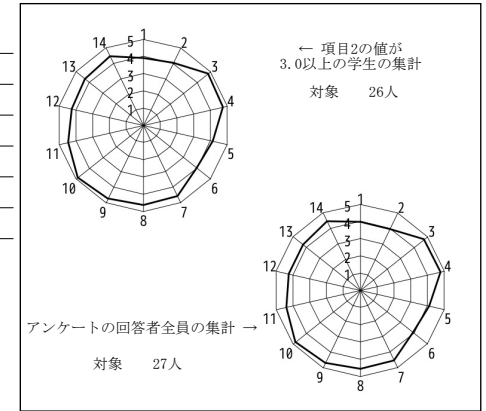
- (1) 心理人間学基礎演習I~IIIで習得した知識・技法を活用して、研究テーマに関する洞察を深められていること。
- (2) グループの主張を説得的に展開するよう研究をまとめていること。
- (3) 聴衆に対して効果的にプレゼンテーションする技術を修得していること。
- (4) 他グループの研究発表に対する批評的な観点が養われていること

グループでの研究発表やその後の質疑応答の様子、そして最終レポートから、上記の目標は概ね達成したと考えている。
また、授業評価アンケートの結果も概ねポジティブな印象であった。

本授業は、クォーターの中でグループで研究を計画、実施、そしてまとめるというただでさえハードな授業である。
そこにオンラインという制約が加わることで、学生にとっては様々な難しさもあったと思われるが、全体的に意欲的に取り組んでいる姿勢が見て取れた。
一方で、Zoomではグループでの活動の様子が教員にとっては見えづらく、グループ活動後の講義で内容をフォローするということがしにくいPBL型の授業形態は、特に授業運営が難しいと感じた。
学生同士のマイルドな形での相互評価などを取り入れて、グループ活動に積極的にコミットした学生が適正に評価される仕組みを作ることなどがひとつの改善策として挙げられるかもしれない。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	古典資料講読
授業コード	24C40-001
教員名	森田 貴之
教員コード	102286
登録人数	36
回答数	27
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

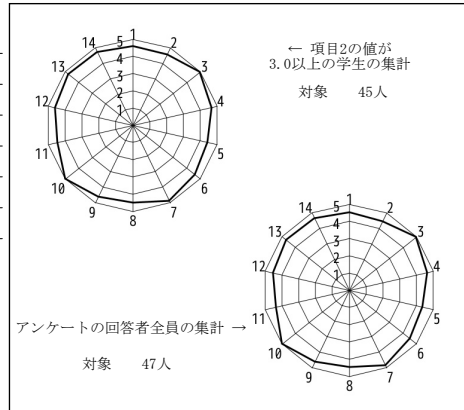


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1の授業開始前の興味が3.96であるのに対して、設問13の理解度が4.26、設問14の満足度が4.44であり、当初の講義目標はだいたいにおいて達成されたと考えている。調査対象科目は、日本文化学科の学科科目の一つであり、古典文学のうち、とくに学生にはあまりなじみがないと思われる和漢比較文学の資料講読を扱っており、専門性の高い内容となっていた。そのため日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり現代の事象や一般論のようなものと結びつけながらできるだけ具体的な関心を高められるように努めた。その意図はある程度は伝わっていたと感じる。設問4の毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたかという問も4.78であり、また、設問9の教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか、という問も4.67であった。オンライン講義への配慮を行い、時には派生した関連する題材をとりあげて学生の主体的な理解を導くよう試み、できるかぎり卑近な話題にあえて触れたが、その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思う。次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。ただし、設問6 あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。という質問が3.93であった。講義を通して到達目標の達成を実感できるようにつとめたい。今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。オンライン講義であったこともあって、授業時間においてきちんと回答時間を設け、回答を呼びかけた結果、回答率は比較的高かったように思う。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	古文獻入門
授業コード	24C42-001
教員名	辻本 裕成
教員コード	019042
登録人数	75
回答数	47
回答率	62.7%
休講回数	0 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに掲げた到達目標は以下の通りであった。

- 1 簡単な漢字が混じった平仮名のくずし字を読めるようになっている。
- 2 日本の古い書物の形態についての基礎的な知識を身につけている。
- 3 書誌学についての入門的知識を得ている。
- 4 活字からではなく、原本をみて研究することの意味に気付いている。

オンラインで口頭の試験を行ったが、その結果を見ると、1についてはある程度達成できたようであった。しかし、2～4については、通常の試験をできなかったため十分に確認することができなかった。

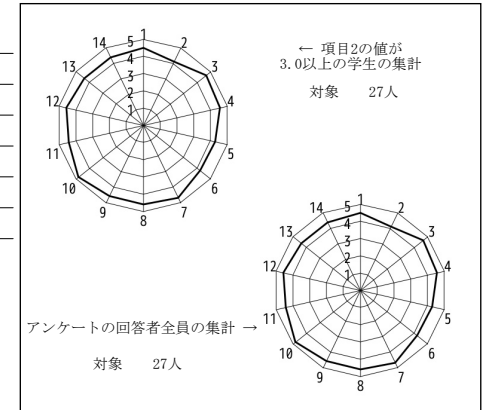
また、この授業は1コマ目に設定していたため、対面授業が出来なかったが、これは大きな痛手であった。例年は、江戸時代の資料の実物などを教室で見せていたのが、今年度はそれができず、画像で見せるだけとなった。他の講義科目は、オンライン授業でもさほどマイナスになっていないように思われるが、授業内容によっては対面でやるべき授業があることを改めて痛感した。

アンケート結果は良好で、平均値が4.62であったが、これは、自由記述の「良かった点」の中に「機械が苦手そうでしたが頑張っていたところ」と書かれたものがあつたように、オンラインに向かない内容の授業を苦労して行っていたところに、一種の同情票が入ったものと思われる。改善すべき点として「進行が速い」というのが複数あつたが、オンライン故学生の反応を確かめながらやることができなかつた結果であろう。

来年度は対面授業ができることを願っている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代日本語の構造
授業コード	24C49-001
教員名	榎山 洋介
教員コード	041806
登録人数	56
回答数	27
回答率	48.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

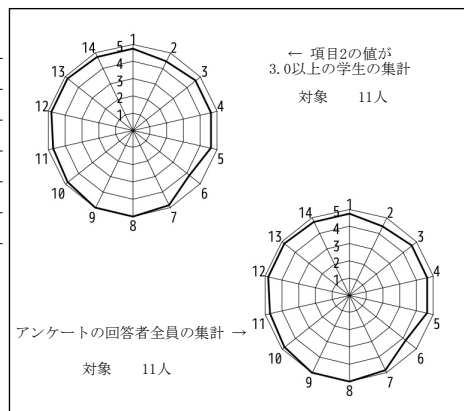


授業評価結果を踏まえた点検・評価

提出を課した「レポート」（2回）から判断して、この授業が目標とすることを、十分に身に付けた学生は約30%、相当程度身に付けた学生は約45%、ある程度身に付けた学生は約20%、まったく身に付かなかつた学生は約5%であった。また、自由記述として、以下のようなものがあつた。「授業の内容がおもしろかつた」「類義語や多義語を考えるきっかけになつた」「例文が多くあることで納得しながら説明を聞くことができた」「参考文献がたくさん紹介されていてよかつた」。例文に基づく具体的な分析方法の解説は今後も続けていきたい。また、学習意欲の高い受講者に対して、発展的な文献の紹介もさらに充実させたい。一方、「ハンドアウトを読めば授業内容が分かつてしまう」というコメントがあつた。予習を熱心に行う学生を想定してハンドアウトの作成についてさらに工夫するとともに、より高度な内容を盛り込むことによって充実した授業にしていきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育文法(中級)
 授業コード 24C66-001
 教員名 上田 崇仁
 教員コード 103619
 登録人数 15
 回答数 11
 回答率 73.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

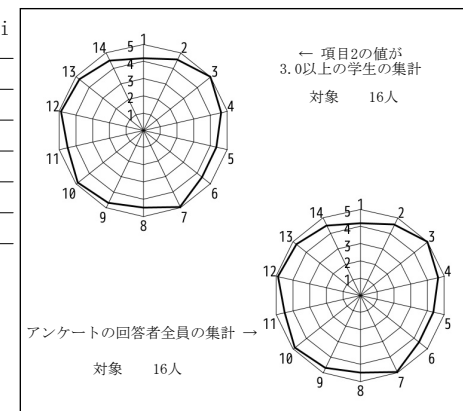


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 授業担当者としては、最終課題を見る限り、それぞれの能力が想定範囲内で伸びたという印象がある。その理由の一つは、日本語表現の分析について、初回の発表時よりも、具体的かつ丁寧、客観的な視点が持てていることである。別の理由としては、作成した紙芝居が、当初のものよりも、より、表現に適切な形に検討されている点である。
- ② ①にもかかわらず、授業評価では到達目標に達したという評価が低かった。明示的に自己評価できる方法を検討したい。また、分析方法についての詳細な解説を求める記述もあった。この点については、教員側の思いとしては分析方法の試行錯誤を経験させたかったという思いがあり、その教員側の思いを事前に伝える努力を怠っていたと反省している。
- ③ 学生の受講態度、授業準備については申し分なかったと考えている。個々の学生が、その時の能力に応じて十全の対応をしたと考えられるため、②に記したように、初回の発表と最終課題の提出時における成長を明示的に感じられる指導方法を考えていきたいと思う。機器の不具合などはあって当然のことと考えているので、学生側の提出や発表時のトラブルには余裕をもって接していたつもりだが、アンケートを見る限り、その点も安心しての受講につながっているようなので継続したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Interdisciplinary Studies A
 授業コード 31C16-001
 教員名 伊藤 聡子
 教員コード 102445
 登録人数 25
 回答数 16
 回答率 64.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

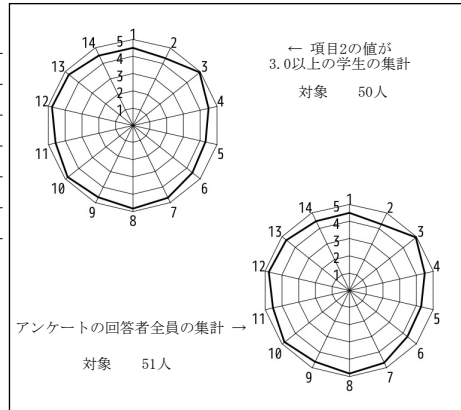


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 目標と到達の程度
この授業は文化の生成と循環の基本的構造を学ぶことを目的とし、抽象的な概念を扱うため文献講読とディスカッションを講義に組み合わせる予定だったが、オンライン授業化やコロナ禍によるテキスト価格の高騰を受け、授業形態を講義中心としてテキストなしで理解できるよう変更した。このため文化論についての基本概念の理解という到達目標は達成できたと思うが、批判的読みやディスカッションスキルの習得という部分は達成できなかった。
- ② 自己点検・評価
抽象的な概念理解を補助する意図で計画していたテキストとディスカッションが利用不能となり、(6) 力がついたという実感や(13) 知識の修得と理解の深まりの評価が低いことを予想していたが、逆にこれらは平均値を上回る結果となった。また講義型に切り替えたにもかかわらず、主体的な授業参加(2)も平均値より高くなった。これは授業内容変更に伴い、課題として講義ノートの作成を課し、次の授業時にそれに加筆修正できるよう前回の内容を必ず復習したためだと思われ、自由記述回答でもスライドのわかりやすさと前回授業の復習があったことが評価されている。
- ③ 改善点と今後の方針
ネットワークの不安定さもあり、(8) 聞き取りやすさのみ平均値を下回った。学生側が音量の調整法を知らない時もあり、技術的な面の説明は補足していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 歴史研究の基礎 (アメリカ)
 授業コード 31D09-001
 教員名 川島 正樹
 教員コード 048116
 登録人数 63
 回答数 51
 回答率 81.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

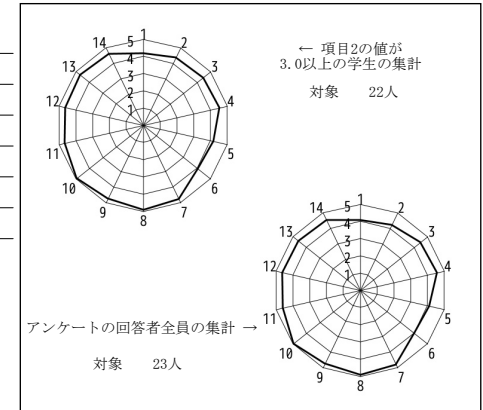


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業は昨年度も学生による評価の対象となった科目であり、今回と比較してみたい。項目13に関しては昨年度の4.30だったが、今回は4.67に飛躍的な改善を見た。また項目14に関しても4.26から4.45へと上昇している。
- ②上記以外の数値も全般的に顕著な改善を示している。とりわけ昨年度低評価だった項目9が4.14から4.61に改善したことに安堵している。また昨年度それほど問題はなかった項目12に関しても4.49から4.80に上昇したこともうれしい結果であった。自由記述欄の項目15（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）には回答のあった52名中42名の記述があり、どれも非常に心づけられた。その一方で、項目16にも20名ほどから記述があったが、ブレイクアウトルームの時間が短すぎる、あるいは一つのグループの人数が多すぎるなどの指摘が目立った。簡単に改善できるので、ぜひ今後の教訓としたい。全般的に満足度は非常に高かったと判断する。
- ③今回は学生も教員側もオンライン授業に慣れたため、オンラインの弱点が乗り越えられつつ、個別授業に近いという利点がより効果的に表れたのではないかと思われる。また最後の授業時の筆記試験への活用も含め、WebClassの併用が功を奏したと判断される。今後もさらに精進したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イギリスの文学<国際科目群>
 授業コード 31E08-901
 教員名 TEE, Ve-Yin
 教員コード 101626
 登録人数 65
 回答数 23
 回答率 35.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

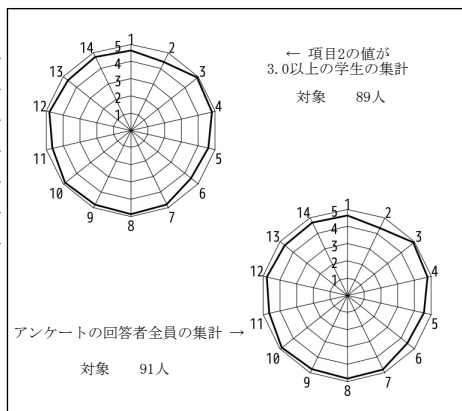


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a series of lectures on the representations of nature in British poetry from 1700 to 1950. The aim is to help students understand and articulate the fact that nature is a deeply historical and cultural construction, and I think I acquitted myself satisfactorily given the difficulty of the material and the extraordinary circumstances this year. Students generally liked the ample time I gave over to them for discussion, which was better than usual because the breakout rooms facility on Zoom allowed me to put students into different groups effortlessly. There was a problem with a few students who refused to speak, and it was impossible for me to ensure that everyone who came on the final day actually presented, which resulted in a few complaints.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化コミュニケーション
 授業コード 31E11-001
 教員名 花木 亨
 教員コード 101269
 登録人数 179
 回答数 91
 回答率 50.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、日常生活の中で自分が経験している異文化コミュニケーション現象を自覚できるようになること、自分が経験した異文化コミュニケーション現象を分析できるようになること、異文化コミュニケーションについての知的関心と思考を深めることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。

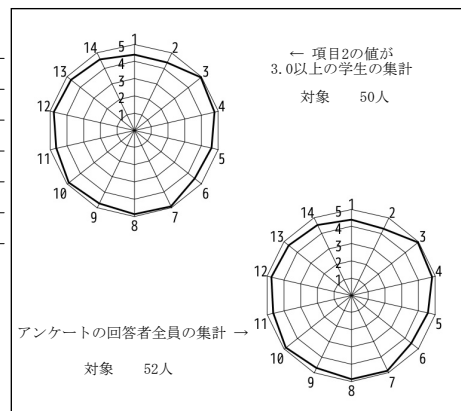
項目3から14の平均値は4.73だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.40を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるように努力したい。

自由記述欄を読むと、教員の説明がわかりやすかったこと、スライドや写真などを使ったこと、Zoomのチャット機能を使って学生たちから意見を受け付けたこと、それらの意見に対して丁寧に応答したことなどが好意的に評価されたようだ。教員が一方的に話すのではなく、学生たちとコミュニケーションをとりながら授業が進められていたという記述もあった。その一方で、学生たちとのやりとりの時間が長いと感じた学生もいたようだ。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの学生たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

オンライン形式であっても、Zoomのチャット機能などをうまく使えば、双方向的な授業を行うことができるということがわかった。引き続き、学生たちの主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外国語教育論
 授業コード 31E13-001
 教員名 浅野 享三
 教員コード 070912
 登録人数 62
 回答数 52
 回答率 83.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

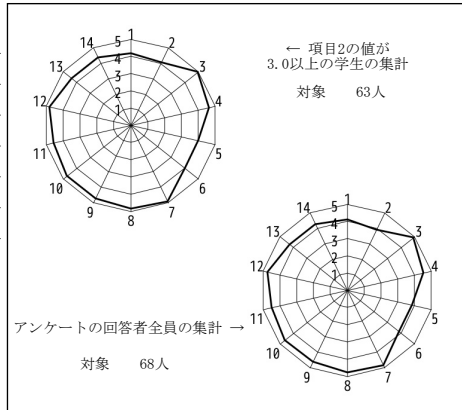


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業の「到達目標」は1. 外国語教育の変遷と現状について理解できること。2. 自己の外国語教育観の形成を目指せるようになること。3. 市民として外国語教育政策に関心を寄せられるようになることの3つであった。学生評価によればほぼ完全に達成したと判断できる。②数値データ・自由記述を踏まえると、今回はオンライン授業実施に起因すると思われる特異性に気づけた。「良かった点」については回答総数の半数が記入したため評価は控え、「改善したほうが良いと感じた点」について③の項目とまとめて自己点検する。記載があった12点中の4点は「特になし」の記載のために省略する。残り8点のうち6点は遠隔オンライン授業に起因すると思われる。具体的には「カメラをつけて欲しいならば、もう少し呼びかけるべき。zoomで入るときに鳴るインターホンのような音は切って欲しい。資料DLサーバに一気に授業で扱った資料を載せるのではなく、一回ずつ分けて載せていただけると助かります。ディスカッションのときなどカメラはできればオンにしてほしいとのことでしたが、そのことを事前にシラバスに書いてはどうでしょうか」など。次学期以降に対面式が復活すればほぼ解消すると思われるが、遠隔が継続であれば学生の指摘に応じたい。その他「授業の進行が少し早いと感じることがあり、メモ書きが間に合わないことがよくあった」は、対面式の時にもあった指摘なので、以降は肝に銘じたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英文法論<国際科目群>
授業コード	31E16-901
教員名	鈴木 達也
教員コード	017871
登録人数	115
回答数	68
回答率	59.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、すべてZoomによるオンラインで行った。到達目標は、英語の音声の仕組みについて、英語の文法について、英語の歴史的変遷及び国際語としての英語の実態について、そして生成文法論的言語学方法論について理解しているというものである。残念ながら、これらの到達目標の理解は3.88の評価にとどまり、到達目標に向けて力がついてきているかについても3.85の評価であり、十分であるとは言えない。国際科目群の授業として英語で講義を行ったことも関係しているかも知れないが、残念な結果である。一方、新しい知識を得たり、理解が深まったかどうかについては4.28、そして全体の満足度も4.25の評価であり、項目3から14の平均も4.48の評価を得ていることから、授業として失敗であったとまでは言えないと考える。自由記述欄を読むと、各種資料の提供ならびに授業の録画のオンデマンド配信等が高い評価を得ており、授業運営の面では良い評価が得られたと判断する。ただ、学生同士のディスカッションのために活用したブレイクアウトルームについては、割り当てられたルームの状況によって賛否が分かれた。国際科目群の授業を受講するための十分な英語運用能力が不足している受講生が多いことに起因する日本語の使用への対応と、受講生のオンライン授業への主体的・能動的な参加を促進する対応が今後の重要な課題であると認識している。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文学理論
授業コード	31E19-001
教員名	山辺 省太
教員コード	103138
登録人数	20
回答数	4
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

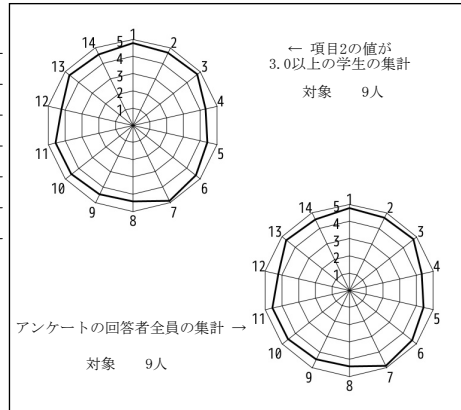
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

はじめてのオンラインの授業だったので、正直授業運営は困難を極めた。そのせいか、すべての授業が終わった後、何ともやりきれない思いが残ったが、好意的な学生のコメントを読んで救われた気持ちがあった。来年度はいつもどおりに対面式で行われることを切に願うが、オンラインで教えた経験を活かし今後の授業改善に努めていきたい。文学は学生・教員間の自由闊達な議論が重要であると、改めて感じた授業であった。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米政治特殊研究B
授業コード 31E29-001
教員名 手塚 沙織
教員コード 103911
登録人数 31
回答数 9
回答率 29.0%
休講回数 1 回
補講回数 0 回

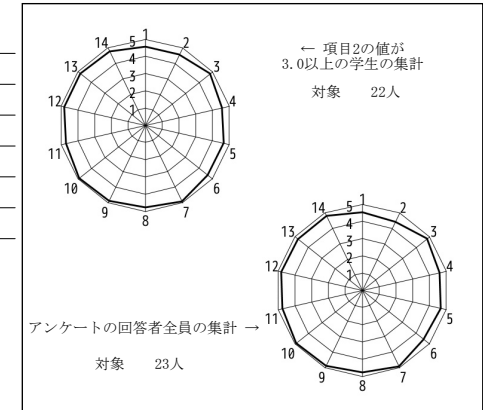


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は、① 英米政治の基礎を理解できる、② 英米政治を取り巻く国際情勢を理解できる、③ある事象に対する多角的な見方を養える、以上の3点としている。履修生は、これらの目標を概ね達成できたのではないかと考える。それは、毎回のリアクションペーパーの出来とレポート課題の出来から客観的に判断できる。だが、ネット状況や音声機器など環境的質問も含んだ回答に対し自己点検や改善点などを教員に書かせることに疑問を感じざるを得ない。それらの環境を整えるのは、大学側の責務であり、問われるのはそれらを自費で整えている教員側ではないからである。さらに、カメラオフの学生、つまりうなづいたり、首を傾げたりといった学生側の無言のボディランゲージや表情から伝わる情報が一切受け取れない上で、授業を進行することは非常に困難である。これらの情報なしに、学生側に目標を達成できているかどうかは、リアクションペーパーの出来やレポート課題、さらに講義中のチャットや「手をあげる」マークといった事後的反応からしかわからない。これらは、教員側が瞬時に理解でき、それを授業に反映させられる意味での学生の反応とは全く異なる。ハラスメントの問題などが起こる可能性から学生側のカメラオフへの配慮は理解できるが、大学として学生のカメラは必ずオンにしなければならない状態ではないといった環境的制約が強い授業を、対面の授業と同じ尺度で評価はできない。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米文学特殊研究B<国際科目群>
授業コード 31E35-901
教員名 PURCELL, William
教員コード 016501
登録人数 38
回答数 23
回答率 60.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

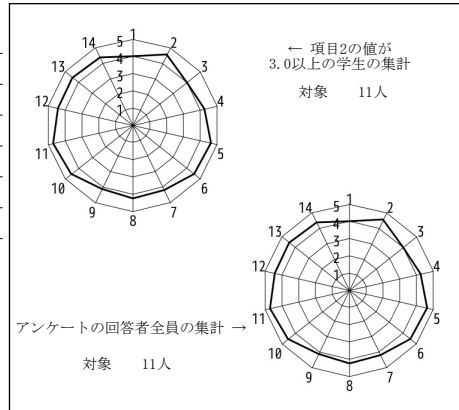


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Approximately three-fifths of the enrollees took time to answer the survey. Judging from the rating numbers it would appear there was a general satisfaction among the participants concerning the content and conduct of the course. Several also took the time to make comments, which likewise are helpful. Of those who commented, several mentioned appreciation for the use of the breakout room function as a way of encouraging student interaction. One in particular noted that it was a helpful way to get better acquainted with other classmates. I will keep this in mind and hopefully make even more use of the function in other courses. One student did note that breakout sessions were not always successful, as there were times when other group members would neither turn on their cameras or their mics. This, for sure, is a frustration I share with them and wish I could find a better way to get those students out of their shells. In some instances cajoling seemed to have some effect, but in others it did not. Like many of the participants, I look forward to the day we can once again be face-to-face in the classroom.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語教育特殊研究A<国際科目群>
 授業コード 31E38-901
 教員名 CRIPPS, Anthony
 教員コード 102357
 登録人数 19
 回答数 11
 回答率 57.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

All the goals for this course were met.

I am very pleased with how the course went. Having taught online for many years I knew that one of the keys of a successful online course is to prepare the course carefully and have enough material for the students to be challenged.

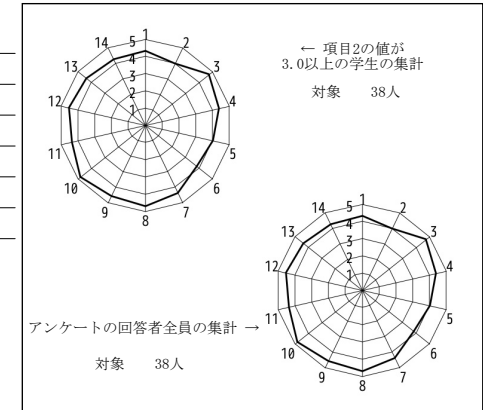
The students did well and they participated to the best of their ability. Although the class was mostly asynchronous they did some really good work - especially their end of course reports.

Many of the students gave me good feedback at the end of the course in their self-reflections. They liked the flexibility of the course.

I will take the feedback from the students onboard with a view to improving my courses.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペインの文化と社会B
 授業コード 32C07-001
 教員名 永田 智成
 教員コード 103900
 登録人数 87
 回答数 38
 回答率 43.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

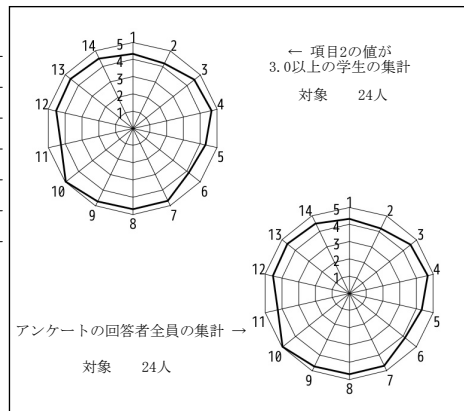
開講当初に設定した目標と到達の程度は概ね満たしたと考えている。一部で到達目標がわからない、力がついてきたかどうかかわからないという声があったので、それには対応していこうと思った。具体的には、講義の目標を改めて授業内で繰り返し述べていくなどの方法を考える。これまでは、1回目のガイダンスにあたる回でのみそのような説明をしていた。

一部で、内容が薄い、力がついてきた感じがしないというコメントがあり、それについては反省しなければならないと思うものの、そもそもこの講義は力がついてきたといったことが実感できる種類の講義ではない。講義の趣旨がスペインの世界遺産がなぜ世界遺産たるのか、その背景にある歴史的・地理的文脈を理解して、更なるスペインの魅力を得るというものである。魅了されるかされないかはあっても、実学的な学力が身に付く類の講義ではないということをお断りしておきたい。

また内容が薄いという意見もあったが、これは対象をどこにするかという問題との兼ね合いであり、外国語共通科目であるという性格から、コアなスペイン研究を披歴するのは講義趣旨にそぐわないと考えている。今後、内容が陳腐であるという声が増加するようであれば、対応していきたいと考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの文化と社会C
 授業コード 32C25-001
 教員名 中沢 知史
 教員コード 104348
 登録人数 72
 回答数 24
 回答率 33.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

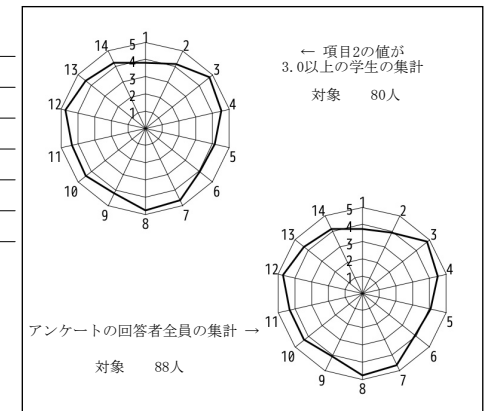


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の9月中旬は、緊急事態宣言こそ出ていなかったものの、春学期に引き続き全面的にオンライン授業を実施することとなった。よって、シラバス執筆時点での評価方法を変更することとなった。春学期に比して、Zoomによるオンライン授業の受講に関する学生のリテラシーは上がっており、技術的なトラブルは減った。他方で、講義時間中にチャット機能等を使って内容に関するコメントなどにより積極的な反応を見せる学生はやや減った。オンライン授業ならではの双方向性の高い授業を行うため、今後さらなる工夫が必要であると自己評価している。学生の授業評価は、設問1及び2の回答ぶりから、受講前の関心や積極性は特に高いとは言えなかったことが分かる。他方で、設問13及び14の回答ぶりから、当初さほど高い期待を持ってはいなかったものの、受講後には、「植民地主義及び脱植民地化の観点からラテンアメリカの文化と社会を捉える」というテーマについて理解が深まり満足した受講者の数が増えたことが分かる。回答者は全体として高い評点を本講義に対して与えているが、今後更なる改良を加えていきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域と文明C(アメリカ)
 授業コード 46B03-001
 教員名 浅香 幸枝
 教員コード 000165
 登録人数 148
 回答数 88
 回答率 59.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

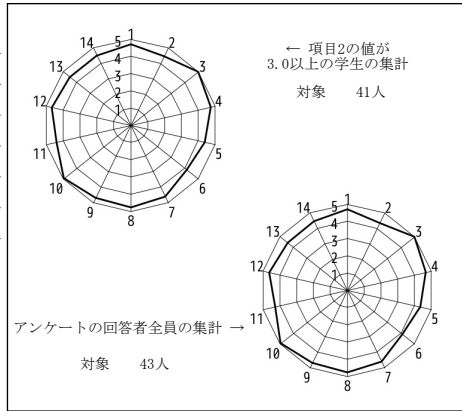


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標はだいたい達成できたと思う。
 授業5段階中4.5以上の項目は5つあり、事前に予告された開始時間が守られており、教員の声や音声機器の音は良く聞き取れたとしている。また、質問や相談の機会が十分に設けられており、課題等に対する事前・事後の指導は十分であり、担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じ、毎回の授業の構成や進行速度は適切であったと回答している。
 4.0以上の項目は6つあり授業の妨げになる行為に対して適切な対処がなされ、この授業を通して新しい知識を得て理解が深まったとしている。また、学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための適切な指導や情報提供があり、全体としてこの授業に満足し、この授業の到達目標を理解したと回答している。また、教員は学生の理解度に配慮して教科書、配布資料などを効果的に使って授業を行ったと答えている。
 自由記述欄には、最終課題を作成するために毎回学生たちと双方向の質疑応答や講義後の学生のコメント発表を評価する声が多くあった。教科書を超えて、さらに調べることを指導したかったので、一次資料となるようなURLを資料DLサーバーに入れて自学自習できるようにした。しかし、今回は教科書を事前に手に入れている学生が少なく、それをカバーする資料を配布したが、事前に学習してある学生とは大きな差が出た。学生の希望としてパワーポイントスライドやレジュメで対応してほしいという要望があり、次回の課題としたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アカデミックフランス語III
授業コード	33A28-001
教員名	真野 倫平
教員コード	100083
登録人数	56
回答数	43
回答率	76.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

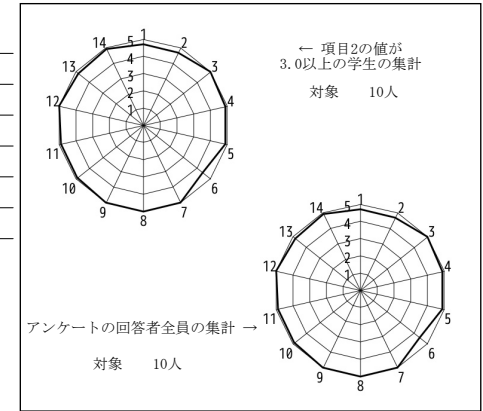


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は外国語学部フランス学科フランス文化専攻3年次生を対象とする学
科科目である。フランス語で書かれたアカデミックな文章の読解力を修得し、
学術論文で使用される専門用語の調べ方を身に付けることを目的とする。テク
ストにはフェミニズム問題を論じたイヴァン・ジャブロンカ『公正な男性』（
2019）を使用した。オンライン授業となったため、事前に履修生にテキストの
日本語訳を提出させ、授業において教員がそれにコメントしながら訳例を示す
という形式を取った。講読と並行して、フェミニズムに関する雑誌記事を紹介
したり、ブレイクアウトセッションで議論を行ったりした。登録者数はフラン
ス文化専攻所属の56名であった。①目標と到達の程度については、提出物か
ら判断するがぎり、多くの学生が学術的な文章の翻訳に習熟してきたように思
う。②総合的な自己点検・評価については、設問3～14の平均が4.58であり、
大学の全体平均4.44を上回った。教材のレベルが高かったにもかかわらず、大
半の学生は前向きに授業に取り組んでくれたと思う。③今後の改善点につい
ては、自由記述欄に、ディスカッションの機会をさらに増やしてほしいという意
見があった。今回は慣れないオンライン授業で授業が単調になりがちだったので、
今後はより多様な授業内容にするよう努力したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アカデミックフランス語II2
授業コード	33A28-002
教員名	小林 純子
教員コード	102488
登録人数	23
回答数	10
回答率	43.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

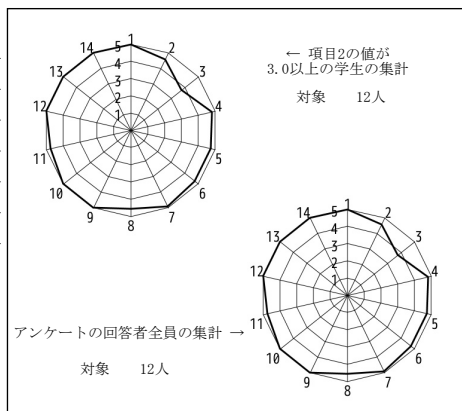
本講義は、統計データを利用したフランス語による表やグラフの読解を通じ
てフランス社会を理解することを目標に、到達の程度として資料のフランス語
が示す内容を正確に読み取ることと、読み取った内容を日本語で解説できるこ
とを想定している。資料や講義の内容を身近なことがらとして理解を深めても
らうため、説明の明瞭さに留意しつつブレイクアウトセッションでディスカッ
ションを実施した。

数値データと自由記述から、クラス規模（少人数）を活かしたディスカッ
ションを含む授業の形式と扱ったテーマそのものの双方が、受講生の興味関心、
理解度、学習意欲の高まりを一定程度確保できた一方で、受講生が到達目標を
達成できたと感じられるような授業としては課題を残していることが分かる。

それゆえ次クォーター・次学期以降では課題の期限や量に配慮するとともに
、講義で扱う情報量を適切に管理して受講生が内容を習得できたことを実感で
きるような授業を目指す。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語アトリエB
 授業コード 33C08-001
 教員名 COURRON, David
 教員コード 019026
 登録人数 17
 回答数 12
 回答率 70.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students translate Japanese into French focussing on the process which implies to analyze 1) words and expressions in order to pick up the most accurate ones, 2) syntactic constructions in both languages in order to be able to write almost-native French sentences. I particularly drew students' attention on the fundamental connection between forms and meanings.

2. Degree of achievement of initial course objectives

Students' commitment to meet the challenges mentioned above was very strong as shown by the quality of most of their preparations at home and their stimulating oral participation in the classroom.

3. Areas positively evaluated

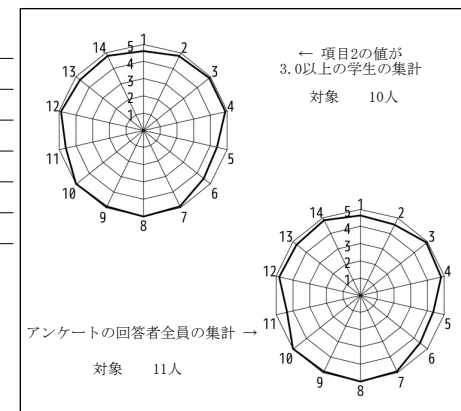
All the questions related to the course itself (topic, content, semester's program organization) and my handling the class (preparations, seriousness, availability) are positively evaluated so that they do not require any comment from me.

4. Areas requiring improvement and general remarks

A majority seems to have appreciated my precise checking of the translations they suggested, as well as the multi-level explanations that gave satisfaction to a wide range of students' expectations.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス文化特殊講義A
 授業コード 33C12-001
 教員名 吉澤 英樹
 教員コード 103584
 登録人数 34
 回答数 11
 回答率 32.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

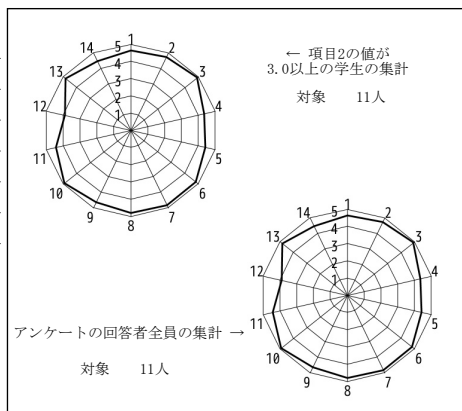


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当該科目「文化特殊講義」は自身の研究分野に近いものであり学生に対してそれをわかりやすく伝え、学生個人の問題に近づけて考えてもらうような授業目標に関しては毎回の課題とフィードバックを通してかなり達成することはできたように思える。ただし、その場合の到達程度を示すために授業内で課題に対するコメントを毎回行ったが、すべての学生にとって自身の達成度を可視化できるような機会をうまく用意できなかったという反省もあった。②数値データの結果においては概ね目標を達成できたように見受けられるが、上で挙げ学生自身の課題に対するフィードバックが甘い部分もあったことも事実であり、今後の課題として考えなければならないように思われる。またアンケートのサンプル数が少ないこともマイナス点であるといえよう。③学生が到達目標の達成を実感できるようにするために、提出された課題に対するフィードバックをより細かくおこなうようにしたい。またアンケートの回答率に関しては、授業に対する学生全員の声を可能な限り多くすくい取るためにも授業の初めなどに時間を設けて回答を促すなどの何か有効な手段を考えて対応していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語表現法
授業コード	34D04-001
教員名	林田 雄二
教員コード	017434
登録人数	20
回答数	11
回答率	55.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



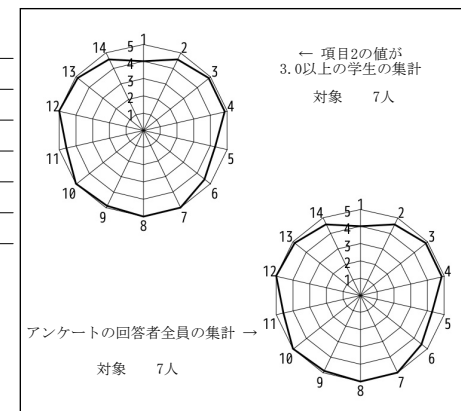
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、1年から4年生まで履修できる科目で、今回も様々な学年の学生がいた。ダイアログや詩などを使用する場合、ドイツ語力に大きな差があり、3、4年生にとっては簡単なテキストも1年生にとっては難しすぎる場合もある。基本としては、1年生の履修生が多いので、基礎的なドイツの説明が多くなり、上級生には少々退屈な場面があったと思う。しかし、文学テキストを利用した結果、内容的にはどの学年にも考える機会を与え、それぞれの学生が、それなりの満足感を感じたと思われる。それはこの授業の高い評価にも表れている。本講義の到達目標についてコメントを加える。

1. テキストの翻訳理解を超えて、実際演じることを通して言葉の真の理解を獲得することが出来るようになる。 コメント：言葉の理解なくしては音声表現が出来ない。履修生の表現力は飛躍的に伸びた。
2. ダイアログを作成することで、ドイツ語作文能力、ひいてはコミュニケーション能力を向上させることが出来る。 コメント：ダイアログを練習することによって、様々な表現を学んだ。コミカ向上を成し遂げた。
3. 他人との協働作業により、母語のコミュニケーション能力を高め、その中で互いの人間関係を深めることが出来る。 コメント：最終課題として学んだテキスト表現を参考にして、新しいダイアログを作成させ、上級生+下級生のペアで発表させた。限られた条件での発表であったが、レベルが高かった。
4. 教科書などに登場するダイアログなどを使用することで、学習内容にリアリティーをもたらすことができる コメント：この授業を通して教科書に出てくる表現をリアルに捉えることにより学習動機が高まったと思う。学生の高いモチベーションもあり、授業成果には大変満足している。何人かの学生は、11月にオンラインで開催された「南山大学・ドイツ語弁論・暗唱大会」に出場し、上位入賞を果たした。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツの経済
授業コード	34D07-001
教員名	中屋 宏隆
教員コード	102885
登録人数	9
回答数	7
回答率	77.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

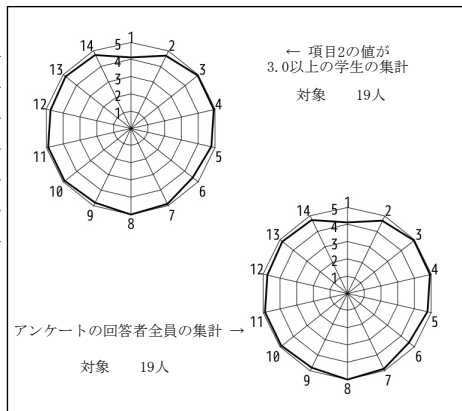


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
概ね達成した。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
項目1から14の平均：4.71
項目3から14の平均：4.79
以上の高い数値が出たが、少人数クラスであったため、当然と言えば当然。ただ、まだまだオンライン授業方法は模索中のため、来年はZoomの機能に習熟することで、より効率的な授業運営を行いたい。
今回はオンラインということで、映像資料などが使えなかったが、それでも学生には基本的なドイツ経済の知識は提供できたように考えている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後はドイツ経済のマクロ状況だけでなく、もう少しドイツ企業の情報を盛り込んでいくことも予定している。
改善点としては、youtubeなどのメディアも使い最新のドイツ経済事情なども紹介していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国文学研究
授業コード 35C13-001
教員名 中 裕史
教員コード 017830
登録人数 36
回答数 19
回答率 52.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

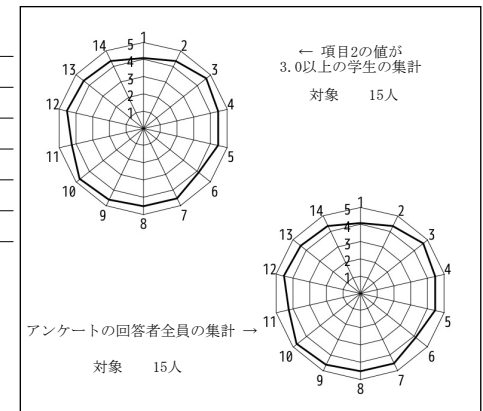
開講当初に設定していた到達目標は、中国文学の流れを把握していること、詩文それぞれについて主要な作者と作品について認識していること、および中国文学の特長について理解していることの3つである。本講義では、授業前レポートによって講義でとりあげる作家や作品についての基本的な理解をもったうえで授業に臨むように促し、授業内レポートによって講義を受けて考えたことをまとめてもらい、サイクルごとの合計3回のレポートによってさらに具体的かつ詳細な振り返りを求めた。受講生から提出されたこれらの課題を点検した結果として、上記の到達目標は概ね達成できていると感じている。

履修前の興味（設問1）が4.11と思ったよりも高かったが、到達目標の理解度（設問5）や全体としての満足度（設問14）の数値を見ると、履修前の興味を減じることなく、むしろ押し上げることができたので安堵している。初めてのオンライン授業であったが、構成や進度の適切さ（設問4）に対する評価も高く、また自由記述でも上記課題が理解度を高めるのに役立ったとする声もあって、受講生にとって一定程度有益な授業を提供できたものと考えている。

ただ、成績評価について授業の終盤で説明がなくすこし不安に感じたという声があったので、次年度からは終盤においても複数回説明をするように心がけたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国文化研究
授業コード 35C14-001
教員名 蔡 毅
教員コード 100086
登録人数 33
回答数 15
回答率 45.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価は近年一番得点が低かったもので、問題点を絞り出して真剣に反省しなければならないと思います。

統計の数値から見れば、(1)、(2) (6)、すなわち授業に主体的に参加しているか、到達目標に向けて力がついてきているかという点では、評価が十分ではありません。これは学生側の努力にもかかわらずとはいえ、自分には学生に到達目標を明白に示せず、授業の内容について説明不足、工夫は足りないという問題があるのではないかと思います。

なお、(11)、すなわち学生の学習意欲を引き出し、自主的な学習を促すための指導や情報提供という点において評価が高くないことも気になります。これは勿論自分の責任で、学生が不満であれば、適切とは言えないでしょう。

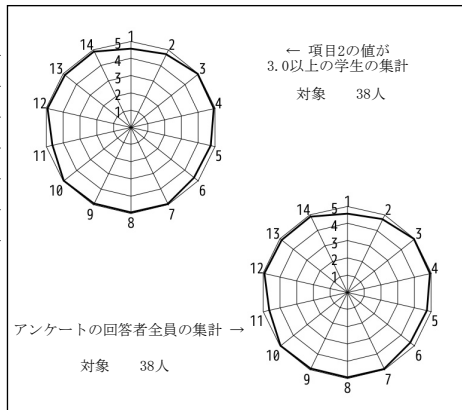
その他、学生の自由記述に、教員の主観が強すぎ、簡体字を使用してほしいなどの批判と要望があったので、これからは次の二点にさらに力を入れようと考えています。

まず、アジア学科生以外の中国語未履修受講生に授業の難易度を十分に配慮したうえで、授業の出席および予習や復習についてより具体的に要求し、学習の意欲を一段と高くさせることです。

そして、漢詩を中心としながら範囲を拡大し、中国文化の全体像を示すことができる真に「文化」という科目名にふさわしい授業を学生に提供できるように、取り組んでいくことです。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	東アジア国際政治史研究
授業コード	35C17-001
教員名	宮原 佳昭
教員コード	102232
登録人数	62
回答数	38
回答率	61.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

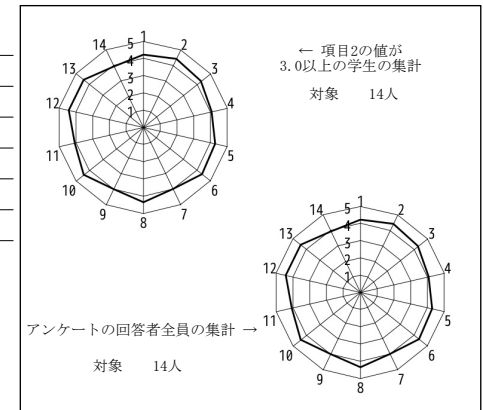
本授業の到達目標は次の3点である。①西欧諸国、アメリカ、ロシア（ソ連）などとの国際関係をふまえたうえで日中関係を理解している。②国際関係にかかわる政治・経済・軍事などの諸要因を理解している。③平素より、東アジアの国際問題に関する最新情報を積極的に収集し、その内容を理解している。

上記の目標を達成するため授業において工夫したことは、次の2点である。
①春学期と同様、オンライン双方向授業においては、pdf資料にタッチパネルで手書きして補足することで学生の理解を促した。②学生のインターネット環境に配慮し、ゆっくりと話しつつ要点を繰り返し伝えるよう心がけた。これら2点は学生の自由記述欄を見る限り、「解説をゆっくり、聞き取りやすい声量で説明して下さったので、オンライン授業特有の不安が一切感じられなかった」「オンラインである利点を活かした授業形式（書込みや線引き、地図等の活用）で、大変意欲的に取り組むことができました」と好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

その一方、学生のインターネット環境に配慮したために実施できなかったのは、映像資料の活用である。今年度は「NHKスペシャル 映像の世紀」などを学生に見せて理解を促そうと考えていたが、これができなかったことは心残りであり、来年度の課題としたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済英語1
授業コード	40C01-001
教員名	岸 智子
教員コード	100346
登録人数	44
回答数	14
回答率	31.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



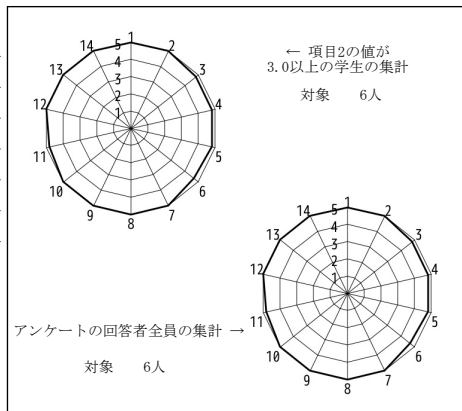
授業評価結果を踏まえた点検・評価

自由記述を読み、自分の授業にいろいろな問題点があったことを反省しています。ですが、授業中の私の発言に、学生の学習意欲を削ぐ不適切発言があったと書かれたことに関しては、困惑しています。どの発言が不適切であったのか・・・自分の授業を振り返っても思いあたるふしはありません。

自分の考えている授業と、学生の求めている授業との間に、ギャップが出てきているのではないかな？
年々、学生の考え方から離れてきているのではないかな？
つい、学生にレベルの高いことを求めてしまうのではないかな？
いろいろと考えていますが、まだ、どうしたらよいかわからない段階です。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読(政策)B
授業コード	40C05-001
教員名	稲垣 一之
教員コード	104110
登録人数	10
回答数	6
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

専門家レベルの知識が要求される調査レポートを輪読して、その内容を理解することを目標としておりましたが、この目標は達成できたと感じております。講義開始当初は日本語訳がごちなく内容理解も不十分でしたが、回を重ねるごとにレベルが上がり、講義終盤では日本語訳が大幅に改善され、内容の理解度を確かめるために出した質問に対しても、的確に即答することが出来るようになりました。その要因は、受講者数が少ないことが幸いして、一人一人の理解度を逐一確かめながら講義を進めることが出来たことと考えられます。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

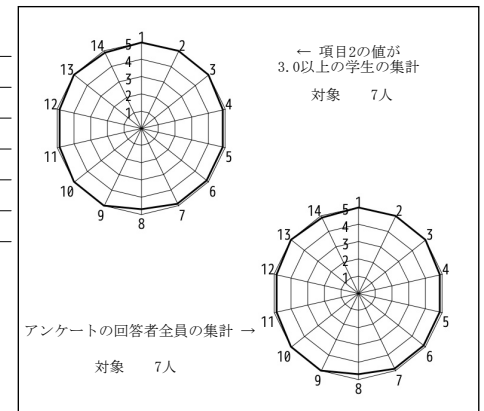
数値から判断して、アンケートに回答した全員が十分に満足しているようです。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

受講生が少なく、受講生には毎回の講義で輪読の順番が回るため、毎回十分な予習をすることが求められました。この点が受講生のレベルアップにつながったと実感しています。この状況を受講生が増えても作り出すことが出来るかどうか、同様の講義を再度担当することになった際の課題です。受講生の参加を促すような講義運営を改めて工夫したいと考えています。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読(国際)A2
授業コード	40C06-002
教員名	太田代 幸雄
教員コード	100347
登録人数	20
回答数	7
回答率	35.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】

この科目は、経済学科2年次生以上向けの選択科目であり、国際経済学の理論・実証分析に関して、英語で解説されている文献を読めるようになるための科目である。国際経済に関わるデータが英語で発表されていることも多いため、毎年度日本語文献で学習していた内容を外国語文献で学習することにより、この学問領域の理解が進むと考えられる。数値データで見ると、平均値が4.91ということで、リモートによる講義ではあったが、受講生にとって充実した感想を持ってもらえたのかと多少安堵している。

【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

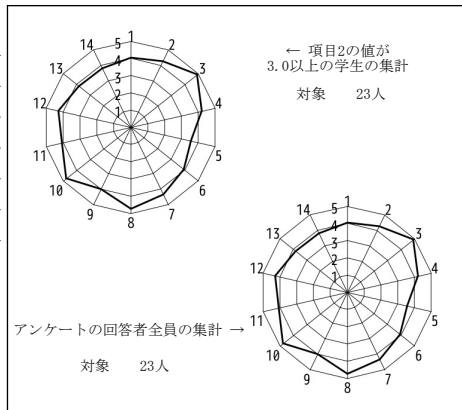
データとしては、回収率が全受講生中約35%と、これまで担当者が実施したアンケート中でも低い値であったことが挙げられる。この点は、改善して行かなくてはならないと考えている。また、アンケート結果としては、全項目で1番平均値が低かった設問(設問8)が4.71であったことを考えると、必ずしもネットワーク環境が万全でない学生がいたか、報告者側に何らかの問題があったのかもしれない。ただし、それでも4.5を上回っていることを考えると、大学側のオンライン授業のための準備等は報われているといえるのではないだろうか。その他、理解度をいつも学生の表情で確認してきたため、対面で講義できないことの不自由さを非常に痛感している。ただ、そのような状況下でも平均値で4を上回ったという事で、この科目に興味を持っている学生もいるようであると推測している。

【次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など】

自由記述欄を見ると、1人1人に担当を設けて、訳させながら理論の理解を深めるという講義に対して、受講生のニーズが向いていることが良く理解できた。今後、さらに受講生の理解が進むよう、修正を試みたいと考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ゲーム理論B
授業コード	40D08-001
教員名	赤星 立
教員コード	103866
登録人数	53
回答数	23
回答率	43.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本講義で学生に課していた目標は次の4点である。(1) 交渉問題、権利問題とはどのようなものであるか説明できること (2) 紹介される解やルールに基づいて資源配分を求めることができる (3) 解やルールの望ましさを表す諸性質が何を言わんとしているのが理解できること (4) 各解やルールがどのような性質を満たすのかを説明できること

まず、(1)については、講義中に説明をすることはもちろん、関連事項も含めて開講前配布の講義資料を作成し、そこでも丁寧に説明を行った。(2)については、講義時間中の説明に加えて、演習問題を配付することで対応した。

(3) と (4) は本講義の中心であり、その説明のために多くの時間を割いた。試験結果を見る限り、学生も十分に理解することができたと思う。

以上のことから、本講義において目標は十分に達成されたといえる。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

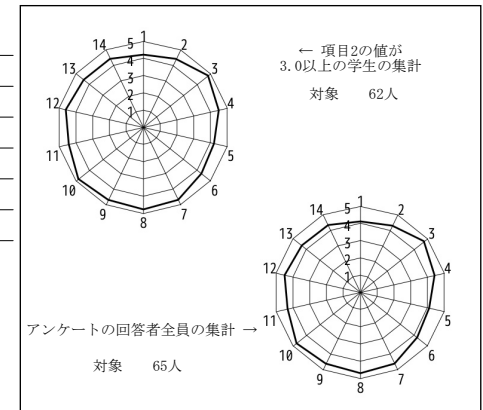
履修登録者数53名（期末試験の受験者42名）のうち23名の学生が回答されている。毎回の講義出席者は30名程度であったことから鑑みるに、実際の受講者の大半が今回のアンケートに協力してくれたことになる。どの項目についても高い評価がなされていることから、概ね満足している。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

顔が見えない中で説明をすることの難しさを痛感した。収穫は、レポートが理解確認の手段として悪くないものだと感じられたことである。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	計量経済学A
授業コード	40D11-001
教員名	大鐘 雄太
教員コード	103641
登録人数	125
回答数	65
回答率	52.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、「正しいデータ分析の初歩的・基礎的な考え方について理解できる」ことを目標とした。授業の到達目標を理解することができたかどうかに関する設問（設問5）は4.12であったが、昨年度が3.36であったことを考慮すると、今年度は目標の到達に近づいたと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

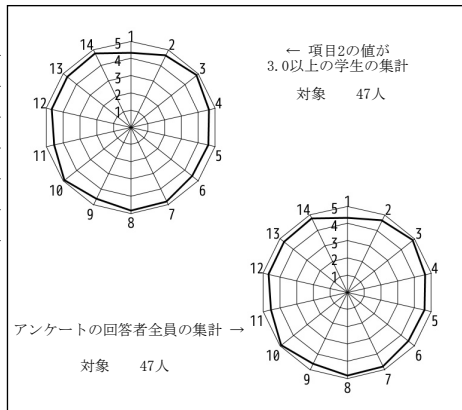
今年度はオンラインで実施したため、昨年度との単純な比較はできないが、(1) 設問3から設問14までの12項目のうち、昨年度は設問5、6、11、13、14が3点台であったが、今年度は12項目すべてが4点台であったこと、(2) 全体の満足度に関する設問（設問14）が3.82から4.32に上昇したこと、(3) 自由記述の内容も概ね好評であったこと、の3点から判断して、総合的にはよくできたと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今年度の計量経済学Aでは、授業の到達目標の周知（設問5）と到達目標に向けて力がついてきていると思うかどうか（設問6）に改善の余地があったため、次回開講時には、これらの点をさらに改善することにより、全体の満足度のさらなる向上を図る予定である。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報経済学A
授業コード	40D17-001
教員名	小林 佳世子
教員コード	100487
登録人数	132
回答数	47
回答率	35.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



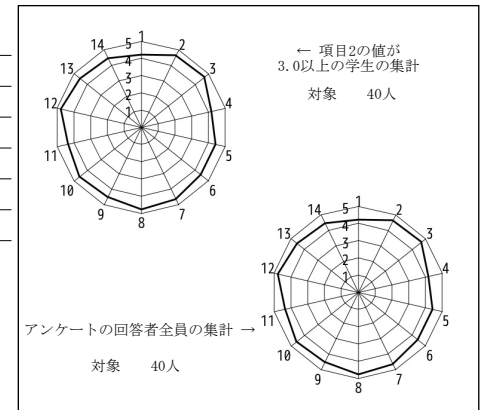
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体として、非常に高い評価となったことには素直にホッとしています。前期に少人数科目しか担当がなかったために、私にとってはオンラインとなって初めての大人数講義でした。特に最初の数回はかなりバタバタとしてしまったように思っていますし、具体的な進め方も、いろいろ反省点もあります。それでも、「事例がたくさん出されていて、とても分かりやすかっただけでなく、面白く授業を受けることができたため、自然と頭の中に入っていき、とても楽しく知識が身に付いたため、毎回の授業がとてもわくわくでした。」「事例がたくさん説明されていて、ずっと興味を持って講義を聞くことができた」など、現実の事例を使いながらの説明には高い評価ともなり、また私自身の講義の目標や狙いも使わっていることも伝わってきて、素直にうれしく思っています。

講義メモを毎回作成してもらってましたが、これも評価の声もあった一方で、もっとうまく使えたのではないかという指摘もありました。また、共有画面が少し早くてメモが取り切れないといった声もありました。オンライン特有のこうした部分の使い方については、今後さらに工夫をしていきたいと考えています。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	特別テーマ講義(経済分析の方法)A
授業コード	40D23-001
教員名	井上 知子
教員コード	019166
登録人数	83
回答数	40
回答率	48.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



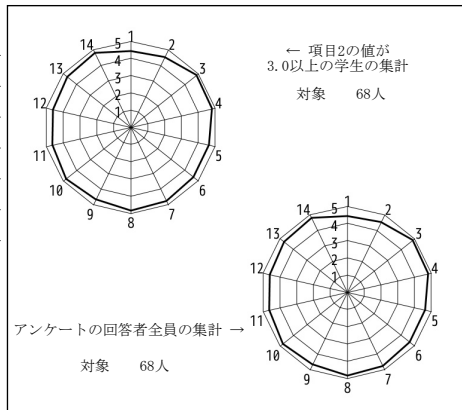
授業評価結果を踏まえた点検・評価

自由記述欄を見ると、複数人が「良い点：教員が質問に対して丁寧に答えていた」、「悪い点：質問がしやすかったために、それが授業進行を妨害していた」と書いた。質問のしやすさは大切であるが、学生からのわからないという質問について、それが「聞いていなかったから」なのか、「聞いていたのに」なのか、あるいは「通信状況が悪くて」なのかの判断がつかず、私が一様に丁寧に返したことが問題だったのだと思う。また、ブレイクアウトセッションを使ったことを評価しつつも「やる気のない人と同じセッションになるとやりづらい」といった意見もあった。講義と実習がともにあったことで、一人画面に向かって黙々と教員の話聞く苦痛がなく、内容が多面的で新鮮であった、という意見があれば、PC画面の半分はエクセル操作、半分は教員の共有画面という状況は、質問チャットを書き込む余裕もなく、ストレスが溜まるという意見もあった。

このように、同じ事柄について、良い・悪い両面があったようだが、ただ1つ良い評価のみであったのは、iPadに事前配布資料を写しそこにペンで書き込み、それをPCにミラーリングすることでリアルタイムで数式展開を見せたことである。これは、Q2の授業で「数式展開を画面にただ映して見せられても、理解するのが難しい」という意見があったために今回取り入れた方法である。ただし、この方法を実行する場合iPadとPCを他人が繋がらないWi-Fiで繋ぐ必要がある、研究室ではできないという難点がある。別の方法もあるとは思いますが、ペンの操作性や新しい方法を見つけてそれに慣れる負担を考えると、Q4も同じ方法をとるのがよいかと考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 財政学B
授業コード 40D27-001
教員名 西森 晃
教員コード 100624
登録人数 154
回答数 68
回答率 44.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の平均が4.70、問14の平均が4.78であり、それなりに高い評価をしてもらったと理解している。準備がいつもの10倍ぐらい大変だったが、大学に来られない学生にせめて授業ぐらいは楽しく受けてもらいたいと思って行ってきたことが、対面授業のときよりも高い値という結果になってホッとしている。

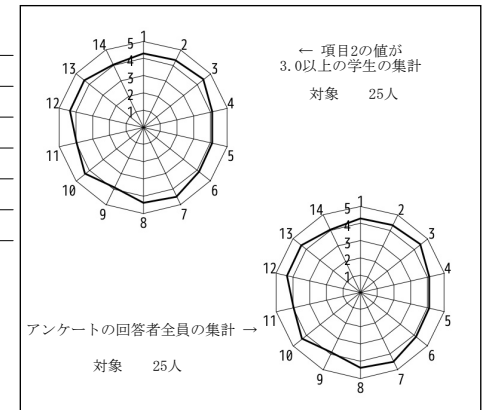
ただ、回答数が68とやや少ないので、これが受講生の総意かどうかはわからない。授業時間中にアンケートを行う時間は取ったつもりだが、もう少し繰り返しアナウンスすべきだったかもしれない。

反省点として挙げられるのは、予定の時間になっても授業が終わらなかったことが何度かあったことである。学生の反応が見えず、説明が重複してしまったり、ペース配分を間違えたりしたことが主な原因である。その分、学生に負担をかけてしまったことは申し訳なく思っている。

評価点だけでなく、自由記述欄に書かれた内容も好意的なものばかりであった。授業中それなりに厳しいことも求めてきたのだが、学生がこちらの意図をきちんと理解した上でアンケートに記入してくれたことが何よりも嬉しかった。コロナという非常に厳しい状況の中で、自分の実力を上げるために授業を受けてくれた学生が多かったことに私自身も励まされた。受講生の皆さんに心からお礼を言いたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 公共経済学B
授業コード 40D33-001
教員名 焼田 覚
教員コード 102065
登録人数 87
回答数 25
回答率 28.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

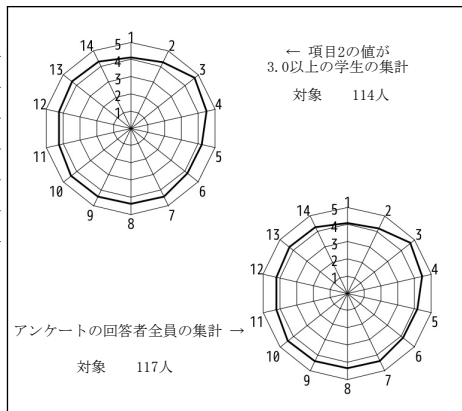


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①ほぼ計画通りに授業を進めた。2コマ続きの授業で、最初の回に2コマともZOOMでの説明は「きついです」との意見があり、1コマと多少補足的な説明と質問受付を行い、後は自主学习として、教材による自主学习とした。アンケートにあったように、内容的には、かなり難易度が高く、通常の対面授業でもかなり白板を使って制つめ意をする必要があるところであるが、断念した。そのためか、回を重ねるに従い質問も少なくなった。また、怠慢とされるかもしれないが、教室の白板をPCに写して説明したので、字は小さくなり、書き換え速度も速くなった。工夫が必要かもしれない。しかし、毎回のレポートを見る限りは、特に2年次生の理解はそれでも素晴らしく、彼らについては内容的にも目標がかなり達成できたのではないかと考える。②白板の板書は字が小さいが、少しは助けになったように記述されていた。また、質問はメールでも受け付けていたが、簡単な質問はそれでも理解してもらえたので、Q4授業でも行うつもりでいる。③Q4の授業はZoom開講であり、白板の使い方をもう少しうまくできるようにしたい。また、自主学习の教材についても詳細なしかし、要領を得たものにするよう心掛ける必要を感じている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 租税論B
授業コード 40D35-001
教員名 岸野 悦朗
教員コード 103035
登録人数 399
回答数 117
回答率 29.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業は、我国の法人税並びに消費税といった法人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について今後社会人として各種職務活動を行う上において必要な知識を身につけるとともに、税に対する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。

この科目の特性としてこれまで専門的要素が強い等の要因からか難易度が高いとの意見があり、パワーポイント資料の見直し授業の進め方等分かり易くする等改善に努めた。また、税に関する時事的な新聞記事を複数回紹介する等により学生に税に関する関心を引き起こすように配慮した。本年度はオンライン授業であったため、課題テストを5回行う方式としたが、概ね各人とも理解しており、ある程度目的は達成されたと評価する。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

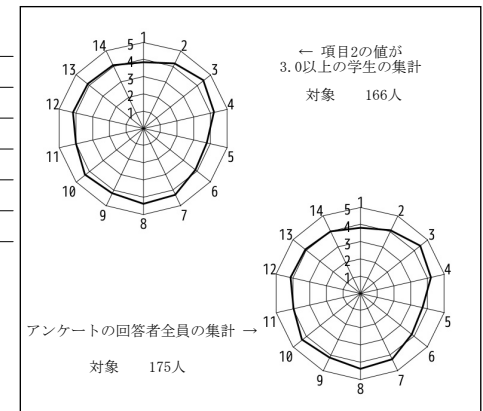
オンライン授業であり、一部聞き取りにくい等の意見がある一方で、パワーポイントの構成について評価するものがあった。冒頭での税に関する時事的な紹介は評価する声が多かった。全体としての数値的な評価は、ほぼ平均並みでまずまずの出来であると評価する。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次年度以降、パワーポイントをより工夫する等充実した内容となるよう取り組んでまいりたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 産業組織論A
授業コード 40D36-001
教員名 上田 薫
教員コード 016832
登録人数 291
回答数 175
回答率 60.1%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

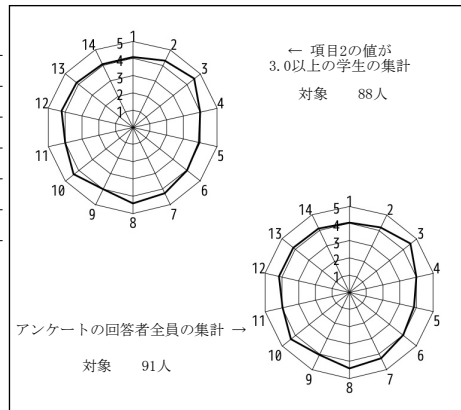
この授業は寡占の理論と競争政策の関わりについて、ミクロ経済学およびゲーム理論の基本的知識を踏まえた理解を行えることを学修目標としている。企業および独占市場の理論、さらに非協力ゲーム理論の入門的知識の概説を行なったうえで、寡占市場の理論とそこから導かれる競争政策に関する含意と実践について学ぶという構成である。当初予定した内容の85%ほどは終了できた。

今年度は遠隔授業になったため、従来から使用している講義ノートの記述を大幅に書き足し、自宅学習に対応できる内容にすることを試みた。また、授業中も学生からのチャットによる質問に対し、迅速な対応をこころがけた。幸い前回と同様に項目7、9、12の平均値のいずれも4.0を超えたことから、プレゼンテーションに関して大きな支障をきたすことは無かったようである。項目8の平均値がすべての項目の中で最も高かったことについては、皮肉にも大教室のマイクより声が聞き取りやすかったのではないかと想像される。最も平均値が低かった項目は項目5であった。本題に入る前に準備する事柄が多く、授業の4割程度を占めることが原因とも考えられる。理論科目であるためやむを得ない面があるのだが、今後の課題である。

項目14について前回に引き続き上昇しており、嬉しいと考えている。項目6、11についても4.0に近づいており、今後も工夫をしていきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジア経済論B
 授業コード 40D55-001
 教員名 林 尚志
 教員コード 017897
 登録人数 210
 回答数 91
 回答率 43.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

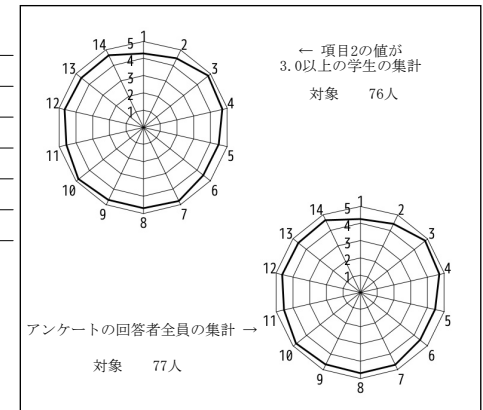
この授業では、「近年IT分野を中心に急速な技術変化が進む中、“日本企業の従来の強み”はどう変化しつつあるのか」、「その中で、台湾や中国等の各国は、どのように“中所得国の罫”からの脱出に取り組んでいるのか」等の疑問に注目しながら、日本とアジア各国との間の“新たな分業関係”のあり方への理解や関心を深めることを目標とした。また、「さぐるべき一連の疑問」を列挙した“教材プリント”および“関連資料”を事前に配布した上で、授業では“板書レジメ”を作成しながら、これら疑問に対する解答を探った。

この目標の到達度については、「アジアについて深く学ぶことができる」、「資料が多くあり、より理解を深めることができた」等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問(9)と関連し、「(板書)レジメを書き込む前に大まかな説明があり、内容を理解しやすかった」、「説明がていねいでわかりやすかった」等のコメントがある一方、「書くべき量が多すぎる」、「板書が速すぎてついていけない」等のコメントもみられたため、「講義内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、レジメ内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、「レポート課題の発表から提出までの期間が短く思える」という指摘があり、対応を検討したい。さらに設問(11)と関連し、「関連文献や資料等の紹介」でも工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心がけたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本経済史A
 授業コード 40D62-001
 教員名 林 順子
 教員コード 101007
 登録人数 202
 回答数 77
 回答率 38.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

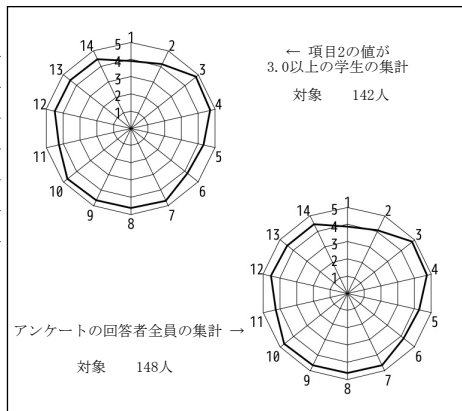
毎回「習得度チェック」として小テストを課していたが、それをみるかぎりでは江戸時代の中部経済圏の特徴や位置づけはできるようになったと考える。大人数講義であった割には全ての項目で評価が平均以上に高いばかりか、本校で授業評価を受けるようになって最も高いものとなり、正直驚いている。ただ回答率は50%を切っており、安心はできない。

効果的に使用できるか不安であったためチャット機能はオフにし、質問があれば「手を挙げる」ようお願いしたが、自由記述欄では「それはハードルが高いのでチャット機能は使わせてほしかった」との要望があった。第40の別科目の少人数講義でチャット機能をオンにしても対処可能であることがわかったものの、大人数講義においてチャットで多くの質問を受け付けられるかどうかは、まだ不安がある。ただ、毎回の「習得度チェック」でも質問は受け付け次回の講義でその全てに答えるようにしており、今回それを評価する声もいくつかもらった。

自由記述欄で最も多かったコメントが、PowerPointの字幕機能の使用が良かった、というものである。字幕を導入した当初は「邪魔」との意見も当然のことながら挙がったが、何回か訊いてみると結局、目と耳で内容が確認できる、あるいは通信環境が悪く音声途切れるときに助かる、との声が多かった。今後もオンラインが続くのなら、学生の意見をききながら続けていきたい。講義とは直接関係ないが、大学に来られない学生のために気分だけでも、毎回学内の様々な風景、特にレイモンド建築の特徴や面白さを写真で紹介したところ「毎回楽しみだった」「大学を再発見した」と声をもらった。少しでも自分の通う大学に愛着をもってもらえたのなら、とてもうれしい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本経済史B
授業コード	40D63-001
教員名	川本 真哉
教員コード	103865
登録人数	282
回答数	148
回答率	52.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について

本講義では、明治期以降における経済発展について、①マクロとミクロの視点から理解する、②今日的な課題に対し、歴史的な視点から処方箋を提示できる、という点を課題・到達目標としていた。アンケート項目5、6、13のスコアも良好であり、また、これらの習熟度について問う中間レポートについても、概ね要求水準をクリアした解答が多いように見受けられた。

②総合的な自己点検・評価

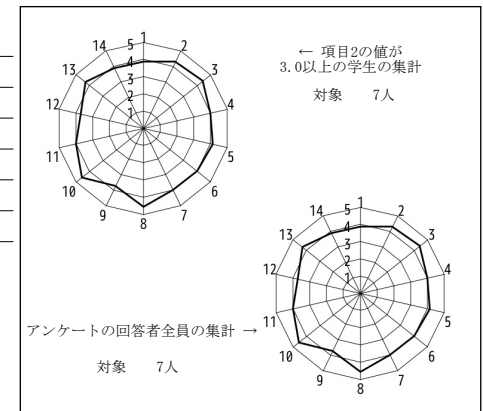
評価項目は概ね4.5前後を超えており、肯定的な評価が得られたと理解している。特に、項目3、4、10のスコアが高く、授業環境の維持について評価されたものと考えられる。その一方で、項目2、11のスコアはやや低く、受講者の学習意欲を引き出すために、もう一步の工夫があるように感じた。自由回答では、レジュメの構成について評価する声が多い反面、授業の進行速度について、早いとする声と遅いとする声があった。

③改善点、今後の抱負、方針など

授業の最後に質問時間を設け、チャットで受けつけた点は評価を受けた。これについては、対面、オンライン関わらず、続けたい。また、レジュメの内容、章ごとのミニクイズも理解を促すと肯定的な評価が多く、継続を予定している。ただ、授業の進行速度については、オンライであり、受講者の反応が捉えきれないため難しい側面もあるが、適宜呼びかけるなど、改善に努めたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	職業指導論
授業コード	40E09-001
教員名	高田 一樹
教員コード	102887
登録人数	28
回答数	7
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

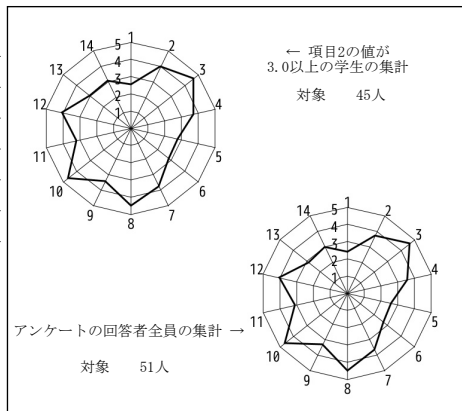
① 高等学校教職課程（商業科）の必修科目として開講している。将来的に高校生にキャリアを教育・指導することを念頭におきつつ、例年、教職志望者は限られる。そのため大学卒業後の人生設計に興味を持てるよう、キャリア発達に関する基礎的知見の修得を目標に掲げた。今期、オンライン方式で実施した結果、例年通りの目標を達成できた学生と、課題の提出が途絶えた学生に二極化した。当初の計画通り授業を実施できたとは言い難い。

② 上述の背景もあり、前年との比較において授業評価は全体的に低調だった。とくに設問9と設問12への評価が3.71と低く、双方向型の授業ができていなかったとの評価として理解している。ただしアンケートの回答数が少なかったことに加え、一部学生が極めて低い評価を下したことが全体評価を引き下げた。他方、自由記述欄には、スライドが分かりやすかったや、話題が興味深かったなど肯定的なコメントもあり、前向きに受け止めたい。

③ オンライン方式では、例年通りの課題量が受講者に少なからぬ負担を感じることが分かった。各自の人生経験や、講義内容に関する意見を文章で表現する機会は必須のものとする。だがオンライン授業を継続する場合には、課題の分量や設問内容に検討を加える必要を覚える。また、アンケートへの回答を口頭、文書で3度求めたものの、前年度以上に回答率が伸び悩んだ。引き続き回答率向上への工夫を検討したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計学I11
授業コード	42B02-001
教員名	松井 宗也
教員コード	102275
登録人数	132
回答数	51
回答率	38.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



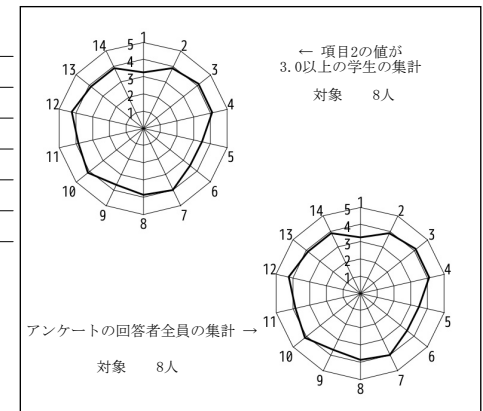
授業評価結果を踏まえた点検・評価

前年度と同様に「経営学を学ぶ上で将来必要となる統計的な考え方を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は標準的な教科書に沿ったもので、数学的に高度な内容をやや噛み砕いた初等的なものである。他大学（南山大学と同程度かやや上の難易度）と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。定期試験の結果から判断すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難いが、授業目標の6割から7割程度は達成できたと感じている。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってあげれば良い。

以下では授業評価集計を踏まえ反省点を述べる。設問3～14の平均値と設問1～14の平均値は3点半ばであり、評価基準をクリアした。コロナ禍の影響でオンラインとなりどうなるかと思っていたが、意外と評価は下がらなかった。次年度もオンラインが続くと思われるが、学生の反応を観察しつつ更に良い評価が得られるよう努めたい。平均値が低いのは設問5と6、と設問13と14である。特に前者のグループの平均値が低い。設問5、6ともには2点台後半の評価しか得ておらずこの点は反省したい。前年度と同じく、原因は、シラバスの到達目標を実感し難いことが挙げられる。多くの学生は経営学を学び始めたばかりで、経営に統計がどう役立つのかを理解できていない。単に選択必修だからという理由で学んだ学生がほとんどある。今後はさらに具体例を多用し、統計学が経営にどのように役立つか示しながら授業を進めたい。そうすれば、到達目標へ向けた新しい知識の習得や理解が進んだと学生に実感してもらえると考える。設問13に関してやはり、統計学の経営における役割がイメージしにくいことが挙げられる。学生には単に知識の暗記に過ぎないと考えられているかもしれない。設問5、6と同様の改善策が考えられる。この改善策を実施し、学生に「使える技術的な知識」を身に付けたという満足感を与えられれば、設問14の「満足度」は自ずと上がると思われる。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ファイナンスB
授業コード	42C08-001
教員名	竹澤 直哉
教員コード	101191
登録人数	31
回答数	8
回答率	25.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年も授業目標を以下のように設定した。

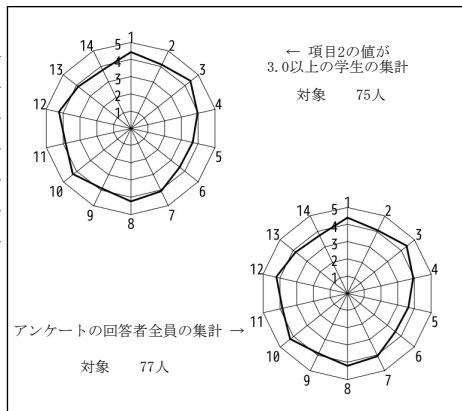
- ・ 企業価値、資本コスト、キャッシュフローリスクの概念を理解し、企業財務に関する諸問題に応用する知識を修得すること。

今年も、履修者の基礎知識の差が大きかった。問1からもわかるように、授業に対する興味に大きな隔たりがみられた。このため、多くの時間を質疑応答に割くように努力したが、ZOOM授業による授業運営の難しさもあり、授業に集中できる環境になかったため、例年に比べて限られた学生しか参加しなかった。この影響が項目は設問4, 5, 6の評価を下げたと思われる。2017年の評価と同じような傾向であるものの、全体的に評価が下がった原因は2の評価を与えた1人によるものであることがわかった。問1にも1人が2の評価を与えており、授業に興味のない学生に興味を持たせることができなかった点が原因であると推測される。

以上の分析を踏まえると、今年の授業目標は概ね達成できたと評価する。今後は、この授業で得た知識が確実に身についたかどうかを自覚できるような創意工夫をほどこすことを検討する。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング論B1
授業コード 42C10-001
教員名 南川 和充
教員コード 100478
登録人数 150
回答数 77
回答率 51.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

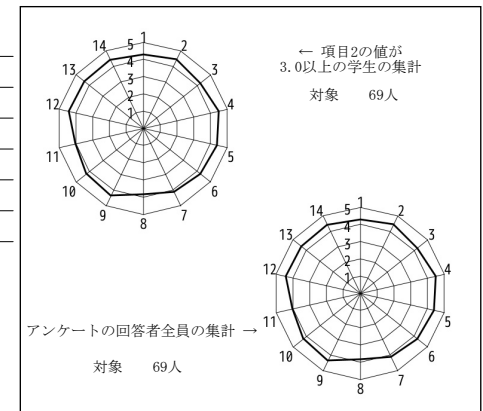


授業評価結果を踏まえた点検・評価

回収率51.3%は前回43.9%よりやや改善したが、項目1を除く全項目が経営学科科目での平均点を下回っており、毎回のごとく反省している。しかし今回は、長年にわたり低迷していた本科目の授業評価結果は全項目でこれまでにない改善をみた。これは偏に、授業のオンライン化のもとで受講生が受講態度や取組を改善してくれたことによる効果だと考えている。到達目標は(1)(2)(3)(4)の4つ(シラバスを参照のこと)を設定した。この目標を達成するために例年と同様に中間試験および多くの演習を課した。目標(2)(3)について肯定的評価が自由記述欄に数件あった(課題や授業等で身近な事例をもとに考えてくれていて、わかりやすかった。課題で考えるのはとても面白かった。)(1)については期末試験直前に要点を整理した演習を実施して理解の定着を図った。これを真面目に勉強したか否かによって、実際に出题した期末試験(オンラインで実施、成績評価全体の30%)の出来不出来が受講生で分かれたようであったが、総じて好成績であった。課題の数は多すぎたかと心配したが自由記述欄では否定的評価はなく、「課題の量が多すぎたり少なすぎたりするわけではなく適切な量だった」など多くあった(ただし、課題の分かりにくさについて指摘があった)。次回以降も課題の数を精選して内容を分かりやすくするよう改善したい。自由記述欄の「改善すべき点」の多くは私のオンライン操作の手際のまずさに関するものであった。また、受講生の授業中の理解度をうまく把握できず、「詳細に説明するために同じような解説を繰り返しされていて、進みが非常に遅く感じた。」、「当初のスケジュールより進捗状況がかなり遅れてしまい、説明を割愛してしまう部分が出てしまったのは残念だった。」という自由記述があった。今後は説明がくどすぎたり、逆に疎かになったりしないように改善したい。実際に力がついているにもかかわらず項目6の評価が低いことを改善するために、次年度の方針としては、回収した課題を個別に丁寧にフィードバックするなどをして、力が身に付いていることを受講生に実感させたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 財務会計論B
授業コード 42C12-001
教員名 安田 忍
教員コード 101561
登録人数 191
回答数 69
回答率 36.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

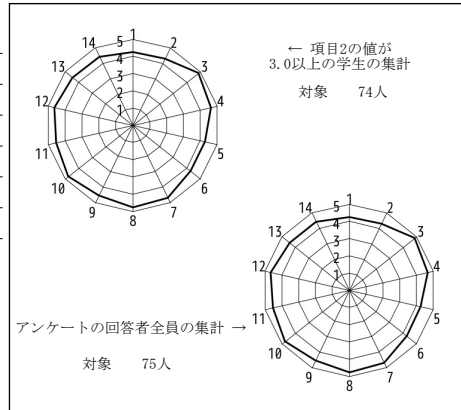


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、財務会計論のうち、とくに貸借対照表の表示、金融資産、事業用資産、純資産の会計について、会計基準や会社法等の内容と考え方、それらと会計処理との関係を理解し、財務諸表の表示内容と財務情報の意味を理解することを目的としている。本授業も、コロナ禍の制約の下で行われた。春学期の経験から、対面授業と同じような感覚でレジュメを用いて学習することができれば、学生の理解度は高まるとの感触を得たので、レジュメの内容や表現を工夫して、各自が取り組む形にした。また、授業ごとに計10回の課題の提出を要請した。その内容は、定期試験を想定した内容となるよう、ポイントを絞った適量にするよう心掛けた。質問はZoomおよびメールで対応した。課題はほとんどの学生が10回すべて提出しており、内容の理解が授業目標に到達していると思われる。授業満足度は4.4であったことから、授業の工夫に対してある程度の評価が得られたようである。また、自由記述18件が寄せられたが、レジュメが分かりやすかった、課題が明確で取り組みやすかった、Zoomでの質問の機会があつてよかった等の内容であった。こちらの意図した取り組みを学生も感じてくれたことにほっとしている。対面授業であっても、今回の経験を活かし、より分かりやすく、学生が自主的に取り組める授業を工夫していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営組織論B
授業コード 42C14-001
教員名 安藤 史江
教員コード 019554
登録人数 197
回答数 75
回答率 38.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

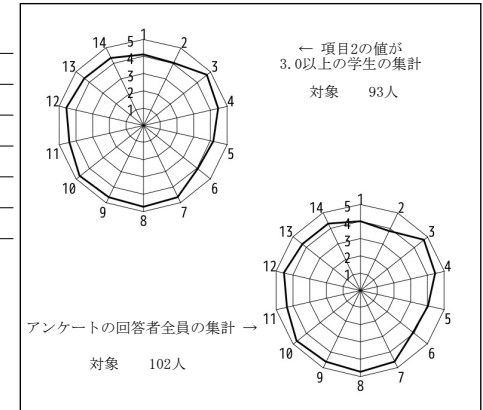


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初は、経営組織論の中でもまだそれほど普及していないトピックスを取り上げることもあり、その基礎知識を自分自身に近づけて理解し、それを必要な場面で活用できるようになることを目指した。その結果として、問13のように、「授業を通して新しい知識を身に着けることができたか」という項目に対して、4.4を超える評価を得た（経営学部全体では、4.14）。また、問11「学生の学習意欲を引き出せたか」という項目についても、4.5を超えた（経営学部全体では、4.12）、などの数値データを踏まえると、その目的はある程度、達せられたのではないかと考える。また、学生が連続するオンライン授業で心身ともに疲弊しないよう、必ず途中で休憩時間をはさむとともに、課題は最低限に抑え（全3回+期末レポート）、その分、授業内で集中できるように、互いにディスカッションするワークの時間を用意した。これについては、その時間があることがよかったと評価する声もある一方で、誰も話さず、無言の時間だった、などの自由記述もあったことから、次の学期に関しては、工夫の余地があると感ずる。具体的には、ワークのたびに4名ほどにあてて回答を披露してもらったが、それに加えて、今度は各グループから1名チャットで記入してもらおう、などの方法を考えたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営史B
授業コード 42C16-001
教員名 中島 裕喜
教員コード 103065
登録人数 219
回答数 102
回答率 46.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

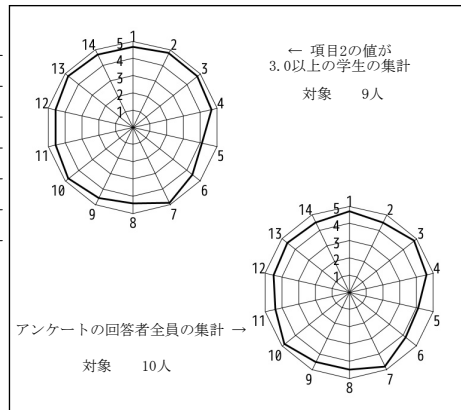


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①今回の経営史Bはオンラインということで昨年までの講義資料では難しいテーマがあり、急遽新しい素材を用意する必要があったため、学生の満足度が下がるのではないかと心配したが、全体と通して4点を超えていたので、概ね学生に講義内容を伝えることに成功したものと考えている。②コミュニケーションを図るため、チャットやWebClassを活用することを心がけたが、記述回答では教員から学生にコメントを返したことでモチベーションがあがったという記述があり、今後も取り入れていくべきであることがわかった。③一方で、「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」という設問は4点に届かなかった。学生本人の好奇心の持ち方に影響を受ける項目であると思うが、経営学部で歴史を学ぶことの意義について、十分に理解されていないと考えられるため、導入部分の講義内容をもう少し丁寧に準備するべきではないかと考えた。また講義に積極的に意見を寄せてくれる学生と、そうでない学生の差が開いてしまうのではないかと懸念もあり、今後の検討課題であると感じた。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 資本市場論(債券・株式)
授業コード 42C19-001
教員名 池田 亮一
教員コード 101880
登録人数 36
回答数 10
回答率 27.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標は「債券や株式の性質や、その価格決定理論について説明することができるようになる。」であったが、最終レポートを見る限り出来は比較的良好、目標は達成できたものとする。登録人数に対して最終的に残った割合が7割程度で、さらにその中でアンケートに答えた割合も余り多くなかったため、アンケートの回答数が少なく客観的評価が難しいが、アンケートの回答としては好意的な結果が並び、学生にとっては有意義なものであったのではないかと考える（特に強要したわけではないが、最終回の終わるときにZOOMの拍手マークを提示してくれた人が数名いたこともその根拠である）。

授業としては、難解ではない（とこちらが考えている）レベルの数学や統計を使用することにより受講のハードルが上がり、受講人数が伸び悩んだり、途中で受講をやめてしまう人が出ていることが残念である。授業の初回にできる限り数学を使わず経済学的な直観に頼る説明をするようにアナウンスをし、実際の授業でもそれを心掛けているものの、本学部の学生の数式に対するアレルギーはやはり大きいのであろうと感じた。この授業を行うのは2回目であるが、次回までに受講生の最終回までの定着率を上げる方策を考えたいと思う。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 デリバティブ
授業コード 42C33-001
教員名 赤壁 弘康
教員コード 100788
登録人数 7
回答数 1
回答率 14.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

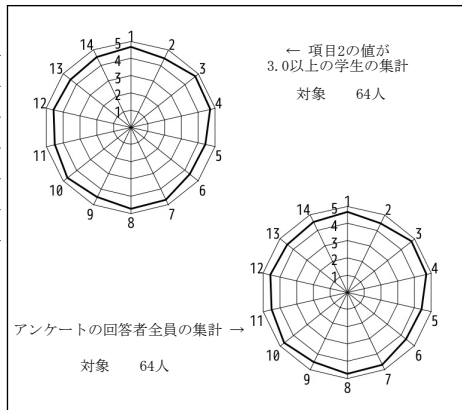
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 構造型信用リスクモデルの端緒となったマートンモデルを除いて、ブラック・ショールズのオプション評価公式を中心に、予定していた内容はすべて講義できた。講義内容の理解を補助するために、映像資料を講義2回分視聴した。
- ② オプション評価理論は文系学生にとっては難解とされる。この内容を、初等的統計学・数学で導けるように、講義内容を工夫した。それでも受講生には大変であったろうが、Zoom授業参加し続けた受講生はこれまでに学んだ知識を総動員すれば公式が導けるということ、一定程度理解できたと思う。
- ③ さらに受講生の理解を促すように講義内容を見直すとともに、新たな練習問題を設定したい。ただし、公認会計士試験や証券アナリスト試験などの資格試験等では、いまだ二項株価モデルにもとづくCRRオプション公式に限定して出題されているため、現実の資格試験過去問だけで教材を構成することはできない。連続時間モデルであるブラック・ショールオプション評価理論の練習問題を工夫することが課題である。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ブランド・マネジメント
 授業コード 42C35-001
 教員名 石垣 智徳
 教員コード 101889
 登録人数 189
 回答数 64
 回答率 33.9%
 休講回数 1 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

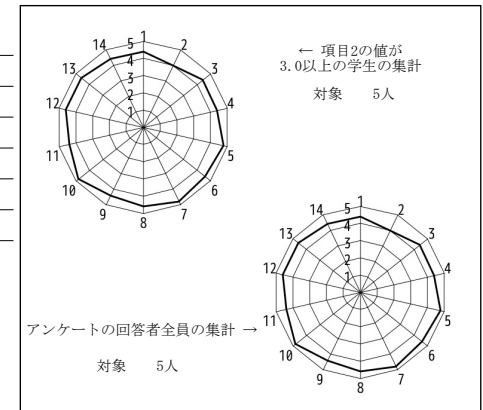
設定していた目標と到達の程度については、「ブランド戦略を構築するための理論的枠組みを理解することができる」「ブランド・マネジメントの意思決定課題を発見し、戦略を立てることができる」を掲げ、理論や考え方については充分時間をかけて説明した。また、事例をできるだけ多く提示することも心掛けたので目標は達成できたと考えている。

担当科目に関する総合的な自己点検・評価は、Zoomであるため従来問題になりがちな授業中の私語はなくなった。14項目から構成される学生アンケートの結果は4点以上であり、学生からも一定の評価があったと考えている。記述回答のところで、Zoom授業の長所である「授業録画が見られるので復習しやすい」というコメントがあった。また、対応を考えるべき点として「チャットで授業が頻繁に止まるので気になった」「課題提出の時間設定を見直してほしい」などがあり、今後適切な対応をしていきたい。

今後に向けての改善点、今後の抱負、方針などについては、コロナ禍であり、特殊な状況であるが、授業中の私語はZoomによってなくなり、板書が見えにくいなども解消されたが、今後はまだ未体験の対面授業とオンライン授業のハイブリッド型に対応できるようにしていきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 TOEIC Preparation2
 授業コード 42G14-002
 教員名 HEATHER, James
 教員コード 103649
 登録人数 12
 回答数 5
 回答率 41.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal at the outset was to follow the textbook and use Zoom meetings to expand on each of the topics covered with extra handouts, breakout room activities, and hands on examples in order to reinforce the learning points from each unit of the textbook. Moreover the goal was to complete all of this while doing Emergency Remote Teaching due to the COVID19 pandemic. I'm pleased to report that the goals were achieved successfully.

It is difficult to imagine what the students thought of the subject as we never met in person. The responses to the questionnaire indicate that students enjoyed the class and were satisfied that it was of value to them. Students however, have little notion of the extra preparation that was required to put this course online this year. For this reason their responses seem only partially relevant to the teacher's assessment and evaluation. Simply put: I'm satisfied.

It will be difficult improve upon last year's course. The challenge to suddenly be required to deliver quality, meaningful online classes required maximum amount of effort. The learning curve was steep and the support minimal. I'm pleased to report the course was delivered to my satisfaction.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(労務)
授業コード	42G20-001
教員名	澤井 実
教員コード	103270
登録人数	6
回答数	4
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

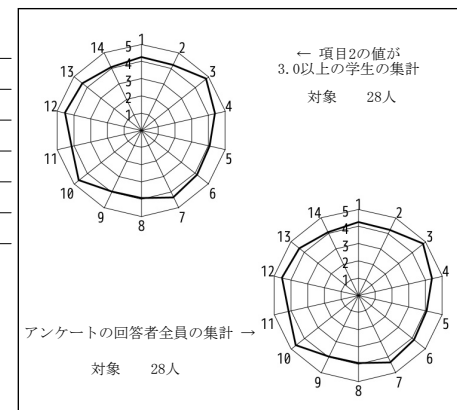
授業評価結果を踏まえた点検・評価

長文の英語論文を読む能力を養成することが本科目の目標であるが、きわめて少人数（6名登録して最後まで受講した者は4名）であったこともあり、4名全員がアンケートに回答してくれ、それぞれにある程度の満足を示してくれている点はうれしい。事前に予想されたことであるが、受講者の英語能力の差はきわめて大きい。能力の高い者には物足りず、低い者にはついていくことが困難という基本的な問題がある。そうした課題を少しでも軽減するために、使用語彙のなるべく少ない（辞書を引く回数なるべく少なくすむ）経営史関係のテキスト（著者はフランス語圏のスイス人）を選択した。この狙いはある程度は功を奏したように思われる。

課題の一つが受講者が英語読解に集中し、経営学、経営史のテキストの内容を検討するという姿勢が弱くなる点である。たんに英語を読めるというのではなく、書かれた内容を理解し、より高次の英語文献に進むことを促すことも本科目の目標であるが、この点は残された課題が多い。関連する日本語文献を示してもなかなかそこまでは読んでいないことが多く、英語文献の内容を堪能するという点ではさらなる工夫が必要であることを強く感じている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	商業簿記中級II
授業コード	42H02-001
教員名	白木 俊彦
教員コード	101090
登録人数	37
回答数	28
回答率	75.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

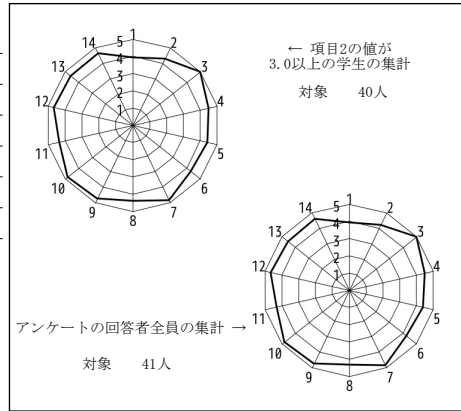
本講義の到達目標は、日本商工会議所主催の商業簿記検定試験2級程度の内容とした。具体的には、株式会社会計の基本、連結財務諸表などのグループ組織集団の財務諸表作成を理解することとしている。商業簿記中級Iを基礎として、リース会計、外貨建取引の会計、税効果会計などの個別会計領域の内容も含まれ、学習すべき内容も多く複雑になっている。各論ごとの多くの演習に対する十分な時間を確保することが難しかったが、zoomによる試験であったこともあり対面の講義形式よりも成果はあったようである。

授業評価では、個々の項目を見ると高い評価であったと思うが、オンライン講義の運営で十分な評価ではなかったため、全体的な評価は下がってしまった。しかし、こちらの熱意は伝わっており、質問、相談の機会が与えられた点は評価された。検定・資格試験に向けての準備にプラスになったという記述もあり、資格獲得に向けて挑戦しようとする学生が増えることを期待する。他方で、課題時間の不足についての指摘など、オンライン講義の不十分であった点は、提示資料の準備も含めて対応を考えたい。

全般的に、平均を上回る授業評価であったが、より満足が行くよう継続していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本国憲法4
授業コード	12C03-004
教員名	沢登 文治
教員コード	017863
登録人数	95
回答数	41
回答率	43.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

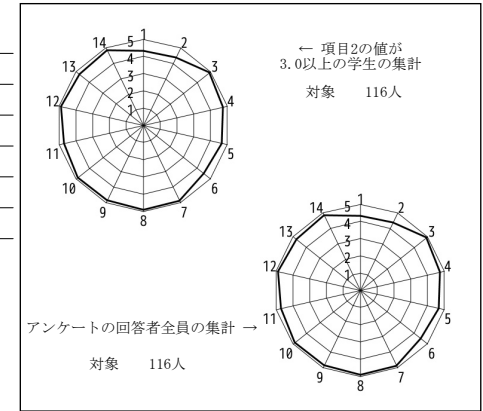


授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修生の多くは1・2年生であった。学生にとってもZoomによる授業が3つめのクォーターとなり、やや慣れてきた感じではあった。予習・復習に関しては、DLサーバーからレジュメをダウンロードして、目を通してから授業に臨むよう、また、各回のレジュメの最後に付けた理解度チェック項目を利用して理解度を各自図り、分からないところは質問するように、授業中にも理解度チェック欄を示しながら利用を促した。そのためか、(2)「予習や復習、主体的に授業に参加」は先回の3.61から4.22と上昇したことに少々驚いた。これを継続したい。(5)「授業の到達目標を理解すること」も先回の4.04から4.39へ上昇、(6)「到達目標に向けて力がついてきている」が3.83から4.24へ上昇と良くなったので、本当に有難いことと感じた。ただ、(11)「学習意欲を引き出し積極的な授業参加を促す工夫」は、4.00から4.34に上昇したが、さらに工夫したい。レジュメは、DLを用いて、最近の新聞記事や省庁のWebsiteを紹介し、レジュメからすぐに飛べるように工夫しているが、それを利用してチェックしてくれたかもしれない。(12)「質問や相談の機会」については、毎回時間を取っていたためか4.61から4.68で、それほど変化はない。チャットおよびWebClassの質問箱、メールなど、利用したい方法を利用してもらったことが良かったかもしれない。継続してコミュニケーションを取りたい。(14)「全体の満足」は4.22から4.61に上昇したが、まだ改善の余地はあろう。向上に向けて取り組みたい。自由記述欄では、「画面共有」で可能となるが、映像・視覚資料を利用した点が、「理解を深めた」「映像を使った説明はことばだけでは伝わらないものが学べて良かった」など、学生らしいコメントが複数あった。できる限り継続していきたい。また、「音声聞き取りづらかったです。マイクの音量を上げた方がいいと思いました。」とのコメントがあった。Zoom授業では致命的なので、注意しながら授業を展開したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人権をめぐる5
授業コード	13C05-005
教員名	森山 花鈴
教員コード	103223
登録人数	315
回答数	116
回答率	36.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

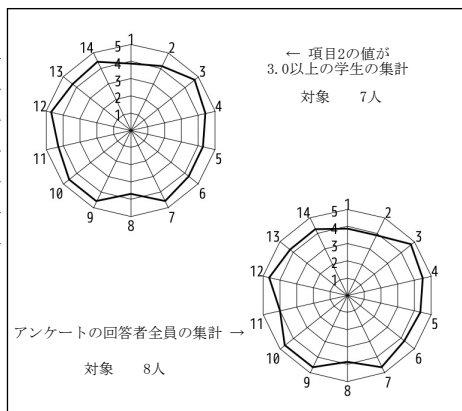


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標についてはは到達していると考え。主に自殺や人権に関する問題について、学生自身が深く学び、考えていることが授業中のチャット、オンラインでのリアクションペーパー、レポート課題から確認することができた。
- ②大学全体の平均値、学際科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値をすべての設問で超えることができた。自由記述欄では「毎回の課題の量や映像資料など、学生のことを考えて提示してくれていた。」といった課題の量や映像資料に関する評価や、「レジュメも授業の内容が詳しく書いてあり分かりやすかった。」など、レジュメや説明の丁寧さについて評価があった。さらに、受講人数が多く、かつオンライン授業だったものの、ウェブクラスを通じ質問を集め、次の授業までにできる限り毎回学生からの質問には答えていたため、「どんな質問でも丁寧に答えてくださって、他の生徒から出た質問からも理解を深めることが出来る授業であった。」等の評価が多くあった。ただし、自分とは関係のない質問は後半にまわしてほしいという意見もあったため、この点は配慮していきたい。さらに、授業中にチャットでも質問やコメントを受け付けていたため、「オンライン授業の特徴である「発言のしやすさ」をフルに使った授業だと感じました。」との評価もあり、オンライン形式でも授業はスムーズに実施できたように思う。なお、インターネット環境には注意していたため、オンライン授業の際の授業環境への不都合点は特になかったようで、その点の自由記述は「特になし」との回答ばかりであった。
- ③学生から質問を随時募集し、授業の前半で前の回の授業への質問に答える形式については毎回評価が高いため、次クォーター以降も形式を検討しながら引き続き実施していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 倫理学総論
 授業コード 44A15-001
 教員名 ALVA, Reginald Joaquim
 教員コード 102369
 登録人数 14
 回答数 8
 回答率 57.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



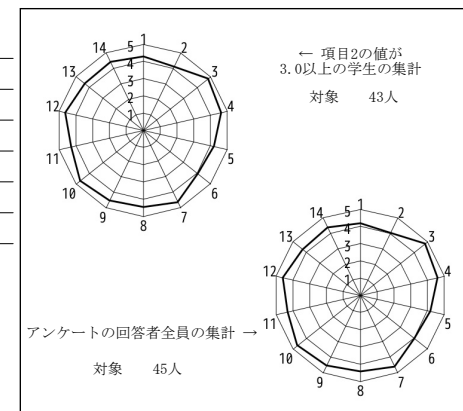
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回初めて、「倫理学総論」の授業をオンラインでやらせていただきました。この授業は受信室からも受講することになっていましたがやはりそれは不便なことになりました。なぜなら、受信室のマイクが周辺のノイズ等を拾っていたので音声に乱れが生じていたからです。また、受信室から誰も受講しなかったので受信室の必要性を感じませんでした。では、この授業が学生がよく理解できるように様々な工夫をしました。その結果、多くの学生が授業の内容と到達目標を理解してくれたような気がします。また、授業中に学生たちに資料を音読していただいたり、ご自分の意見、感想等を述べていただいたりしていました。そのため、学生たちも慎重に授業に参加することが出来たと思います。授業中に意見交換の場が設けられたので我々全員が同じことでもそれを様々な角度から取り上げることができたと思います。この授業を受講した学生たちは次のようなコメントをしています。「聖書の考え方などを深く知ることができた。」 「生徒が自発的に参加できる点。」

これからも学生たちの声を大事にしながら授業を改善していきたいと思

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法総論B
 授業コード 44B14-001
 教員名 洪 恵子
 教員コード 103537
 登録人数 117
 回答数 45
 回答率 38.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

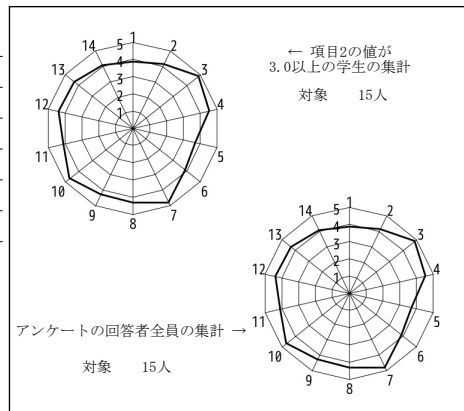


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①zoomによる「同時双方向型」授業であったため、特に「同時双方向型」授業に関して文科省から要求されていること（質疑応答などによる十分な指導、学生の意見の交換の機会）に留意して授業を進めた。
- ②Q2では授業中のチャットの使用は制限していたが、Q3の国際法総論Bではチャットを開放し、また授業時間中に質問の時間をとるなどしたことは、学生からも高評価を得た。
- ③今回も明らかに授業にほとんど参加していなかったと思われる受講生からの自由記述がみられた。毎回要請している通り、授業への参加の有無にかかわらず回答でき、また匿名のために誹謗中傷を書きやすい現行の方式を改善すべきと思われる。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際私法B
授業コード 44B30-001
教員名 青木 清
教員コード 017855
登録人数 27
回答数 15
回答率 55.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンラインによる授業であり、どのような結果が出るのか大変気になるところであった。結果は、ほぼ例年と同じであった。項目1から14の平均が4.29、項目3から14の平均が4.33であった。

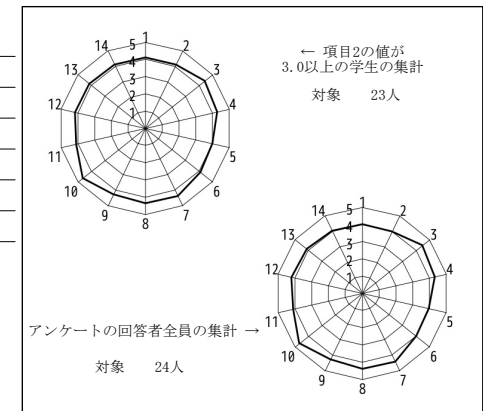
項目3から14の中で3点台だった設問は、設問5と6である。これら両設問は、授業の到達目標に関する設問である。本講義では、その到達目標を、次のように設定している。

1. 準拠法の決定の仕方を理解する。
2. 決定された準拠法の適用の仕方を理解する。
3. 国際裁判管轄の構造を理解する。
4. 涉外事件の処理の基本を説明することできる。

設問5と6の評価結果は、受講者からすると、これら到達目標と毎回の授業内容が必ずしも十分には繋がっていないということであろう。国際私法という法律学は、他の法分野と異なり、かなり独特な法体系を有している。そのため、その入り口の所ですまなく学生が少なくない。回答結果も、そのことと無縁ではないと思われるが、いずれにしろ、来年度以降は、毎回の授業の位置づけを、従来にも増して積極的に説明していきたいと考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法哲学B
授業コード 44B32-001
教員名 服部 寛
教員コード 103600
登録人数 147
回答数 24
回答率 16.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

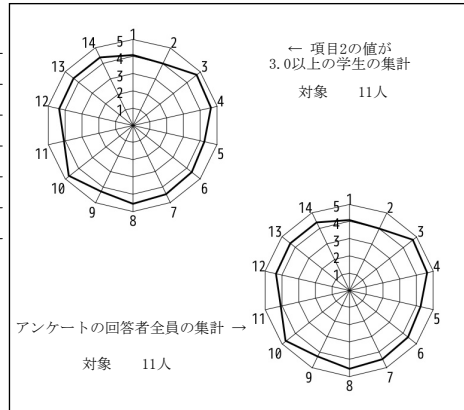


授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンライン（Zoom）での授業の実施となったが、当初の予定の授業計画に概ね沿い、掲げた到達目標を実現すべく、レジュメや資料類の随時のアップロードなど、受講者の理解にプラスとなるようつとめた。数値データを見るに、平均値としては昨年度よりも上昇しているが、個々の項目では下がっているところもある（設問5と11など）。本講義が扱う対象が理論的性質と抽象度が高く、また実定法学の知識を一定程度要求していることもあり、具体的な歴史や（法）制度に係留しながらの説明を試みつつも、難解であり、かつ、得られた知識を即座に活用できるとは言い難い難しさも手伝って、初回から最終回までの関心を持続させることが大変であったかもしれない。この点につき、次年度以降、反省をふまえ、より分かりやすい実例（判例など）を紹介・取り上げ、受講者の関心のさらなる喚起と持続につき、工夫をはかっていきたい。オンライン授業となったことで、授業の説明（本来であれば板書などをうまく活用することで、口頭の説明と配付物およびスライド等の間での情報の行き来を効果的に行えていた）が冗長になったことも否めず、この点も、今後の改善点として、次年度以降、向上していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治思想史B
授業コード	44B45-001
教員名	西村 邦行
教員コード	104090
登録人数	45
回答数	11
回答率	24.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

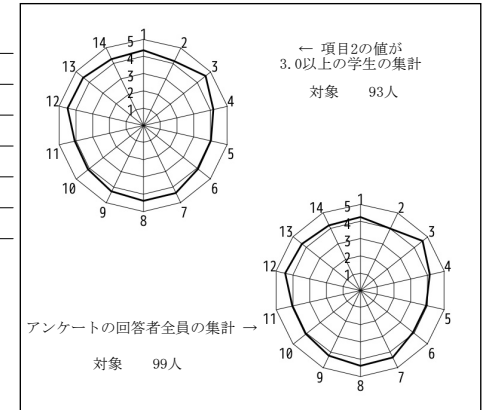
この授業で受講生に示していた到達目標は以下の二点だった。

1. 近代西洋の主要な政治思想について、基本的な論点を理解している。
2. 近代西洋の政治思想史について、大まかな流れを理解している。

本授業の担当は今年度が初めてであり、時間配分等やや不安もあったが、基本的にはシラバスに設定したとおりの流れで講義を終えることができた。オンラインでの受講に配慮した関係もあって、いくらか取捨選択せざるをえない項目もあったが、その際も受講生が上記二点を達成できるよう心掛けた。また、大学側がサーバーを強化した結果か、自身のPCを買い替えた結果か、Q2とは異なりネット接続上の問題も生じなかった。結果的に、アンケートのいずれの項目についても特に不満が聞かれることはなく、昨年度来本学で担当してきた授業のなかでは最もよい評価をえることができた。ただし、受講者数も回答数も少なめであるため、自身で気付いた細かな不備を改善しつつ、次年度以降、より理解しやすい授業になるよう努めたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑法各論B
授業コード	44B91-001
教員名	末道 康之
教員コード	100587
登録人数	228
回答数	99
回答率	43.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

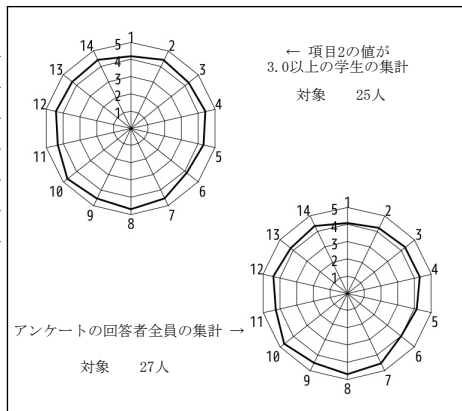


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した到達目標には達したと考えている。全員に刑法各論講義案PDFを配付しているが、この講義案には、授業内容・範囲について詳細に明示しており、授業は講義案に基づき実施している。設問1~14の平均値4.21、設問3~14の平均値4.23という概ね85%の評価を得たことになる。自由記述欄では、講義案が丁寧であり理解しやすい、講義案を利用して効果的に授業を進めている、質問の機会が多く設けられていた、学生の理解に応じて授業を進めている等という点が評価された。改善すべき点としては、学生のミュートの機能について、十分ではないという点の指摘があった。今年度は、オンラインでの初めての授業であったため、設定に問題があったかもしれないので、来年度もオンラインでの授業となった場合には注意したい。オンラインの多人数授業では、学生の理解度の確認という点では難しい点があったことは事実ではあるが、チャットを利用して質問に即時に返答することは可能であったため、対面型の授業よりは学生にとっては質問がしやすい環境にあったともいえる。また、オンラインの授業ならではの点では、例年の対面の授業よりも出席者が相対的に多かったということも指摘できる。これまでは、対面型の授業のみを行ってきたが、オンラインの授業にも多くの利点があることから、感染状況が収束しない状況ではオンラインの授業をより効果的に行うことを考えていく必要があると思われる。対面型でもオンラインでも、来年度の授業に向けて、より効果的な授業を行うため改善を図りたいと考える。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民事訴訟法C
 授業コード 44C13-001
 教員名 渡邊 泰子
 教員コード 101553
 登録人数 160
 回答数 27
 回答率 16.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



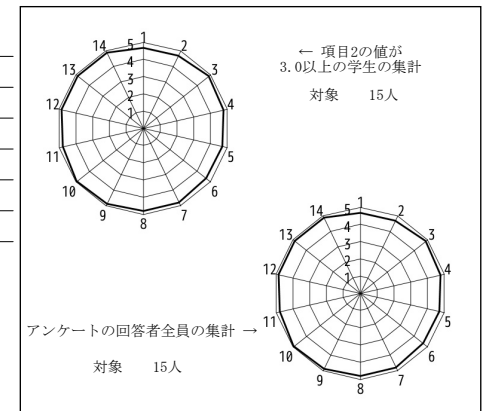
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標として、「複数請求訴訟・多数当事者訴訟について体系的な知識を修得することができる」、「上訴・再審制度、少額訴訟などの略式の手続について、その概要を理解することができる」の二点を設定していた。授業はオンライン授業となってしまったため、対面授業の場合と異なり、学生の反応を見ながら授業を進めることが難しかったが、復習の機会をいかに作るかに尽力した。レジュメを提示ししながら丁寧な解説をすることを心掛けるのは例年と同じであるが、本年度は繰り返し受験可能な4回の小テストをオンラインで実施し、間違っ点やわからない点を学生自身が把握して自主学習をできるよう工夫した。そのうえで、オンラインでの最終試験（1回のみ受験可）を実施したところ、平均得点率が非常に高かった。小テスト形式の復習により一定の効果を得ることができ、結果的に、到達目標を達成できたと考えられる。授業評価アンケートの実施に関しては十分な周知徹底ができず回答数が非常に少ないが、数値データ全体の平均値や、好意的な意見が多い自由記述を拝見し、学生の満足度が例年と遜色なかったことに安堵している。

来年度に関しては、どのような授業形態になったとしても、本年度工夫した内容を更にブラッシュアップして、よりわかりやすい授業を提供したいと考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 応用会社法
 授業コード 44C30-001
 教員名 家田 崇
 教員コード 102459
 登録人数 107
 回答数 15
 回答率 14.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
 オンラインでの対応を目標とし、概ねある程度の達成ができたと評価できる水準に到達したのではないかと考えられる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
 数値データは概ね良好な評価を得られるたもと判断できる水準に到達したのではないかと考えられるものの、Webクラスの活用などとの関連性なども踏まえて今後の課題を検討していきたい。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
 オンラインでの対応を目標とし、概ねある程度の到達したと判断でき、数値データは概ね良好な評価を得られるたもと判断できる水準に到達したのではないかと考えられるものの、Webクラスの活用などとの関連性なども踏まえて今後の課題を検討し、総合的観点から次クォーター以降の改善点を検討し、来年度の改善に貢献するようにPDCAサイクル(Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善))を確立させたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策外国文献講読II(英語)1
授業コード	70171-001
教員名	野口 博史
教員コード	100473
登録人数	5
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

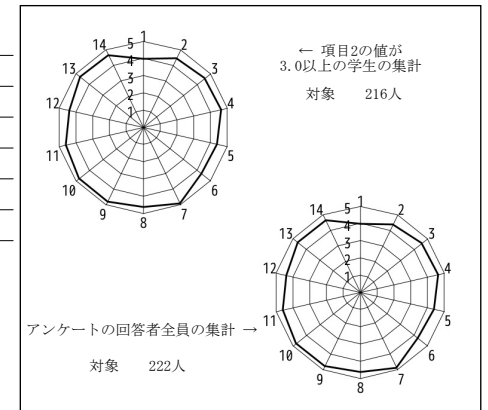
本科目の登録者数5人のうち、単位取得者は4人であった。残念ながら、依頼にもかかわらず、授業評価に対する協力が得られなかったが、受講者の報告およびレポートをみるかぎり、授業の目標をおおむね達成したと考えることができる。

文献購読としての演習の性質上、オンラインによる講義は対面講義と比較して困難を感じるこそ少なかったが、従来とことなり、当該科目をオンラインによりおこなったため、テキストの共有方法を来学および講義資料ダウンロード・サーバの二通りに設定したが、ページ数が多数におよぶ場合、ダウンロード・サーバにおける共有はかなり煩雑とならざるをえなかった。今後、同様の状況が継続する際には、郵送など、より簡便な方法をとるべきと考えている。

なお、本クォーターにおいては受講生の人数もあり、議論等も比較的容易であったが、従来のように40人を超える際には質疑応答の方法にかなりの工夫が必要となると思われた。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文明論概論1
授業コード	46A01-001
教員名	山田 望
教員コード	000211
登録人数	282
回答数	222
回答率	78.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

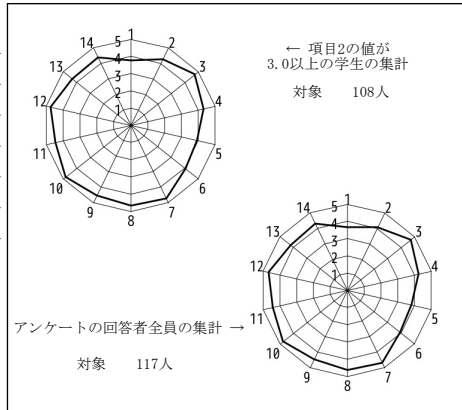


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の回答率は、282名の登録者数中221名で、約78%と回答率としては高い方であった。これで、最も重要な設問11~14の内、開講主体別平均値を下回っていたのは、設問12だけであり、11で12ポイント、13で18ポイント、14で18ポイント平均値を上回っていたところから、ほぼ、開設当初に設定していた目標を達成できたものと考えている。開講主体別平均値を下回ったのは、設問1の授業開始前に本科目に興味を持っていたかどうか、設問3の開始終了時刻が守られていたかどうか、設問8の教員の声がよく聞き取れたかどうか、そして、設問12の質問や相談の機会が十分に設けられていたかどうか、以上の4つの設問のみであった。設問1については、自由記述欄からも、当初、文明論と聞いても全くイメージできず、興味も持たず、期待もしていなかったとの記述が多かったため、ほぼ推測できる数値であった。設問3については、ネットの繋がりが状況が不安定になったり、オンライン環境が不安定になったりして、開始や終了の時刻が若干ずれてしまったことによる。設問8についても、ネットの接続状況の不安定さに起因していると考えられる。設問12については、やはり、オンラインによる授業であるため、十分に質疑応答の時間を確保できなかったことは、自分としても痛感しているため、次回からは、より多くの質疑応答の機会を設けたいと考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学
 授業コード 46D03-001
 教員名 佐藤 創
 教員コード 103882
 登録人数 208
 回答数 117
 回答率 56.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

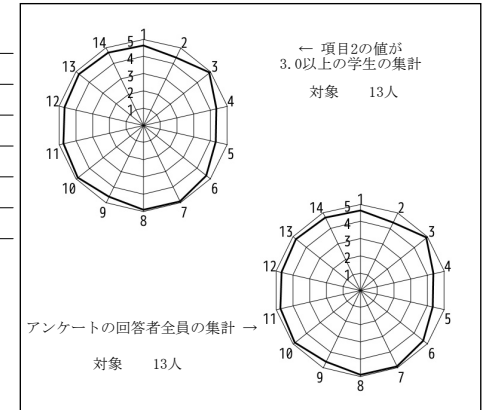
開講当初に設定していた目標と到達については、アンケート及びレポートの結果をみると、おおむね達成できたと思われる。本授業の全体の満足度は4.41であり、全体の平均4.44、また登録者数別の集計（121～240名、本講義は200名あまりの登録）4.40とほぼ等しい数値となっている。なお、回答数は117でおよそ6割である。

オンライン授業という取り組みのなかで、本授業ではレジュメを事前にアップロードし、そのレジュメのなかで穴埋めをさせる方法を採用した。ミクロ経済学は数式や計算も多く、図表を多用することで、対面で伝えることができない分を補う努力をした。なお、通信状況が学生によって異なる可能性を考慮し、30分ごとに、見せたスライドを再投影し、短時間の質問時間を設けた。これらの工夫はアンケート結果の集計および自由記述欄をみると、概して、学生の評判が良かったようである。また、期末試験100%での評価を予定していたが、実施できないために、二回のレポートをこれに代わるものとして課した。レポート内容およびアンケート結果・自由記述をみると、学生にとっては、手応えのある学習ができたように見受けられる。

オンラインの授業が続く可能性もあり、引き続き、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」をオンライン授業でも進めるための良い工夫がほかにもないか、試行錯誤しながらより良い講義になるように努めたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学総論
 授業コード 46D11-001
 教員名 中島 靖次
 教員コード 000246
 登録人数 38
 回答数 13
 回答率 34.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

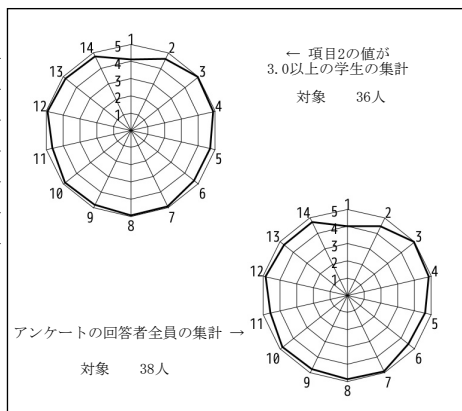


授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的に見るならば、平均値が高いものが多く結果としては良かったのではないと思われる。しかし全体と比較して見ると、開講当初に設定していた目標にはいささか届いていないような数値となって非常に残念である。この授業は教職関係の必修科目に該当しているため、文科省の指導もあって西洋哲学について網羅的かつ通覧的に考察しなければならないという制約がある。そのためにテキストに採用した書籍をまずは丁寧に参照することが求められているために、説明が非常に形式的にならざるを得ない。そこで内容をより分かりやすくするための事例などに言及したいところだが、言及してしまうと、また時間が圧倒的に足りなくなってしまうというジレンマの中での授業になるために、なかなか設定した目標を思うように達成することができない状態であった。次年度においては、西洋哲学を網羅的に通覧し考察するなかで、よりテーマを限定して、学生諸君にとって理解しやすくかつ受け入れやすい授業内容を目指したいと思う。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	エコシステム論
授業コード	46M01-001
教員名	藤本 潔
教員コード	100100
登録人数	119
回答数	38
回答率	31.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

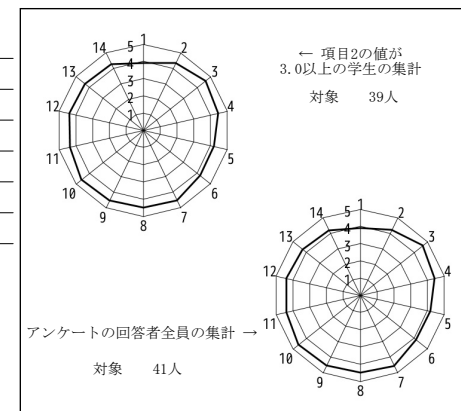


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の授業評価は、2001年度以降、これまで14回行われており、学生の自己評価項目を除く平均値は4.38～4.78といずれも高評価を得てきた。今回はオンライン授業に対する評価となったが、4.77とこれまでの最高値に近い値が得られた。主体的学習の有無を問う設問は、当初は2.3代とかなり低かったが、2008年度以降徐々に向上し、昨年は4.12とそれまでの最高値が得られたが、今年度は4.45とさらに飛躍的に向上した。出席率も毎回80%以上あり、オンライン授業の方が対面授業より主体的に取り組んでいたことが窺える。授業は最初の60～70分程度で講義を行い、残りの時間を質問受付やアクションペーパーの記載にあてた。質問は、口頭とチャットのいずれでもよいと伝えていたが、ほぼすべてがチャットでなされた。質問内容は授業内容の確認から、発展的な質問まで多岐にわたり、積極的に授業に取り組んでいたことが窺えた。リアクションペーパーからも、ほとんどの学生がよく講義を聴いていたことが確認された。自由記載欄も、「一つ一つの質問に丁寧に回答してくれた」「説明の仕方がわかりやすかった」「生活に身近だが、今まで知ろうとしていなかったことに気づかせてくれる授業だった」など、すべてが肯定的な感想であった。オンラインによる講義形式の授業も3科目目となり、効果的な授業の進め方が見えてきたような気がする。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政策と市民参加
授業コード	46N12-001
教員名	前田 洋枝
教員コード	102264
登録人数	99
回答数	41
回答率	41.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

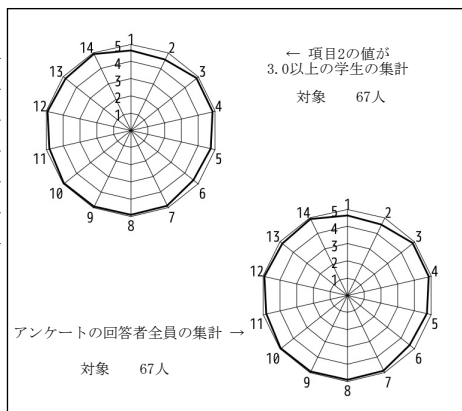
14の項目のうち、1つ（設問1の履修前の授業内容についての興味）が3.90だったほかはすべて4点台であり、4.5を超えた項目も5項目あり、おおむね肯定的な評価が得られたと考えている。担当教員の授業に取り組む姿勢の誠実さ（設問7）、真剣さや学生の理解度に配慮した課題を使用した進行（設問9）などが特に評価が高かった。また、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れたかどうか（設問8）も4.51であり、良好だったと考えられる。

自由記述からはレジュメや解説が分かりやすい点やゲーム演習を通じた体験を通して理解ができること、諸事情で欠席した場合の対応が良かった点として挙げられていた。また、最終レポートの課題内容について、授業期間の終わりごろに告知をするのではなく、課題内容と授業内容の対応に合わせて一部を早めに告知した点も「とても助かりました」と評価されていた。

なお、新型コロナウイルス感染症について、学生の関心が基本的に高いと思われること、Q2の地域環境論を受講していない学生もQ3で政策と市民参加を受講していることに配慮し、Q2の地域環境論と同じ新型コロナウイルスへの対応に関するゲーム演習を行なった。ゲーム内の一部の課題内容を入れ替えたが基本的には同じゲームであったためQ2で地域環境論を受講していたと思われる学生からはQ2とかわり映えがしないように思われたのか「もう少し違った授業を工夫していただきたい」との自由記述も見られた。ルール・トピックの工夫や演習前後での授業での科目内容における位置づけの説明を丁寧に行なうなど、前田担当の他の科目を受講していても新鮮かつ科目内容の理解に一層役立つように演習を活用していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 市民生活と法
授業コード 46N17-001
教員名 三輪 まどか
教員コード 102263
登録人数 245
回答数 67
回答率 27.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

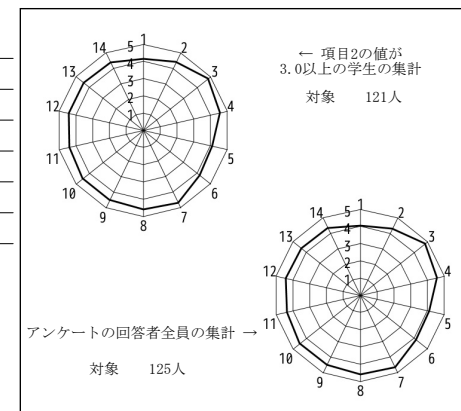
当初設定していた目標は、「社会保障法の体系について学び、理解する」「社会保障法上の課題を知り、解決に向けて、法制度の在り方を考える」の2点であったが、レポートの内容からその目的は十分到達できたと思われる。

アンケートについては、回答率が27%と大変低く、全体を表したアンケートとは言えないものの、全体の満足度を問うた設問14では4.93という数字をいただき、受講生の3分の1程度は大変満足いただけたものと考えられる。これもひとえに、熱心に受講してくださった学生の皆様のご協力もあって、このような数字をいただけたものと感謝している。最も得点が低かったのは、設問2の予習・復習の項目(4.55)であるが、これも今後改善の余地があると思われる。

自由記述に目を転じてみると、概ね次の3点について高評価を得た。1つはスライドの内容、2つめは声の大きさと速度、3つめは質問の時間である。いずれもオンライン授業になって、見やすいスライド、声の速度・大きさ、十分な質問時間という、より心がけていたことであり、それを評価していただけたのは大変ありがたい。一方、改善点については、私自身が風邪をひいたり、子どもが発熱をしたりして、予定を変更したことがあったことに対する意見であったが、批判と言うよりも、「大学もまだ福利厚生が足りてないということ学ぶことができた」という意見で、身をもって社会保障制度の大切さを伝えることに(結果的に)なったと考える。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 都市環境論
授業コード 46N21-001
教員名 石川 良文
教員コード 100650
登録人数 246
回答数 125
回答率 50.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

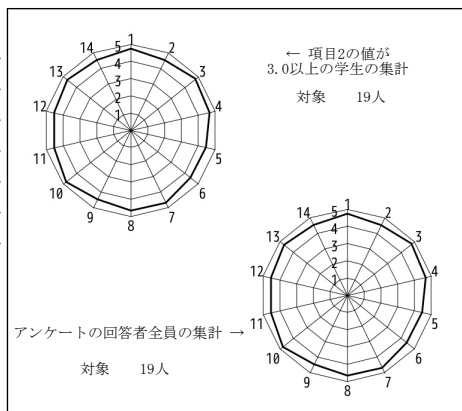


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
設定した3つの目標については、設問6「この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」で学生の評点も高く概ね到達できたと思われる。但し、アンケートの設問5「到達目標を理解することができたか」の平均点がやや大学全体より低かった。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
ほとんどの設問で大学平均点より高く、また設問14「全体としての満足度」が4.34と高いことから総合的には良かったと思われる。しかしながら、「到達目標の理解」「授業の妨げになる行為に対する対処」「質問や相談の機会」で大学平均をやや下回ったことから、これらの点は改善が必要である。また、自由回答では、声が小さいことがあったという意見もあり、マイクのチェックを行い場合によっては機器を購入して対処する必要がある。第1回目の講義でわざとマイクをonにして奇声を発する者が見られた。それに対する対処が十分でないという意見があった。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
授業の目標の設定と到達度については改めて意識して授業を行う。授業中に質問や相談の時間を作るなど、受講学生の疑問に答えられるように努力したい。授業を妨害する者については多人数講義のため特定するのが容易でなかったため対処がうまくできなかった。これについては情報部門と相談したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済援助論
 授業コード 46N23-001
 教員名 POTTER, David M.
 教員コード 100098
 登録人数 40
 回答数 19
 回答率 47.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



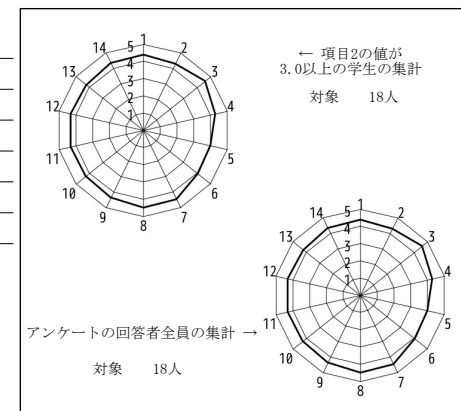
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a lecture course devoted to the study of the history, characteristics, and current changes in official development assistance. It is designed to familiarize the student with official development assistance (ODA) as an international public policy intended to promote the economic and social development of developing countries, with economic and political considerations that shape it, and how it is understood by donors and recipients. This year's course was delivered synchronously online due to the coronavirus pandemic. Each lecture was accompanied by Powerpoint slides that were made available to students a few minutes before class.

The students responded positively to the class. The written comments were all positive. I expect to keep the current content and level of teaching for this course in the future. In what setting and with which technology I will do so depends on how the coronavirus pandemic develops next academic year.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生活環境学
 授業コード 46N25-001
 教員名 大八木 英夫
 教員コード 104123
 登録人数 44
 回答数 18
 回答率 40.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

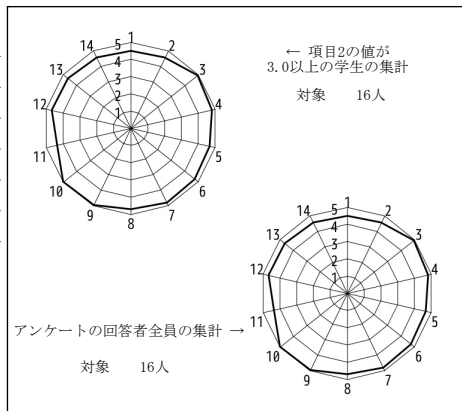


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、地球環境と人の密接な結び付きや人が自然と共存についての内容について基本的事実について解説し、地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会について考察させることを目標としている。多岐にわたる専門分野（大気（空気）・熱・水・廃棄物・生態系といった環境要素）における情報（数値）がもたらす意味を基礎的事項として授業を展開させた。内容については、常に生じている時事ニュースや科学における最新情報を取り入れて、日本だけでなく世界の各地の情報を提供しながら、学生の意欲を引き出すことに努めた。アンケート結果からは、到達目標に向けて力の修得についてはやや評価されなかった部分があるが、概ね学生からの対応は良好であり、特に、学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業については、良好な評価を得た。今後に向けては、特に、時事ニュースは、常に変化していくものであり、今後の授業においても古い知識にならないように気を付けながら、環境科学や地球科学等の複数の学問における様々な観点について授業を展開し、人が自然と共存し持続可能な発展についての講義を介して、自然環境について自分で考える能力を身につけさせることを目標としたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学I および演習[SS]1
 授業コード 50A06-001
 教員名 三浦 英俊
 教員コード 102259
 登録人数 39
 回答数 16
 回答率 41.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、以下の2つである。

1. 行列の定義、演算法則、行基本変形を理解している。
2. 行列の定義、演算法則、行基本変形に関する基本的な計算ができる。

到達の程度については、7回の演習課題と最終レポート課題の出来を見るとおおそ到達しているようだ。また、オンライン授業であるため、演習の答案を直接見る機会が少なく、ウェブクラスによる数値入力を中心となったので、数学的な記述を適切に行えるように授業中に繰り返し説明した。これについても最終レポートの記述を見るとおおむねできているようだ。

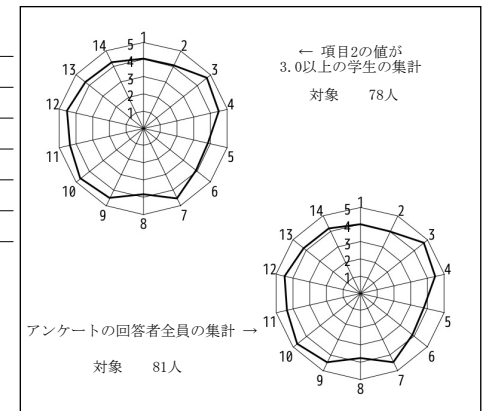
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

設問ごとの数値はおおむね高い評価となったが、この授業は、線形代数のうちの導入部分に当たり、難易度がそれほど高くないためであると考えられる。オンライン授業で行ったため、ホワイトボードの使い方や解説の音声には注意して授業を行った。これらについてもそれほど不満はなかったようである。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
 オンライン授業では学習に落ちこぼれてしまう学生に気が付くのが遅くなる。また、この授業でも結局のところよくわからなかった。今後は学習についていけなくなった学生が出ないように工夫をしたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 OR概論
 授業コード 51A01-001
 教員名 鈴木 敦夫
 教員コード 016469
 登録人数 191
 回答数 81
 回答率 42.4%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標に到達した。学生の到達度は成績を見るとおおむね想定したとおりであった。

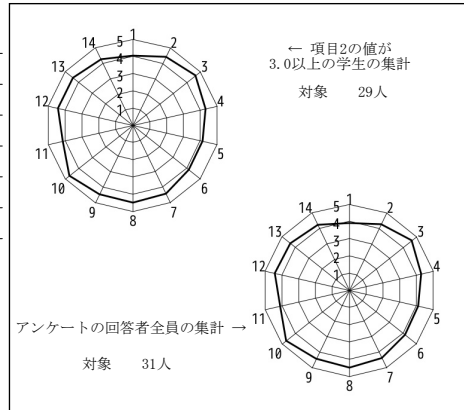
② リモートの講義であったので、機器の環境が授業に大きく影響した。特に、私の音声聞きづらいという自由記述が多かったことは残念である。学生からのフィードバックがあれば修正できたことなので、来年度は音声の大きさを確認しながら授業を進めたい。

③ 自由記述欄に多くの意見があった。昨年度までにはなかったことなので、参考にしたい。3分の2程度の意見は、授業内容に対して興味をもったという記述であったので、より学生に興味を持たせるように工夫したい。例えば、

- ・ 問題の解説が丁寧で分かりやすかった。
- ・ しっかりとExcelでの使い方などいろいろ関数の使い方などを説明してください、わかりやすかった。
- ・ 講義を受けられなかった生徒にも配慮していた。
- ・ 講義資料だけでなく、練習問題の解き方をwordに打ち込んだものや講義動画も資料サーバにあげて下さったことです。
- ・ 復習テストと練習問題があり、問題を解く機会が設けられていたこと。また、復習に活用できるように授業を録画していつでも見れるようにして下さったこと。
- ・ 講義ビデオが毎回公開されるので、課題で詰まった時など、見直しがしやすかった。
- ・ 授業が録画されており、あとから見直しができた。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計的方法
授業コード	51A02-001
教員名	松田 眞一
教員コード	017566
登録人数	96
回答数	31
回答率	32.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標と目標達成度

本授業の目標は統計的方法の基礎である記述統計と推定・検定を学習することである。授業資料をすべて事前にWebclassと講義資料サイトで公開し、アクティブラーニングの形式で行った。授業時間内では不明な点を聞き取りながら解説したり、数多く準備した練習問題に取り組みさせた。また、評価の対象となる7回の課題も課した。

コロナの関係で試験の代わりにレポートになったため、去年との比較は難しいが、昨年度はアクティブラーニングにした影響がFが倍増したが、一昨年並みに戻り、A+は倍増した。

・授業評価

昨年より回答率は上がり、倍の約3割であった。

設問3から14において全学平均を上回った項目は設問6、10だけであった。設問6は過去一度も上回ったことのない設問であるが、このシステムに自信が持てる結果であった。一方、システム数理平均を下回った設問はなく、評価が4を下回ったものもなかったが、全学平均との差が大きいのは設問4、7である。

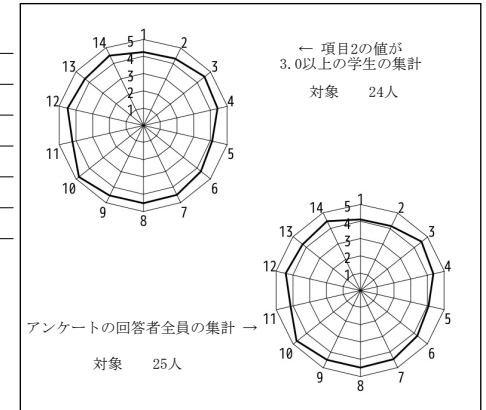
設問4は授業構成と進行速度であるが、アクティブラーニングを嫌う層は一定数いると思うのでその影響であろう。設問7も上と同じくアクティブラーニングの影響かと思うが、回答率が倍増した割にはよい数値だと思う。

・次年度に向けた改善点

昨年度と同じく資料をすべて事前準備したが、オンラインであったためか出席率は昨年より改善された。昨年度はチャットに質問を書くのを好まない学生が多く、質問での授業対応が滞ったが、今年度は選択式アンケートにしたおかげで授業で説明する重点箇所が絞れてスムーズにできた。自由記述でも授業形式に対する不満はほとんどなくなったが、さらなる改善に努めたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	非線形・整数計画法
授業コード	51B04-001
教員名	佐々木 美裕
教員コード	019463
登録人数	109
回答数	25
回答率	22.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

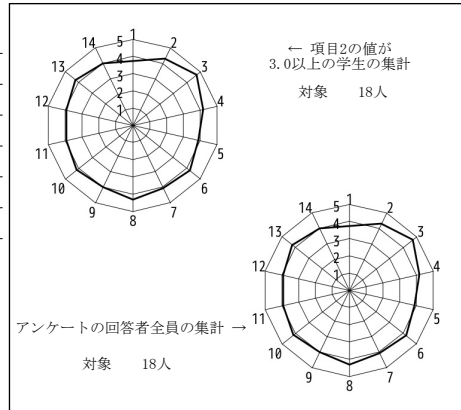


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① オンライン授業の利点を生かし、受講者の理解度を深める授業を行うことを目標とした。具体的には、[1] 講義資料と教科書で予習、[2] 予習でわからなかったところを授業で確認、[3] 理解不足な点について授業中あるいは授業後に個人Zoomチャットで質問する、というスタイルで授業を進め、学習効果を上げることを試みた。そのため、わかりやすく予習がしやすい講義資料の作成を心がけ、ほぼ毎回の授業において内容を確認するための課題をWebClassで実施し、オンラインでも質問しやすい環境づくりに努めた。授業の進め方の周知徹底はやや不十分であった印象があるが、おおむね目標は達成できたと考えている。
- ② 設問9の平均値が4.48、設問12の平均値が4.44と比較的高く、また、自由記述に「講義資料がわかりやすかった」、「課題の量が適切で、理解を深めることができた」などのコメントがあった。一方で、設問11は平均値4.16とやや低かった。以上の結果から、当初の目標をおおむね達成し、満足度の高い授業運営ができたと言える一方で、自習をさらに効果的に行うためのサポートが必要であると感じた。
- ③ 板書をやめ、講義資料を中心とした授業スタイルに変更したが、板書する時間が減った分、進捗が速くなるため、作成した講義資料を最大限生かして効果的な授業を行うためには予習が欠かせない。今後、オンラインであっても対面であっても、自習をサポートする体制を強化することが大きな目標である。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	代数系入門
授業コード	51B09-001
教員名	小藤 俊幸
教員コード	101907
登録人数	90
回答数	18
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

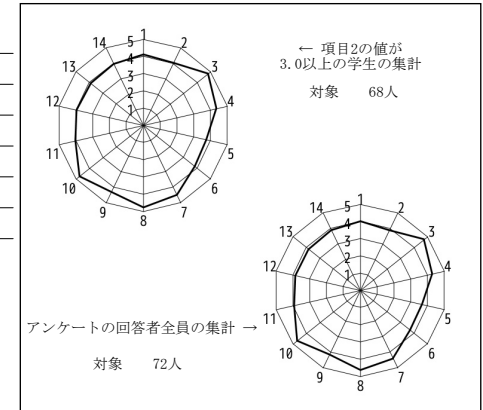


授業評価結果を踏まえた点検・評価

代数系の基礎となる数の公理的な取り扱いを中心に授業を行っている。1年次の科目「論理と集合」で扱われる集合や写像の基礎を復習した後に、カントールによる集合の濃度の概念やペアノによる自然数の公理的な定義を述べる。さらに、自然数から整数への拡張を述べ、ユークリッドの互除法、1次不定方程式の解法、合同式の解法を紹介する。合同法の解法は、高校数学「数学A」の「整数の性質」の単元の発展的内容である。本科目は教職の必修科目であることから、そうした内容も取り入れている。RSA暗号など通信技術への応用を述べ、最後に抽象的な環、体などのいわゆる代数系について紹介する。毎回の授業の終わりに、授業内容に関する小レポートを提出してもらった。オンライン授業であったため、提出時間に余裕を持たせたこともあり、受講した学生はおおむねきちんと提出した。多くの学生が課題に熱心に取り組んでくれたと思うが、授業時間内の反応はよく分からなかった。オンライン授業で、通常の対面授業と同等な効果を上げるのは難しいというのが実感である。新型コロナウイルスが早期に終息し、通常の授業が行われることを切に願う。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	計算機アーキテクチャとOS[S]
授業コード	52A02-001
教員名	宮澤 元
教員コード	019422
登録人数	145
回答数	72
回答率	49.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【事前に設定した目標とその達成状況】

計算機やOSの仕組みについて、単に知識を伝えるだけではなく、理由を考えさせ理解させることを目標とした。全体の評価は3.88と昨年度より若干向上したものの、設問20以降の評価が2点台と、目標が十分達成できたとは言えない。

【担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

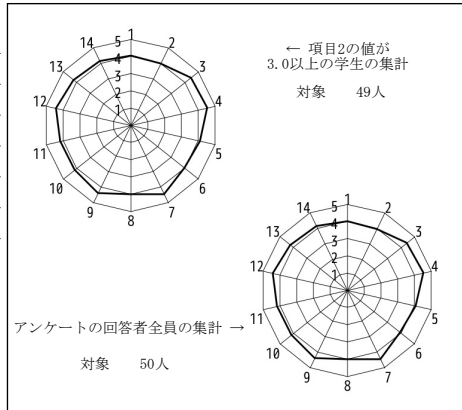
上述以外の設問の評価はほぼ3点台後半以上であり大きな失敗はなかったと考える。新型コロナウイルスの影響でオンライン講義となった関係で、例年公開している講義資料以外にも、オンライン講義の録画ビデオなど、積極的に情報を出したこともよかったようだ。また、毎回の授業で簡単な確認課題を出題するようにしたことを評価する声もあった。一方で、授業とレポート課題、確認課題との内容や難易度が乖離している点を指摘する意見もあった。特に定期試験の代替として出題したレポート課題については、授業内容との関連の説明が十分でなかった点があり、反省したい。

【今後の改善】

授業の満足度や理解度を向上させるために、科目内容自体に興味を持てるような構成を心がけたい。特に、授業内容を実践的な知識・技術と関連づける部分の説明や解説を充実させる必要がある。具体的にはシステムプログラミングについて、授業やレポート課題で扱う比重を増やすことを検討するつもりである。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ソフトウェア工学基礎[S]
授業コード	52A03-002
教員名	青山 幹雄
教員コード	046243
登録人数	175
回答数	50
回答率	28.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

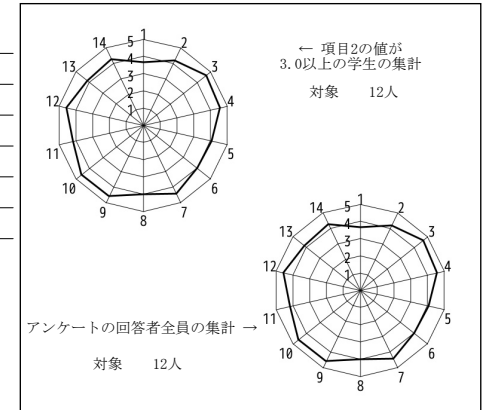
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
項目1-14, 3-14のいずれも平均が4.2を上回り、全体としては高い評価となっているが、項目20が3.0を下回り、いままでにない結果となった。オンライン授業という特殊事情もあると考えられるが、次年度も含めて注視する必要がある。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
ほとんどの項目で4.0を上回り、特に、項目9~14, 18について概ね4.20を上回る結果となっている。
自由次述回答も、「説明がわかりやすい」「毎回の授業で復習をすることで、理解を深めれた。」「説明は丁寧でした。」「図での説明が多かったので、理解しやすかった」「毎回の配分資料が詳しく良かったと思います。」関連のある映像を画面共有を用いて見せてくださって面白かった。授業の最初に復習する時間があって良かった。」など、分かりやすいという評価となっている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
達成目標の設定を含め、学生の理解の状況をできるだけ把握するように努める。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数理論理学[S]
授業コード	52B07-001
教員名	佐々木 克巳
教員コード	018051
登録人数	52
回答数	12
回答率	23.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

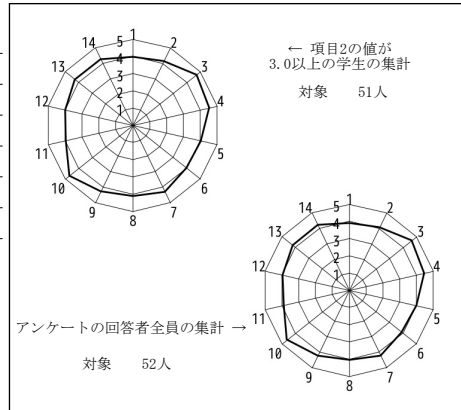
[目標] この授業の目標は、数学で用いられる文・推論・証明を形式的に扱うことによるよさを理解することである。事前に講義資料を配布すること、具体例から目標のよさを示すこと、演習時間を適宜設けることの方針は継続したが、オンライン授業であることから評価はレポートのみを対象とした。さらに、オンライン授業について、Q2で評価を得た画面切替をその画面の内容を復習してから行うことを継続し、Q2で指摘された手書き文字の読み取りにくさについては、手書きにより適した機種・ソフトに変更することで対応した。

[評価] 数値では、登録者に応じて解答数も減ったが、設問3~14の平均が4.34(昨年は4.59、一昨年は4.33)で例年どおりの結果となった。自由記述の良かった点として、説明のわかりやすさのコメントがあり、継続したい。手書き文字についてのコメントは、一時的な文字の小ささについて1件あったが、画面を縮小したときの意見であると考えられる。画面の縮小の度合いについては注意したい。理工学部独自の設問(20と21)の結果からは、回答してもらったすべての学生は、「ノート等をみれば自力で調べられる」段階に達しており、半数程度が、「他の人にも説明できる」段階に達していた。この部分も昨年の傾向と変わっておらず、授業運営は概ねうまくいっていると考えられる。

[今後の計画] 基本的な目標や運営は継続してよいと考える。オンライン授業が継続するようであれば、画面切り替えのタイミングや文字の読みやすさについての注意を継続したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マルチメディア情報通信[S]
授業コード 52B08-001
教員名 奥村 康行
教員コード 101219
登録人数 179
回答数 52
回答率 29.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

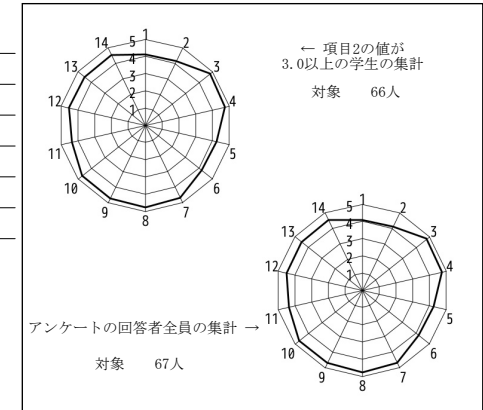


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定した授業目標： 通信システムの開発・運用に携わるときに必要な知識であるデータ圧縮技術を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2. 目標達成度： 提出されたレポートの結果より、約90%の受講者が目標を達成した。
3. 担当科目についての授業評価： この科目の評定値は学科科目の平均値と同じだった。自由記述のうち改善を希望された項目は、音声聞きづらいことがあった(4)、ホワイトボードを消すタイミングが早い(1)、ホワイトボードを大きくしてほしい(1)、であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として、授業の録画がアップされたこと(7)、講義のわかりやすさ(2)、課題演習が効果的(1)、などがあり、これらは今後も継続する。
4. 次年度の方針： 初回と2回目の講義で音声品質が悪かったという学生からの苦情を受け、それ以降はコンデンサマイクを利用したところ、苦情はなくなった。また、固定された書画カメラを使ってホワイトボードを映したので、大きさの限界があった。オンライン講義での欠点を少しでも改善するため、講義直後に録画をサーバーにアップしておいた。学生にはこれを伝えておいたので、回を追うごとに出席率は低下し、録画で学習した学生が増えた。ちなみにレポート課題を見ただけでレポートは提出できないように配慮したので、レポートを提出した学生は何らかの形で講義を受けたはずである。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 システム理論[S]
授業コード 53B01-001
教員名 大石 泰章
教員コード 101405
登録人数 136
回答数 67
回答率 49.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

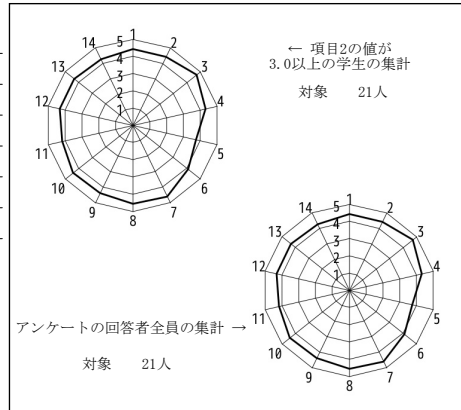


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 当初の目標と到達の程度
当初計画していた内容はすべて講義できた。オンラインで授業する関係上、15回中3回は自主学习としたが、今まで板書していた部分をスライドにしたために授業の進度が上がり、問題なく実施できた。
- 数値データおよび自由記述をふまえた自己点検・評価
数値評価は、設問1から設問14まで4点を超えており、数理的な内容の授業としては申し分ないと考える。
評価できる点(設問15)には、「説明が丁寧でわかりやすい(10件)」「資料がわかりやすい(4件)」「学生の進度に配慮している(2件)」などあり、学生のニーズに合った授業ができていると考える。スライドを使うことによって授業が早く進み過ぎているのではないかとこの心配があり、意識的に間をとるようにしたが、そのことが功を奏して3番目のコメントになったものとする。 「質問の時間があつた」という評価があつたが、チャット機能を使って学生が頻繁に質問するというのは嬉しい驚きであり、こちらとしてもやりがいがあつた。
改善すべき点(設問16)にはあまり記述がなかったが、スライドの記載を増やしてほしいという意見があつた。個人的にはスライドは読むものではなく、見るものだと思うので、スライドにはあまり多くは書き込まず、それを使った授業の方を充実させることで対応したい。
- 今後の改善点、抱負、方針など
今年度は、昨年度話せなかった内容も話すことができた。これで授業の枠組みはほぼ完成したと考える。来年度は例題や図を改善するなど細かい部分の改善に努めたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	制御理論II
授業コード	53B05-001
教員名	坂本 登
教員コード	102293
登録人数	48
回答数	21
回答率	43.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

線形代数と微分方程式論を活用して制御システムの解析と設計を行う内容であり、基礎数学の習熟も目標とした。これに関しては、第1回～3回の講義で解説と演習を行った。リモート授業の利点を活かして板書画面を共有することで、説明を聞くことに集中できるよう配慮した。すべての回の講義と演習の解答はYoutubeを利用した配信を行い、何度も自分のペースで復習できるようにした。これらは好評であったと言える。

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

1. 実際のシステムをモデリングする方法を知っている。
→おおむね達成されているといえるが、不合格者の中には未達の者もいた。
2. 状態空間表現されたシステムに対する制御系の設計手法を知っている。
→おおむね達成されている。
3. レギュレータとオブザーバの設計手法を知っている。
→おおむね達成されているが、考え方の基礎を身に着けるには、線形代数の活用を中心により多くの練習が望まれる。
4. 設計CADを用いて制御系の設計が行える。
→より多くの練習が望まれる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

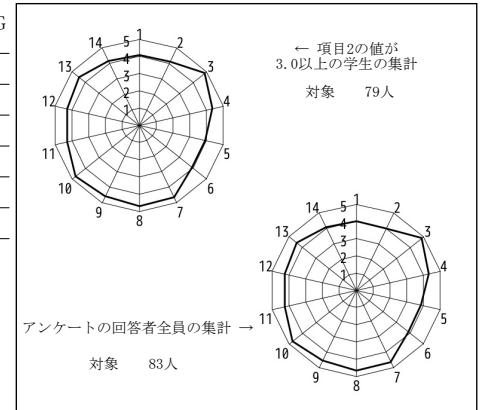
→制御系設計法が使えることを目標としていたが、学部3年生としては、おおよそ達成されたといえる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

→より多くの演習課題を与えたい。また、Matlabを用いた課題にはもう少し多くの解説を与えたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際教養学概論 / Introduction to Global Liberal Studies
授業コード	48B02-001
教員名	斎藤 衛
教員コード	018333
登録人数	156
回答数	83
回答率	53.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

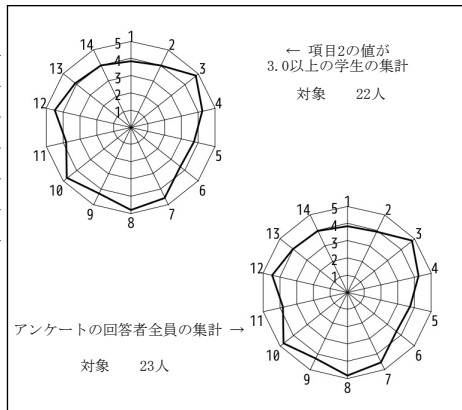
国際教養学部1年次生の必修科目である。多様なトピックを取り上げているが、例年評価が分かれ、もっと自分の興味に合わせて欲しいといった趣旨の要望が多い。しかし、今回は、満足度では、4~5の評価が82%となっており、また、コメントも「私の興味のある分野、今まで興味のなかった分野両方について学ぶことができた」、「色々な視点で物事を見ることができるようになった気がする」、「様々な分野の講義が行われたので、自分が意外とこんな分野に興味があるかもしれないという発見につながった」などといった肯定的なコメントが非常に多く寄せられた。最初の授業で、養老孟司『バカの壁』を取り上げて、受講者が成長し「変わること」の重要性を強調したが、視野を広げる効果があったのかもしれない。

改善を要する事項は、グループディスカッションに関するものが大半を占めた。毎回、150名の受講生を5~6名ずつのブレイクアウトルームに振り分けて、15分程度ディスカッションを行なった。これについては、肯定的なコメントも多かったが、「参加する気のない学生が比較的多かった」、「毎回グループ分けが異なるので、深い議論がしにくかった」とするコメントも相当数あった。少なくとも数回は、同じグループ分けにする計画であったが、Zoomでは難しいと言われ、断念した経緯がある。次回は、この可能性をさらに追求したい。

授業環境についても肯定的なコメントが多かった。Zoom上での資料の提示方法などがわかってきたことに加え、何よりも情報センターが素晴らしい通信環境を作ってくれたことが大きい。(受講生が、チャットで操作を助けてくれたことも2回あった。)

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 歴史学 / History
 授業コード 48C07-001
 教員名 永井 英治
 教員コード 018861
 登録人数 31
 回答数 23
 回答率 74.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

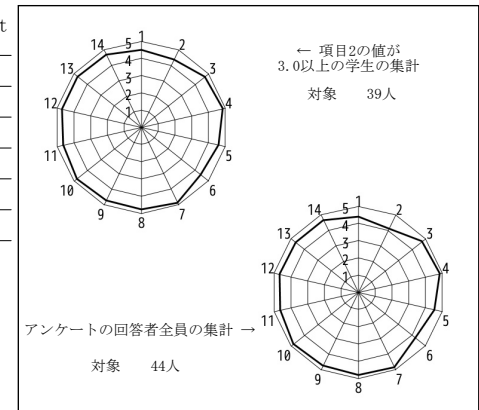


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、到達目標として、①現在の問題を歴史的に考えられる、②日本列島の歴史の概要を理解している、の2点を設定した。オンライン形式であったため、授業時間での受講生の反応はわからないが、レポートを読む限り、こちらの意図は理解されていると見なせる。とくに、受講生は歴史学を専門とするわけではないので、最終的に①に重点を置くようにしたが、理解されているようである。その一方で、オンライン形式に起因する課題が見られた。まず資料であるが、圧倒的に文字数が多くなった。教室であれば資料写真を見せることもできたが、オンラインではそれが適わなかった。ただし、多くの歴史が文字資料の分析によって行なわれていることから、文字を読解することは重要である。動画を見たいという声もあったが、これは全学的な配慮が必要である。また、学習支援のための情報提供を求める声もあった。文献を紹介しても図書館で参照することが期待できないので割愛したが、配付資料には参考文献を紹介しておいたので、まったく情報提供がなかったわけではない。問題は受講生がはじめからこの授業に関心を持たず、また、授業に満足できなかったことである。なかには詳細な話が聞けたことへの評価もあり、要は関心を持ち得ない受講生に如何に興味を持たせるかである。資料の見せ方などオンライン形式でも対応できるよう工夫していかなければならない。今後の課題としたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 グローバル化とメディア/ Globalization and Media
 授業コード 48D03-001
 教員名 中村 督
 教員コード 102579
 登録人数 164
 回答数 44
 回答率 26.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

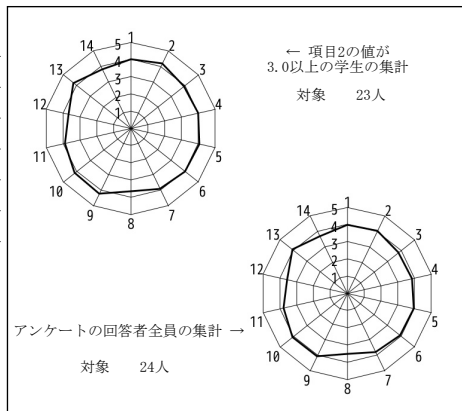


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は3年次生を対象とした国際教養学部の必修科目である。主たる目的は、グローバル化のなかでメディアがいかなる状況にあるのかを理解することにある。そのために、メディアの変容を社会との関係性のなかで把握し、次いで各々の国や地域で情報が交流し、それぞれの文化が形成されていく様相を考察することを課題とした。今年度は感染症の拡大の影響を受けて、オンライン（Zoom）での開講となったため、担当者も学生も新たな挑戦となる局面が多かった。しかし、多くの学生が柔軟かつ協力的な対応をとってくれたこともあり、満足度（14）は4.66と講義としては一定の数値を得ることができた。また、オンラインで支障が出ると予想された、授業の構成・速度（4）と授業への取り組みに対する誠実さ（7）がそれぞれ4.86と4.84という高い数値であったので、その点は対面・オンラインにかかわらず、今後の参考となるように思われる。他方、予習と復習（2）が、全体のなかで相対的に低い数値なので、改善の余地がある。もちろん講義のなかで復習のレポートを課したり、予習を促したりしたが、成果がしっかりと出るように工夫を重ねていきたい。最後に、今年度はオンラインという特性を活かして、2回、ゲストを呼ぶことができた。授業の良かった点（16）でこの点を評価する声もあったので、今後も継続できるように努めたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化と開発経済 / Globalization and Development Economics
授業コード	48E04-001
教員名	安原 毅
教員コード	017905
登録人数	114
回答数	24
回答率	21.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

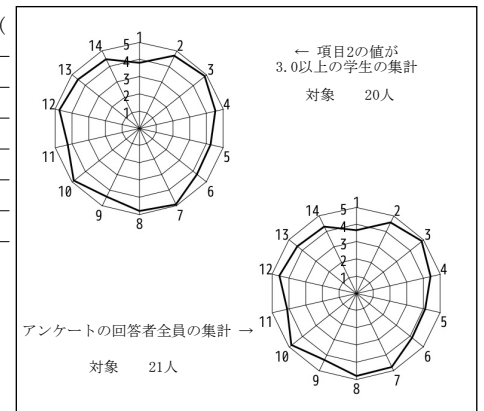
回答数を増やすことが毎回の課題だが、コンスタントに授業をオンラインで受講しテキストや資料を開いた学生数が50名前後だから、ほぼ例年並みの回答率だったといえるだろう。学部の全回答平均に比べれば平均3.87はやや低いが、これは設問⑧の回答の低さに引っ張られた点が高いと思われる。担当者自身Zoomの扱いには不慣れで特に声がエコーすることが多かったのには、たびたび学生から批判があった。この点はこれから改善しなければならないと考える。自由記述を見る限り、授業内容には肯定的な評価が多いのには満足している。特にチャットで答えさせて少しでも学生間のディスカッションになるよう工夫したのは、評価されたようだ。

担当者の印象としては、学生が全員Zoomのビデオを切っていると真っ黒の画面に向かって話すことになり、大変にやりづらさを感じた。学生に対して「ビデオをオンにしろ」とどこまで指示してよいものか、大学として共通の基準を設けていただけると幸甚です。

当初設定していた目標に比べて最終的な評価値は、授業内容に関する質問項目についてみればほぼ満足できるものだった。今後はZoomの使い方を練習することで、評価を上げなければならないと考える。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Global Studies B (Cultural Studies)
授業コード	48E07-001
教員名	森山 幹弘
教員コード	100090
登録人数	33
回答数	21
回答率	63.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
学生の評価の5番目の項目「この授業の到達目標を理解することができましたか」が最も低い評価であったことにも現れているように、カルチュラル・スタディーズの理解の到達目標について具体的に示すことができていなかったように思う。受講者がテキストを予習してきてグループディスカッションを通じてその理解を深め、理解ができていないところを補足説明することで、カルチュラル・スタディーズを構成する項目について理解させようとしたが、設定した到達目標には十分には届いていなかった。

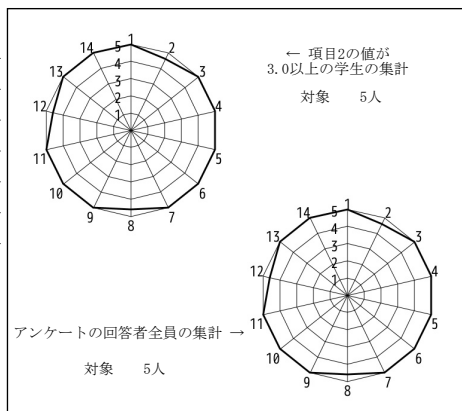
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

14番の項目「全体として授業に満足していたか」の評価が4.29であり、自己評価より高く評価されていた。「説明が丁寧であり、解説があったので理解が深まった」と言う自由記述もある一方で、「毎回の課題の負担が重過ぎる」「テキストが難しいので、もっとわかりやすく日本語で説明してもらいたい」と言うコメントがあった。英語で行うことを旨とするSpecial Topicsの科目であることから、英語で説明を試みたが、十分にわかりやすく英語で説明ができていなかったこともあり、このような不満を感じさせていたと思われる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記を踏まえて、次回の授業においては、授業の最初に明確に到達目標を示すこと、課題が重くならないように留意し、より丁寧に英語と日本語で解説をすることにより学生の理解を深める努力をしたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 サステナビリティと生態系 / Sustainability and Ecosystem
授業コード 48G02-001
教員名 神崎 宣次
教員コード 103280
登録人数 36
回答数 5
回答率 13.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

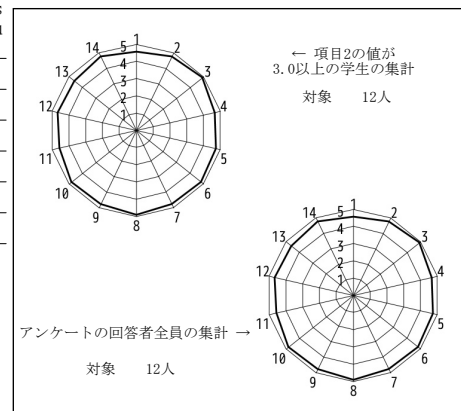


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
Zoomでの授業によって開講前に授業の進め方については変更を強いられたが、開講時点からはおおそ順調に進行できたと考えられる。到達の程度も、提出済みの課題から判断するかぎり問題ないと思われる。
- 2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
オンライン講義による制約を別とすれば、おおそ問題なく実施されたといつてよい。
- 3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今年度に関しては例外的事態であり、来年度の状況が未確定な現時点で改善点を挙げるのは困難であるが、一つの考え方として対面授業に復帰できるとしてもより反転授業に近い形態に修正していくことが考えられる。想定授業内容レベルに比して受講者数が多すぎた前年とは違い、今年度程度の受講者数であればその方が内容的に充実した授業になることが期待できる。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 サステナビリティと国際問題 / Sustainability and International Issues
授業コード 48G04-001
教員名 大竹 弘二
教員コード 101968
登録人数 51
回答数 12
回答率 23.5%
休講回数 1 回
補講回数 0 回

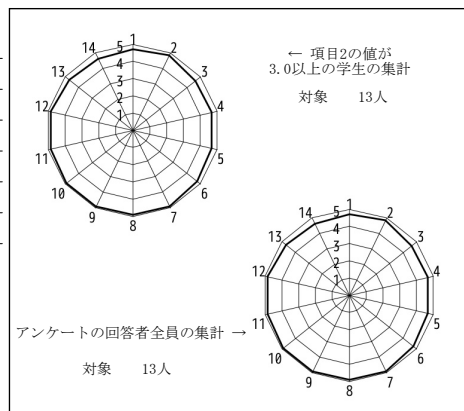


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本授業は例年行っている国際教養学部3年次生以上を対象とした科目であり、基本的に昨年度と同じ内容で授業を行った。ただ、オンラインゆえに学生の反応が分からず、なるべく丁寧に話すよう心がけたこと、また、慣れないデバイスの操作に手間取ったこともあって、授業進度は例年よりも遅くなってしまった。とはいえ、内容を詰め込みすぎた授業にならなかったことは、結果的に良かったのではないかと考えている。例年のような定期試験とは異なり、数回のレポート提出によって成績評価をしたことで、学生たちも授業内容について自分たちなりに深く考察する機会を得たように思われる。本授業では、必ずしも分かりやすくはない哲学や法学に関連した事項を扱い、例年学生たちが苦慮する様子が見られたが、今年度のレポートを読む限り、学生たちは自分なりに内容を咀嚼してよく理解してくれていた。
- 反省点としては、上記のようにデバイスの操作に手間取って、しばしば説明が中断する時間が入ってしまったこと、そして、ホワイトボード代わりに使用したWordファイルが必ずしも見やすくはなかったらしいことである。また、学生がいないところで一人で話していたことによって、説明がつい早口になってしまった部分もあった。さらに、オンラインゆえに授業の双方向性が例年にも増して不十分だったようにも思えるので、今後もオンライン授業が続くようなら、このあたりを改善する必要があるだろう。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステナビリティと国際経済 / Sustainability and International Economics
授業コード	48G06-001
教員名	平岩 恵里子
教員コード	100953
登録人数	16
回答数	13
回答率	81.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

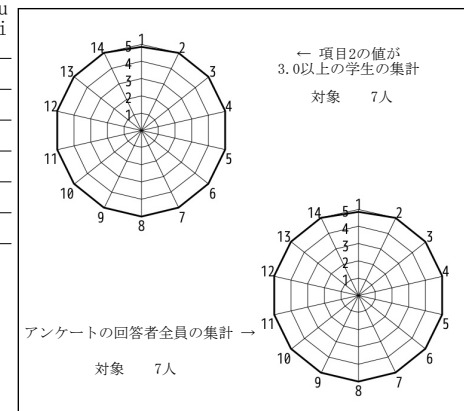


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 人の移動が経済のグローバル化に深く関連していることを理解し、各国で生じている移民問題の背景を知り、問題の本質は何なのか、移民がもたらす社会的・経済的・文化的影響をどう考え、分析するにはどんな手法があり、研究者はどのような視点を持っているのか、について学び議論することを目標にした。同時に、日本の外国人労働者問題に目を向け、多様な隣人への理解と協働することの重要性に気付いてもらうことも目標とした。学生の協力もあり、概ね達成してくれたのではないかと感じて、ほっとしている。
- ② 提出課題へのフィードバックとシェア、発表内容に対するコメント、ディスカッション時間を豊富にとったこと、同時並行的に起きている事象資料（ニュース等）を提示したこと、が評価されたかもしれない。ただ、厳しいコメントが「自分を嫌っているのでは」と学生に思わせてしまったのはとても反省している。そうではなくて、批判的な思考として考えるとうなります、という前提をおきつつ、考えてもらうように誘導すべきだった。それができる信頼関係も築けていなかったかもしれない。今後の課題です。
- ③ ②の点で述べた課題に取り組むことと、今回は比較的少人数のクラスゆえ一人一人に目配りできたが、大人数になるとどうするか、を課題としたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Sustainability Studies C (Religious and Social Studies) <国際科目群>
授業コード	48G09-901
教員名	鹿野 緑
教員コード	101092
登録人数	24
回答数	7
回答率	29.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

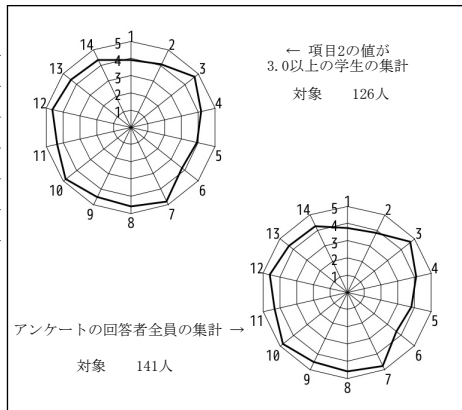


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- Special Topics: Sustainability Studies C <国際科目群>の副題は、「グローバル・ビジネス 社会における言語的・文化的ダイバーシティを考える」である。例年通り、米国ノース・ジョージア大学日本語受講生とのCOILプログラムとして授業を行った。
- ①学修目標は、1) グローバル化する社会における言語的・文化的ダイバーシティについて社会言語学に理解を深める。2) 英語のペーパーバックを1冊読みみる。3) COILパートナーと共通教材を読み議論するの3点であったが、特に2)と3)のために、各章毎に語彙・用語解説の注釈を用意し、注釈を使えばスラスラ読めるを感じさせる第二言語で学ぶための足場かけをした。学生の課題の出来具合からすると、ほとんどの学生が目標を達成できていたと考える。
 - ②アンケートデータからは、たいへん達成感・満足感を感じられた数字であることがわかった。しかしアンケートには表れていないが、ペースメーカーとして毎週課題がありその多さが大変であったこと、途中脱落者(W)もあったことは考慮すべき問題点であるが、そうでもしないと英語の本を1冊「深く」「読み切り」「議論する」ことは難しいと感じている。
 - ③改善点は、毎週ある課題に取り組む学生の時間・ペース作りへの助言が必要であること、LMSキャンパス上のモジュールをすっきりさせることなどに務めたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 契約法（各論）
授業コード 44A23-001
教員名 平林 美紀
教員コード 100773
登録人数 322
回答数 141
回答率 43.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



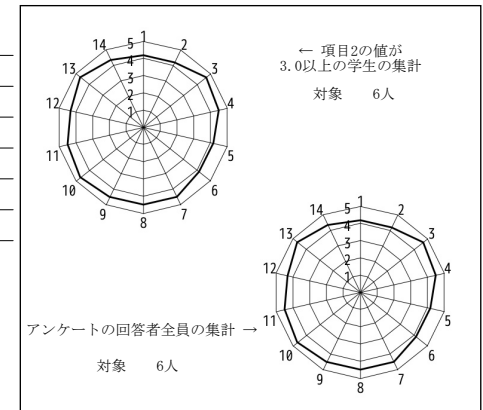
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の進行が遅れがちであったことについて、自由記載欄にもその旨の指摘が散見されました。実際、他の法学部科目と比べてこの質問項目の数値が低かったわけですので、ご指摘の通りであると反省しています（4.13）。一方で、ゆっくり丁寧に説明することや、関連する事項についても触れて、この先の学習も意識した講義を行っていることについて評価する意見もありました。バランスが難しいですが、繰り返しを避けるなどして、改善をしていきます。

到達項目に関する質問5と6の数値も低かったです（順に3.84と3.67）。Q21に開講された「契約法（総論）」では、複数回の確認テストを実施することで、受講生自身が自己の理解度を確認できる取り組みを行ないましたが、WebClassの利用法として推奨されていなかったことから、この講義では控えざるをえませんでした。確認テストの有用性は大きいと感じましたので、WebClassの活用範囲が来年度も同様に制限される場合は、別の復習方法を検討します。また、到達目標に達していないと感じる方が少なくなかったのは、レポート課題の参考資料の内容を消化しきれないと感じたためではないかと推測しています。早めの着手を促してきましたが、もし人前で質問することに躊躇してしまったのなら申し訳なかったです。匿名で掲示板を設定する方法を学びましたので、来年度はより質問しやすい環境を整備します。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校教育制度論3
授業コード 15A19-003
教員名 米津 直希
教員コード 104277
登録人数 8
回答数 6
回答率 75.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

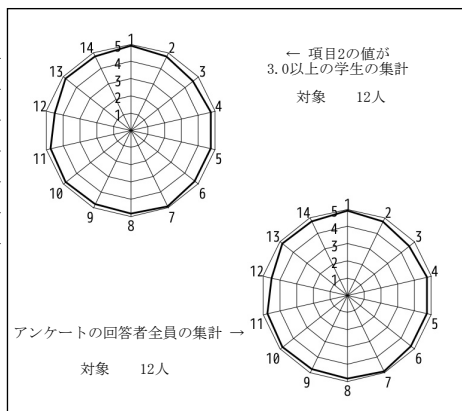


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本講義は受講者が少なかったこともあり、双方向的な授業を実施し、複数回実施した課題についても比較的丁寧に添削することができた。学生も授業後のミニレポートや課題について意欲的に取り組んでおり、指導に応じた改善が見られた。そのため、当初目標としていた到達点については概ね達成できたと考えられる。
- ②数値上では良い評価をいただいているが、学生自身が認識する学習成果について、より自信を持てるような取り組みを実施したい。報告者は各学部における専門教育を重視しており、そのことが教職に就く際にも重要だと考えている。ただそうした考えにより、授業以外の学習を促したり課題を課したりすることについて、必ずしも十分ではなかった可能性がある。専門教育とのバランスを取りつつ、履修した学生が自信を持てるような学習の在り方を検討していきたい。
- ③自由記述欄においては、報告者が狙いとしていた授業の方法や在り方について積極的な評価をいただいた。継続したい。早口になる癖は今後とも改善していきたい。
- ④上述したように、学習成果の感じられる取り組み（プレゼンやそれについての相互評価、確認テスト等の知識の定着）を検討していきたい。授業時間外の学習においては、受講者の学習意欲を喚起し、自主的な学習に向かえるような工夫（文献や論文、オンライン上のもも含めたニュース等、学習会・研究会等の紹介）を積極的に行いたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際産官学連携PBL C
授業コード	14F03-001
教員名	山田 貴将
教員コード	104223
登録人数	14
回答数	12
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
シラバスでは、1. 問題や課題を理解し、客観的にとらえることができる、2. グループ内で、問題や課題に対する解決策をいくつか提案し、建設的な議論ができる、3. 異なる文化背景をもつ学生がいる中、グループ内で意見をまとめ、最適な解決策を提案することができる、という3つの目標を立てた。本科目は全8回であったが、香港中文大学の担当教員の協力の下、その内5回を同期型授業として実施することができた。臨場感のある同期型授業で、企業から提供されたビジネス上の実際の課題に取り組むことは、学生の目標達成に向けたモチベーションと意欲を高めることに大いに貢献した。実際に、項目番号6「この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の平均値が4.75と高い値を示しており、これらの目標は概ね到達されたと考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
各質問項目に関して、4.75~4.92の平均値となっていることから、学生の本科目に対する満足度は概ね高かったと評価しても良いだろうと考えている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
COIL型授業ということで、パートナー大学や企業との打合せの結果を受け、急な課題などを出さなければならないことが何度かあったが、実際に、学生の自由記述回答には、「授業や課題に関するメールをもう少しはやく送っていただけるとより行動しやすかったと思います」というような意見が見られた。このことから、来年度は、パートナー大学及び企業とより緊密なコミュニケーションを図り、余裕を持って学生に指示を出すことができるように努めたいと考える。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際産官学連携PBL D
授業コード	14F04-001
教員名	藤掛 千絵
教員コード	104116
登録人数	18
回答数	4
回答率	22.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

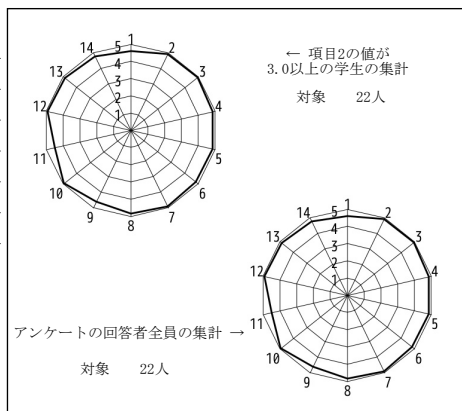
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目を受講する学生には、海外の学生との協働プロジェクトを通してグローバル人材としての素地を養うことを期待している。また外部組織（企業・団体）とのかかわりの中で将来のキャリアについて視野を広げ、また社会貢献の意識を高めることもひとつのねらいとしている。学生たちは非常に積極的にプロジェクトに取り組み、欠席者や遅刻者は皆無に等しい。海外の学生との協働作業においても、異文化の壁や時差のある中、粘り強く試行錯誤を繰り返しながら成果物を仕上げることができた。関わっていただいた組織の担当者の方々からも、高い評価を得て、学生たちの自信にもつながっている。海外の学生との関わりの中で、また企業・組織の担当者との関わりの中で、学生たちからは「新しい視点を得た」とのコメントが多く聞かれた。次年度の本科目においても、またさらに発展的なプロジェクトを提案し、学生たちが各自の能力を存分に発揮できるよう授業計画をしていきたい。よりレベルの高い成果物を披露できるよう、海外の教員と、今年度よりもさらに徹底した打合せをしていく。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報リテラシー
授業コード	14D01-001
教員名	栗原 寛明
教員コード	103522
登録人数	29
回答数	22
回答率	75.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



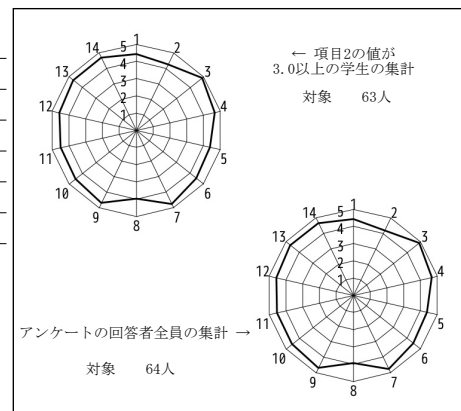
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、電子メールを送受信できる、Wordを用いて文書を作成できる、PowerPointを用いてプレゼンテーション資料を作成できる、Excelを用いて表とグラフの作成や簡単なデータ分析ができる、の4点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、積極的に授業に取り組んだ受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなすことができる。文書の作成とプレゼンテーション資料の作成に対しては特に理解を深められたと思われる。この成果を今後のレポート作成やプレゼンテーションに活かすと同時に、向上させる努力を継続してほしい。

授業では、受講者によって当初の理解度や習熟度、課題に取り組む上での疑問点が異なることが予想されたため、全体に対する説明は最小限として受講生が各自のペースで課題に取り組む時間を可能な限り確保し、疑問点は個別に解説するようにした。大半の受講生は真剣に取り組んでおり、理解を深め各自の能力を伸ばせたのではないと思われる。課題について、オプション課題は用意せずすべて必須課題としたが、多くの受講生にとって適切な分量であったと考えている。ただし、理解度や習熟度の高い一部の受講生を対象として、発展的な内容のオプション課題を準備することは一考の余地がある。授業では、レポートの作成とプレゼンテーションの準備に関して一般的な説明を行い、対応する内容の課題も課したが、より効果的なものとするために課題の内容やフィードバックについての継続的な検討が必要である。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ことばとは5
授業コード	13E02-005
教員名	石崎 保明
教員コード	102444
登録人数	98
回答数	64
回答率	65.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

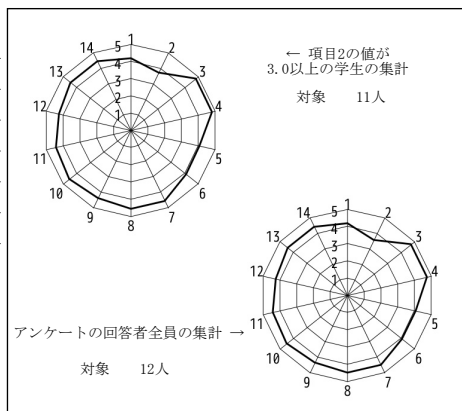
今回授業評価を受けた科目は、昨年度、一昨年度の同クォーターでも担当しており、理論的な説明が難しかったという受講生からの意見を踏まえ、可能な限り日常的な事例に題材を絞り、言語の奥深さを体感してもらうこと、そしてオンラインということもあり、スライドだけでもおおよその授業内容がわかること、の2点を念頭に授業を行いました。

今回の評価結果を昨年度の同科目に対する評価と比べると、一部評価項目が異なるものの、すべての項目で昨年度を0.2から0.9ポイント程度、上回る結果となりました。とりわけ項目14の評価幅が前回と比べて大幅に上昇し、また、項目4を除き、項目7が全体で最も高い評価を受けたことは、授業準備に多くの時間を費やしたことが報われたようにも感じました。

他方、研究室内のネット環境が安定しないことがあり、また講義の中で時折扱う動画再生がスムーズに進行できない場合が幾度もあり、それにより設問8が低く、またこれらの点の指摘をコメントでも受けました。後者については、Zoomの使い方に習熟することにより、克服していきたいと考えています。また、今後も、授業時点で話題になっているトピックを取り入れながら、さらに魅力ある授業を行いたいと考えています。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ことばとは6
授業コード	13E02-006
教員名	丹羽 牧代
教員コード	055715
登録人数	30
回答数	12
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Zoomによるライブ配信のみの講義科目は初めてであり、当初の講義デザインからの変更により損なわれたことと改善されたことの両方があったが、まずまずの授業理解度が得られたのは成果であった。開講当初の目標の中では、ことばのシステムを理解することと（講義前半）、ことばの運用の仕組みを理解すること（講義後半）、この両者を身近で具体的な言語活動に照らし合わせて観察する目を持つこと、を目指していたが、システムの理解や運用の法則などについては、例年と変わらない理解であった。（課題の正答率などから）変化があったかもしれないという部分は、授業中に一斉にチャット機能を使って応答する機会が生まれたことによって、「即座に全員の反応と理解度」を観察し、それを即座に授業の中でのフィードバックとして取り入れることができた点である。数値データ上も、科目内容への理解、新しい知見の獲得などがまずまず良好であったことがうかがえる。ただし、数回の課題内容への解答から判断すると、授業前半であることばのシステムについては、どうしても内容が抽象的になる分、理解度が下がる。この点を踏まえると、専門分野講義ではなく幅広く学ぶという共通教育の目的に即して、前半と後半部分との比重を変えたり、前半内容については取捨選択して取り上げるものを減らすなどの工夫が、来季は必要であると認識している。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語ワークショップD<全>1
授業コード	14A04-001
教員名	BROADBY, Deborah
教員コード	103594
登録人数	7
回答数	3
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

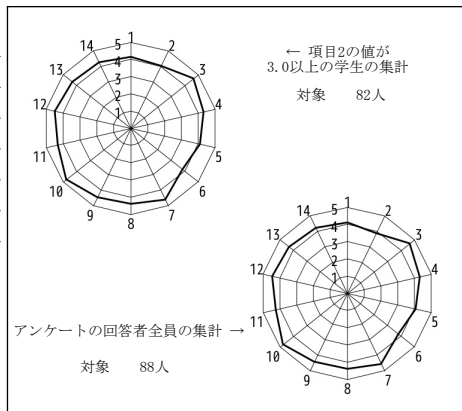
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

I felt that the goals set at the beginning of this course were all achieved to a high standard. The students were able to keep up well with online zoom classes and web class activities as set out in the class syllabus. As no numerical data was given for this evaluation report it is difficult to do an overall self-assessment. However, having taught this course for several years, I felt it ran very similar to face-to-face classes and that students were given the same standard of education. Thinking ahead towards future classes, I feel that this class can benefit from continuing to have some Webclass tasks and other online instructions as well as the traditional face-to-face input.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育入門
 授業コード 24C05-001
 教員名 六川 雅彦
 教員コード 101221
 登録人数 190
 回答数 88
 回答率 46.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



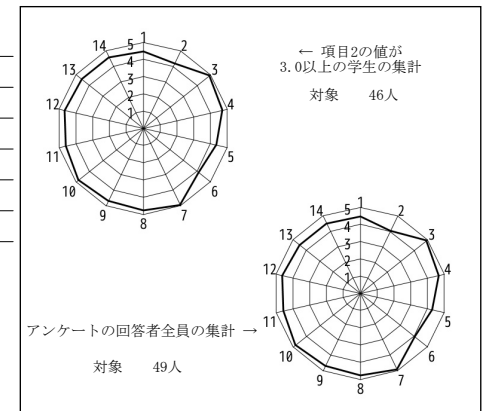
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目の自己点検・評価報告を何度も書いているが、もちろん今回初めてオンライン授業として実施した。オンライン授業として実施したこと、開講時期が違うこと、受講者数が違うことという3点で大きく異なるが、今回の結果から気が付いたことを前回までの評価結果と比較しながら以下で紹介する。

まず全体として、開講当初に設定していた目標と到達の程度も含めて、成功だったと考えている。授業規模が大きくなればなるほど高い評価を得るのが難しいと考えているが、前回から受講者が約倍増したにも関わらず、評価はほとんど変わらなかった。設問は少し違うが、前は3つだった平均値が4.0以下の設問数が今回は2つと減少した。同時に、平均値が4.5以上の設問数も減少した。自由記述に関しても、私のやり方に好意的な意見が大半で安心した。最後に、比率としては前回までと大きく変わらないが、回答者が少ないのが少し気になった。授業時間をとって回答してもらったの結果であり、これ以上どうすればいいのか分からないが、次回以降回答率も改善できればと考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 健康科学論1
 授業コード 12D09-001
 教員名 畑山 知子
 教員コード 101969
 登録人数 110
 回答数 49
 回答率 44.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

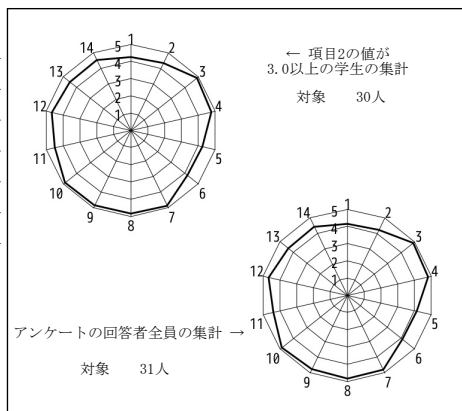


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、オンラインかつ1年生の受講が多く、また、コロナ禍にあることから、課題において自身の身体的状況を把握し振り返ると同時に、そのデータと各トピックとを関連付けて、理解を促せるよう展開させた。授業に対する満足度および理解の深まりは4.5の評価であり、授業の構成や進度はおおむね適切であったと考えている。しかし、到達目標の理解とそれに向けて力がついてきていると感じるかについては、やや低めの評価となっており、改善を要すると捉えている。この点について、ワークシート、リアクションペーパー（チャット等）を有効に活用できるよう構成の見直しを行い、次年度はオリエンテーションにおいて到達目標の確認を行う。今回は、授業時にすべてPC操作で学習が進められるようにワークシートをワードファイルで配布した。回答者には、おおむね「やりやすかった」との評を頂いたが、オンライン学習の環境（モニター使用の有無、使用デバイスなど）によっては、かえって操作しづらいとの意見もあり、印刷する学生にも対応できるように改良したいと考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本史概論
授業コード	22C03-001
教員名	関口 哲矢
教員コード	103639
登録人数	56
回答数	31
回答率	55.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・本講義の目標

高校で習得するレベルに加え、歴史学界でどのような成果が得られているのかという、一歩ふみこんだ内容を扱った。おもな目標は、①基礎的な内容の習得力、②習得した内容の表現力、③習得した内容を活用する思考力、の定着である。

・コメントに対する総評

本講義はオンライン形式（ライブ型）で行われた。教員側に行き届かない面があったものの、全体的に好意的な評価だったと感じる。

内容面についてはなるべく難しい用語を使用せず、基礎の定着を念頭に置いたのが評価されたのではないかと。学生からの感想や質問（前回の講義を受けてシートに記載してもらったもの）をできる限り紹介し、教員側の考えを語ったことへの共感も得られたものと考え。話すスピードを下げ音量を大きくしたのも、理解度の向上につながったと思われる。

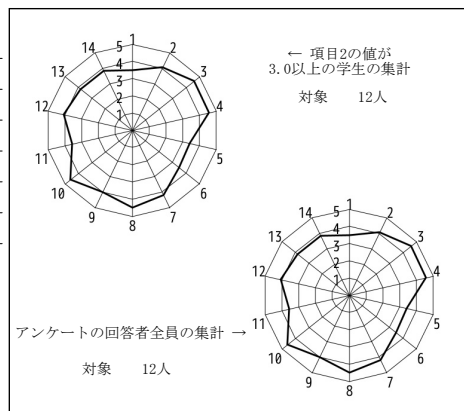
質問等には、できる限り迅速に対応するよう心がけた。出席カード等の提出期限を設けるなど、学生がよい緊張感をもって受講できるような工夫も取り入れた。どこまで厳格さを求めるかは賛否があると思うが、各種ルールの導入は今後も取り入れていきたい。

・次期開講に向けての目標

学生とのコミュニケーションを一層はかかっていく。学生への質問によって理解度を確かめながら講義を進行し、疑問点についてはフォローを逐次行う。コロナの感染状況によるが、学生同士の話し合いが可能であれば取り入れ、互いに刺激あっていかちを追求したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	知識と社会
授業コード	22C21-001
教員名	竹下 至
教員コード	103135
登録人数	45
回答数	12
回答率	26.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①

開講当初に設定していた目標は「認識論の様々な問題と、それについての様々な立場、考え方を知る」というものだった。その目標の到達度は、授業内の小テストとレポートの結果から判断するとそれほど低くはないと感じた。しかしアンケートの結果にあらわれている他の科目との比較で言うと低く、改善の余地が大きいことが分かる。

②

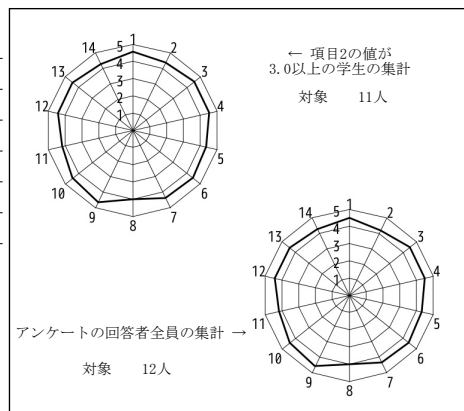
アンケート項目の中で、理解度や達成感に関わる項目（番号5、6）の値が低かった。今回の授業では、毎回簡単な小テストを出して理解度を高めようと試みたが、十分な効果が得られなかったようである。また、質問の時間は当然設けたものの、学生から反応が無いとつい先に進んでしまっていた。分からないけれども質問・コメントしづらいという学生の声を拾えていなかったと言える。

③

より理解度を高めるように、講義の仕方、小テストの内容・難易度を見直して改善したい。また、学生が反応しやすいシチュエーションを作るようにもしたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と進化
授業コード 22C32-001
教員名 亀井 伸孝
教員コード 102690
登録人数 32
回答数 12
回答率 37.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 遠隔授業ゆえに、環境の変化や技術的なトラブル、学生の集中力の低下などが危惧されたが、貴学におけるシステムの準備が功を奏し、また学生たちも半年の遠隔授業を経験した後での受講であったこともあって、トラブルはほぼなく、当初予定の目標を十分に達成した。

(2) 学生による評価では、内容の興味、時間を守ること、構成や進行速度の適切さ、教員の配慮、教材などにおいて、4.5以上のポイントを獲得した。到達目標に向けて力を付けたこと、授業の妨げに対する適切な配慮、質問・相談の機会や事前事後の指導、新しい知識といった各点において、4.4以上のポイントを得た。

到達目標の理解、授業への誠実さ、真剣さの点において、4.3以上のポイントを得た。

全体としての満足度も、4.2以上のポイントを得た。

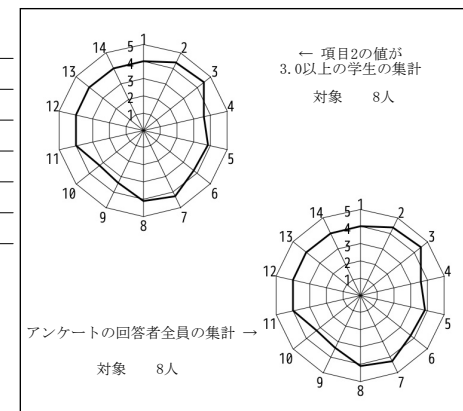
自由記述では、教材の工夫について評価された。一方、時々早口になってしまう点についての改善要望があった。

このような好評価を励みとし、内容の詰め込みすぎによる理解不足が生じないよう、今後とも研鑽に努めていきたい。

(3) 次年度は非常勤講師として本科目を担当しないこととなったが、またご縁があれば、このような評価を励みに、また貴学において寄与できる機会があればと願っている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 福祉論
授業コード 20A11-001
教員名 児玉 克己
教員コード 102510
登録人数 48
回答数 8
回答率 16.7%
休講回数 1 回
補講回数 0 回

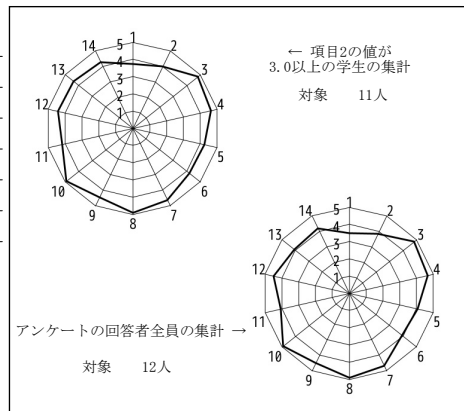


授業評価結果を踏まえた点検・評価

地域包括支援の重要性が高まり、自助・互助・共助・公助の意味、その役割の理解が重要になってきている。自助が基本である事は言うまでもないが、現状においては限りなく脆弱な状況になっている。孤独死、生活保護の減額、児童虐待・貧困問題、旧優生保護法の違憲判決、障害者施設における殺傷事件、その背景にある優生思想、出生前診断等、いろいろな社会的問題が散在している。これらの事柄全てが自分たち生活圏全般において深い関わりがあることを理解し、社会の現状を理解し互助・共助・公助の理解を進め、自分たちに何ができるかを学ぶ機会になってほしいとの授業であり、授業目標は概ね達成できたのではないかと考えている。しかしながら、初めてのリモート授業であり、器具等の使用において不慣れな点があり、本来学生が自らの考えを発言し、意見交換等の質疑を通して問題を深めなければならなかったが不出来であった。今後は皆が活発に参加できる講義形式にしていきたいと考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学統計法
授業コード 23C75-001
教員名 脇田 貴文
教員コード 101105
登録人数 39
回答数 12
回答率 30.8%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達の程度に関しては、これまで筆記試験を行っていたが、レポート評価になったため、必ずしもすべての面で到達できたかは定かではない。しかし、概ね達成できたと考えられる。

12名の回答があったが概ね良好な評価を受けたと考えられる。オンラインであったため、ほとんどの学生が顔を見せていない状態で講義を行った。統計科目であるため、学生の理解度に合わせて進度を調整したり、補足説明を入れたりする必要がある。顔を見せても良いと言ってくれた一部の学生に、google meetsを使用して顔を見せてもらい、講義を進めたがそのあたりは不十分だったと思われる。

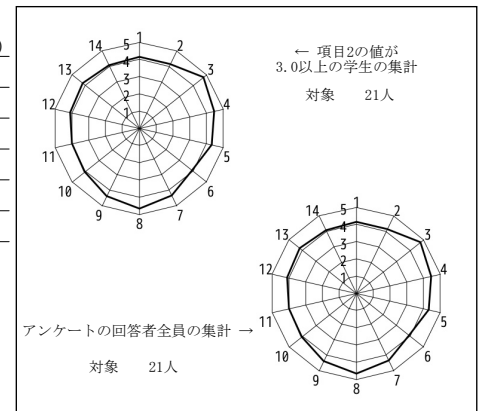
講義中もチャットを通じての質問を受け付けた。この点に関しては、通常の対面授業では困難な部分もあるため、質問がしやすかったと思われる。

自由記述に関しては、「わかりやすかった」という記述をはじめポジティブであった。

次年度に関しては、オンラインか対面かが決定していないため、どのような形になるか分からないためその時々で判断する。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 医学概説(人体の構造と機能及び疾病)
授業コード 23C77-001
教員名 丹羽 統子
教員コード 104280
登録人数 64
回答数 21
回答率 32.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：各講義のテーマに沿って臓器や代表疾患について説明するという目標は達成されていたが、取り上げた項目が膨大で羅列する講義となってしまい、内容を掘り下げることができなかった。達成度は5割程度。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：準備に時間がかかり資料提供が遅かったため、学生が前もって授業に備えることができなかったのは問題であった。広い分野の話を簡潔にまとめたことは評価されたが、一方内容量が多く学生の理解度が低かったことに対して改善が求められる
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：内容を絞って理解される授業にしていきたい。学生自身が課題に対して考える時間を作していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	王朝文学研究
授業コード	24C34-001
教員名	大井田 晴彦
教員コード	101186
登録人数	12
回答数	1
回答率	8.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

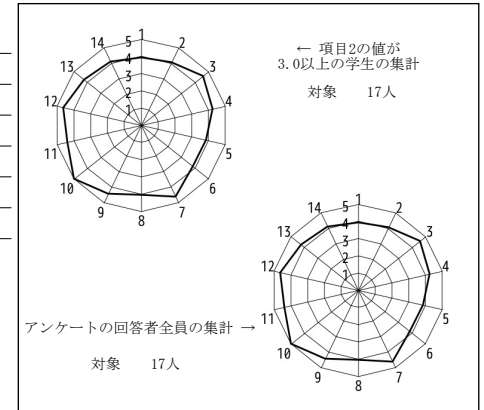
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① おおむね目標は達成した。むしろ当初の予定より授業は進捗し、想定していたレベルより高いものとなったと思う。
- ② 少人数であったこともあり、授業は順調に進行し、それなりの成果を得た。遠隔授業での不便はさほどなかった。
- ③ 引き続き学生の学力の学習意欲と学力を高める授業をめざす。なお、クォーター制度が、学生にとって学習効果があるのか検証する必要がある。やや消化不良を起こしているのではないかと危惧がないわけではない。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語史I
授業コード	24C47-001
教員名	久保菌 愛
教員コード	104259
登録人数	38
回答数	17
回答率	44.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

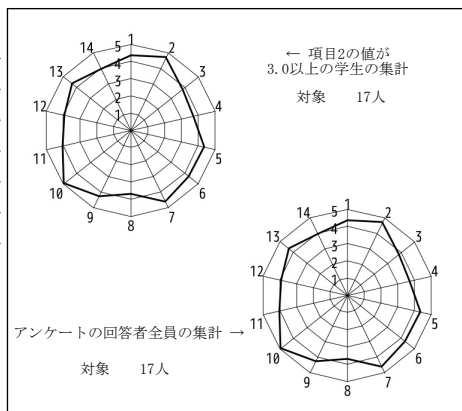


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初の目標と到達程度について
本授業では、日本語文法史・語彙史の重要なトピックについて理解するとともに、資料性を理解しつつコーパスを使って自ら用例収集することを目標とした。また、複数の見解に分かれるテーマについて、自らの見解の提示や教授者への反論を示すことも併せて目標とした。
コーパスの利用については、多くの学生が達成できていたように思われる。期末レポートにおいてもコーパスを駆使して用例収集と分析を行っていた学生も見られた。また、諸説あるいは教授者の提示に対する自身の立場・見解の表明については、やや学生間で到達度に差が見られた。しかしながらほぼ全員が何らかの形で見解を示そうという努力をしていたため、目標を概ね達成したといえる。
- ② アンケートを踏まえた総合的な自己点検・評価
学生からの評価について、特別低い評価はなかったように見受けられる。一方通行の講義だけでなく、授業中に作業を行う、授業中に出了た質問を全体で共有しつつ回答するという点は今後も継続したい。ただ、遠隔授業において通信機器の不具合等で聞き取りづらい点があったため、その点は万全を期したい。
- ③ 今後について
来年度以降の担当授業はないが、今後授業をすることがあれば、上記のように学生と対話しつつ授業を進めたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育教材研究
授業コード	24C62-001
教員名	伊藤 恵美子
教員コード	102909
登録人数	18
回答数	17
回答率	94.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年の特徴を3点挙げる。1つ目は履修者全員が当初設定していた目標に達したので合格となったものの、到達の程度にはやや差が見られたことである。学部・学科を問わず2・3年生は欠席者がいなかったこと、授業中に退室する学生もいなかったこと、積極的な発言が見られたこと等、これまでの履修生と同様に南山生らしい好意の持てる態度であった。それに対して、4年生には卒業のためという発言がありグループの活動に消極的な学生が若干名いた。2つ目は数値データから、8割の学生が高い評価を付けている項目でも授業への興味が低い学生の評価は低く外れ値と見做せるが、受講生が多くないので平均値を下げていることである。3つ目は演習形式なので対面授業であると告知したにもかかわらず、学生の希望を尊重してZoom配信とのハイブリッドとした。多くの科目がオンライン授業のためであろうが、本来は対面授業であることをはき違えている学生も少数ながらいた。自由記述は「説明がわかりやすかった」「レジュメも見やすく、復習のしやすいものでした」「レポート提出も余裕をもって取り組める課題だった」「一つ一つの学生の発言に対して先生がコメントを下さるところが良かった」「主体的に授業を受けることができた」「先生から誠実さや親しみを感じたところも向上心を持って受講した理由の一つである」等、評価が高いので、今後もより満足度が上がる授業を心がけたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies BI
授業コード	31B05-001
教員名	SAKAMOTO, Fern
教員コード	103615
登録人数	11
回答数	4
回答率	36.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

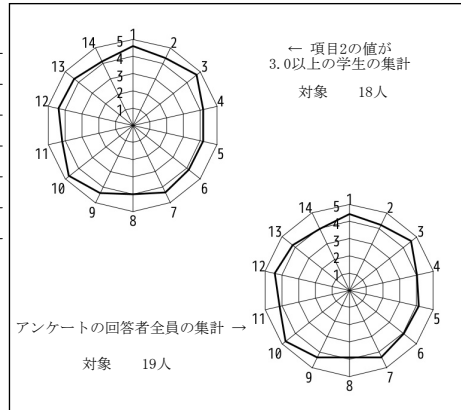
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aims to equip students with a heightened awareness of their own cultural lenses and to develop their intercultural communication skills. It incorporated a significant COIL component to give students the chance to work together with students in America and discuss several of the course themes with them. Looking at student reflections throughout the course, it is evident that the students made many personal discoveries and did develop their own intercultural competencies. Looking at their evaluations, it is difficult to make any real comment. This is primarily because only four students completed the survey, and those results were not collated. Given the online nature of the course however, it is difficult to do more than request that they complete the survey and then leave them to it. Looking at the raw data, those who did complete the survey seem to have been, on the whole, satisfied with the course. The combination of online + COIL did make it difficult to monitor student effort, so I was concerned about requiring too much or too little from them. Having seen the final results of their projects and read their personal feedback in class, I feel that the workload was appropriate. The COIL element was definitely worthwhile, and were I to do it again, I would provide more scaffolding to Nanzan students earlier in the process to encourage them to begin communicating sooner.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イギリスの社会
 授業コード 31E07-001
 教員名 松波 京子
 教員コード 103864
 登録人数 63
 回答数 19
 回答率 30.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

「イギリスの社会について、その社会的・歴史的背景を理解しつつ、現在いかなる問題を抱えているかを知り、その問題について自らの意見を考え、またそれを主張することができる」との問題設定であったが、ほとんどの学生が目標については到達できたと感じています。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

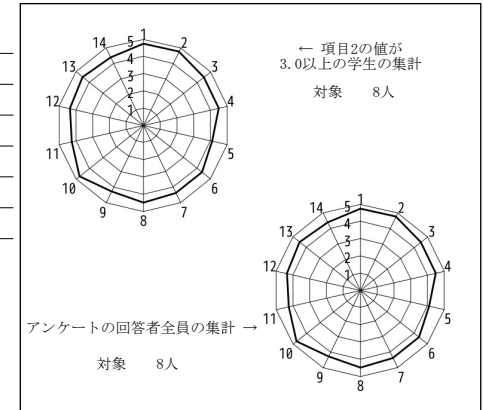
初めての双方向性オンライン講義ということで講師側も試行錯誤しており、受講生の皆さんに助けをもらいながら講義を実施することとなりました。講義の目的はほぼ達成されたと評価しておりますが、オンライン講義の実施方法そのものにいろいろな意見がありました。このオンライン評価では出席のとり方が厳しいという意見がありました。講義の最後のアンケートでは、出席のとり方がちゃんとしていて安心したという意見もありました。通信が切れるという問題も悩ましい問題でした。皆さんのご意見は、今後の講義運営の参考とさせていただきます。ありがとうございました。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

講義内容の方向性については維持しつつ、学生とのディスカッションの時間を少しでも多くしていきたいと考えています。また、オンライン講義実施への工夫も考えていきます。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IV2
 授業コード 32A27-002
 教員名 SALA, Lidia
 教員コード 101563
 登録人数 32
 回答数 8
 回答率 25.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

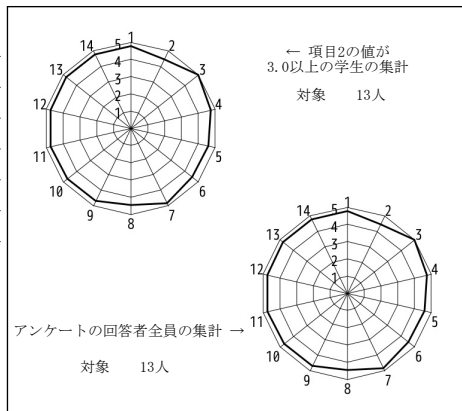
Based on student evaluation's results, course objectives were achieved. High percentage in questions 13 (4.50%) and their personal remarks about the course show that students feel that they improved their reading skills, despite online environment. Furthermore, questions 3 and 8 (4.50% each) show that technical problems were not an issue for class development.

This is a demanding class, for both students and teacher. Students know well about it on Q3, as percentage levels about their effort in questions 1 and 2 (4.73%) and about their difficulties to cope in questions 5 and 6 (4.13% and 4.38%). Compared to face to face teaching, it was harder to provide personal attention to the students. Instead, I tried to provide complementary teaching materials for them, which have been used and appreciated, according to their remarks.

As for next year, I believe developing complementary activities using online resources will help filling the gap between course objective and student expectations about the class.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス文化特殊講義B
授業コード	33C13-001
教員名	七條 めぐみ
教員コード	103896
登録人数	36
回答数	13
回答率	36.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

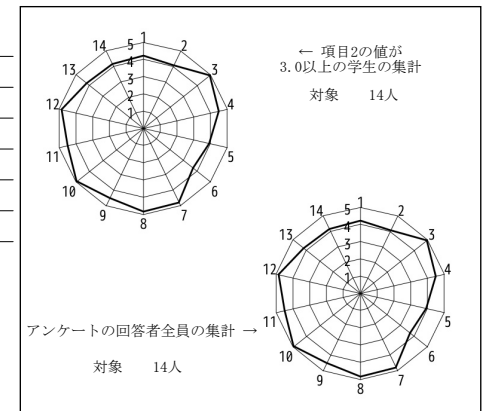


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業ではフランス音楽の歴史について、(1)学問的な関心を抱くこと、(2)西洋史と関連づけながら理解すること、(3)フランス音楽の特徴を自らの言葉で説明することを目標としていた。これらのうち(1)と(2)に関しては、大半の受講生が積極的な関心を持ち、世界史等の知識と結び付けながら理解しようとする姿勢が窺えた。一方で(3)に関しては、授業で学んだことを適切に記述する能力に個人差が見られ、到達が十分でない受講生もいた。
- 今回のアンケートでは項目全体の平均が4.71点と、学科の平均以上の高評価を得ることができた。今年度はすべての回をオンラインで実施し、授業で使用した課題曲をWebサーバー上にアップすることで、復習しやすいように工夫した。そのことが、コメントシートの内容やアンケートの数値にも反映されたと考えられる。ただし、DVDを視聴した回では回線速度の問題からほとんど見ることができなかった学生もいたように、オンライン実施ならではの課題をどのように克服するか、検討が必要である。
- 対面・オンラインにかかわらず、より多くの受講生が授業に能動的に参加し、内容を十分に理解できるよう努めたい。具体的には、音楽・歴史に関する事柄を客観的に記述するための実践的課題の設定である。そのために、授業者が一方的に講義を行うだけでなく、受講生の演習に対してフィードバックする回を設けるなど、授業内容の改善を行いたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	タイ文化研究
授業コード	35D15-001
教員名	加藤 久美子
教員コード	100483
登録人数	58
回答数	14
回答率	24.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 開講当初に設定した授業目標は、「タイ国の自然環境、タイ国に住む諸民族の文化、タイ国の歴史について理解すること」と「タイ(Tai)族地域の自然環境、各国に住むタイ(Tai)族の状況とその歴史について理解すること」であった。オンラインでの授業となり、評価方法を当初予定していた定期試験から毎回の授業の概要をまとめて提出してもらう形に変更したため、修了時に受講生の到達度がどの程度であったかははっきりしないが、提出されたものを見る限り、各授業時における理解の程度はかなり高かった受講生が多いと感じる。
- 数値データを見ると、5の「授業の到達目標が理解できたか」、6の「到達目標に向けて力がついてきていると感じるか」については他よりも数値が低かった。「…について理解する」という目標の掲げ方が、あいまいさを含んでいて問題なのかもしれない。また、自由記述には、授業の要点をわかりやすく説明されれば更に意欲的に取り組めるとの意見があった。自身の専門である歴史分野については専門的内容も多くなってしまったが、それを理解することにどのような意義があるのかをもっとわかりやすく強調して伝える努力が必要であったと反省している。その他、評価方法については、受講生の意見も聞いたあと試行錯誤の末にオンライン授業に適した形と思われるものに決めたのだが、第一回の授業時に確定してほしかったとの意見も寄せられた。受講生の立場からすれば、評価方法はできるだけ早期に決定しているほうがよいのだと、あらためて気づかされた。
- 初めてのオンライン授業で、いろいろ不手際もあったこととお詫びしたい。また、今後は対面授業にせよオンライン授業にせよ、授業の要点とそれを学ぶことの意味をよりわかりやすく伝えられるよう努力したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジア文献講読B
授業コード	35D17-001
教員名	北野 浩章
教員コード	104302
登録人数	7
回答数	4
回答率	57.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標としたのは、以下の3点である。

1. 東南アジアの歴史や文化などの基本事項を、英語を通じて理解する。
2. 東南アジアに関する時事英語紙を読み、時事を語るための英語表現を習得するとともに、地域の現状を理解する。
3. このような練習を通じて、東南アジアに関する英語の基本文献を読解できるようになる。

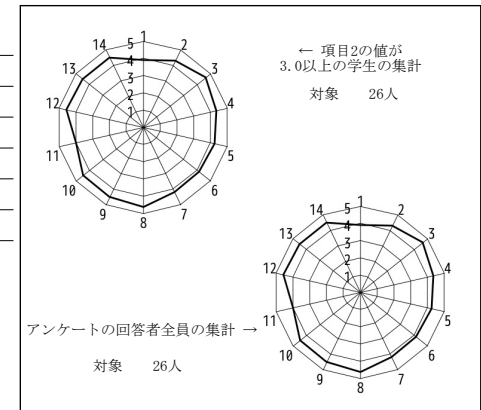
授業の前半に使用した教材（東南アジアについて簡潔にまとめられた入門書の1章）は適切なものを選択したと考えているが、時間配分がよくなく、歴史にかたよってしまった。オンライン授業の特性をよく考慮した上で、もう少しテンポよく授業を進めるべきであった。ただ、時間をかけた分、基本事項への理解は深くなった。

この授業の内容は東南アジアの地域史、地域研究であり、高校までの社会科で習うかもしれないことも含まれるが、ほとんどの受講者にとってなじみのないものであった。英語で読んで理解するという前に、日本語で基礎知識をつけておく、ということもできたはずである。しかしながら、自習でそれを積極的にやっていた受講者は少ない。むしろ教員がそれを勧めるべきであったと感じている。

授業の後半では、（教育、ジェンダー、宗教といった）多彩なテーマごとに、受講者の興味を反映した読み物を読んだ。広く興味を喚起することはできたが、散漫な印象も与えてしまったので、これも次年度に向けての改善点である。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門2
授業コード	40B03-002
教員名	西 一夫
教員コード	103655
登録人数	45
回答数	26
回答率	57.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回も回答学生の人数が少ないため、参考データとして評価報告を行う。

データ処理入門の到達目標として下記の点を掲げた。

『ワードとエクセルの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける。』

この目標に対しては、授業評価項目No5（この授業の到達目標を理解することができましたか。）においては4.27であり、前回より0.3ポイント低下した。また、No6（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。）も4.15と前回より0.42ポイント低下した。原因について項目15の自由記述を見ても前回とあまり変わった内容はなく、原因不明である。

さらに、前回指摘のあった「キーボードの配列などが異なっていると、人によっては指定された操作が行えない」という指摘に対して今回は「Win/Macショートカットキー操作」の表をDLサーバーにUPしたため、同様の指摘は聞かれなかった。

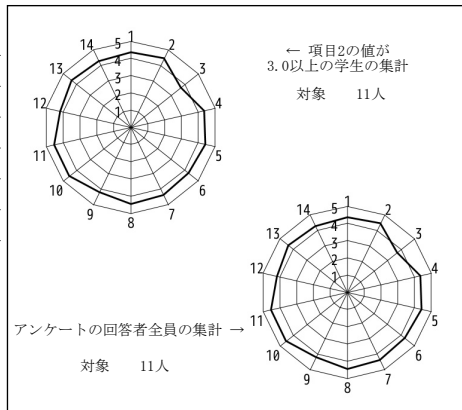
No8の（オンライン授業中の教員の声や音声機器の音の聞き取りについて）は評価値4.62で0.02の低下しかなく概ね良好であったと思われる。

自由記述において「遅れてきた学生に対して時間を使うことが多かったので、遅れてきた学生については授業のきりが付いたところで教えるようにしてほしい」という記述があったが、実際その通りで、対面では何気ない解説がオンラインで待たされる学生にとっては苦痛に感じることを意識してオンライン授業をしていかなければならない必要性を感じた。

この先もまだ見通せない状況のコロナ禍であるが、来年度は収束することを願うばかりである。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アメリカ経済論B
授業コード 40D57-001
教員名 大橋 陽
教員コード 102462
登録人数 25
回答数 11
回答率 44.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

当初計画のシラバスを大きく変更し、南山大学の定める遠隔授業、リアルタイム双方向型遠隔授業と自主学習の組み合わせで、改めて授業を組んだ。単位の実質化で求められている「授業時間外学習」を自主学習として組み込んだだけであるが、こちらが求めている学習量、質に達している者は半数程度であったと思われる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

「3 オンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていましたか。」の項目が低くなっているが、完全に私のミスで、開始時間が遅れたことが1回あった。オンラインだったため、授業実施有無も含めて学生を不安にさせて申し訳なかったと思う。また、オンラインでの機器などについては自由記述で指摘もあったが、概ね良かったと思われる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

非常勤講師なので、授業実施についての情報が届くのが何かと遅くて困っている。もちろん新型コロナウイルス感染症の状況は、予測が難しいが、対面に戻るのか、遠隔が継続なのかなど、早めに情報いただければ、準備をして授業に望もうと思う。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語B3
授業コード 40E07-003
教員名 NORTH Cameron
教員コード 100400
登録人数 5
回答数 1
回答率 20.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

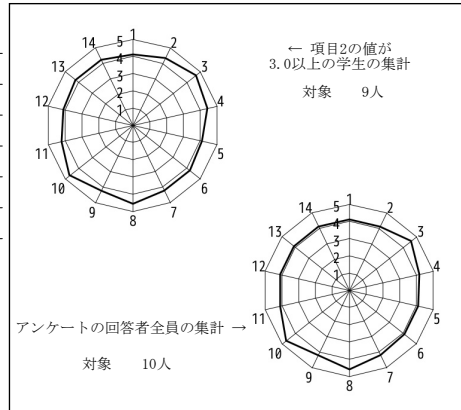
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Classes were not cancelled.

The goals were met to a degree. The amount of homework done was disappointing. If students follow the plan more carefully, there will be greater success. Nonetheless, inside the class, went well. Overall, the class was a success. However, the input of students will make it better. Students have to prepare for class and come on time. In the future, I will stress preparation and review more carefully. I will also try to make transitions in the lesson even more smoothly.

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人事管理論B
 授業コード 42C28-001
 教員名 余合 淳
 教員コード 103585
 登録人数 66
 回答数 10
 回答率 15.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

人事管理に関する基礎的な知識を踏まえ、企業に代表される組織と人のかかり方、特に組織側の視点に立ち、組織内の人々をどのようにマネジメントするべきかについて、特に理論と実践の関係性について理解することにあった。講義では、通常消費者、あるいは労働者として接する機会の多い企業のマネジメントを対象に、特に人材マネジメントの観点から、企人事や労働を学習した。レポート及び期末試験の結果からは、概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。

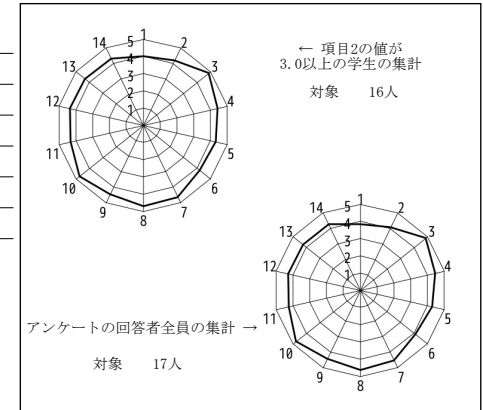
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

数値データ全体の平均値は、経営学科平均値とほぼ同等である。特に項目3, 8, 10については高く、開始時間や音声、ネットワーク環境など、授業の円滑な実施についての環境整備については一定の評価がある。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
 最も数値の低いものが予習復習と到達目標の理解であった。講義の中で到達目標を具体的に明示するような形をとっているが、その到達目標を達成しているかを学生がより確認しやすい形をとるような仕組みを検討する。特にオンライン下では興味を持った主体的な参加については過去と比較して難しい側面があるため、投票やチャット等、既に取り入れているものもあるが、学生参加の方法についても再度工夫を検討する。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 管理会計論
 授業コード 42C44-001
 教員名 齋藤 孝一
 教員コード 018259
 登録人数 47
 回答数 17
 回答率 36.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

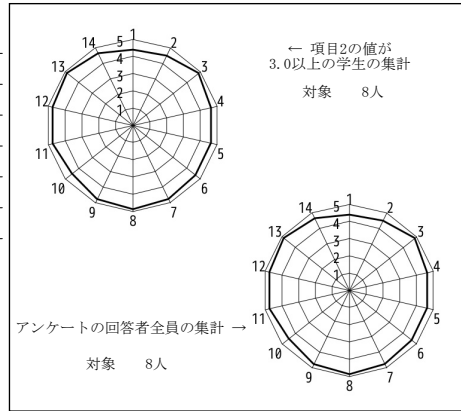
本科目は、管理会計の意義と特質について、利益管理の構造、利益図表、CVP分析、資金管理、標準原価計算、直接原価計算を取り扱ったものである。アンケートの結果は、設問1~14の平均値は4.36、設問3~14の平均値は4.43であったので、目標は概ね達成できたと考えることができる。授業の目標達成度については、設問6の平均値が4.12で、5と4を付けた学生が88.25%であった。設問4「授業の構成や進行速度は適切であったか」は平均値4.47で、5と4を付けた学生が88.24%であった。設問14「全体として授業に満足したか」は平均で、5と4を付けた学生が76.47%であった。設問12「質問や相談の機会が十分に設けられていたか」は平均値4.29で、5と4を付けた学生が76.43%であった。

設問8「教員の声や音声機器の音は良く聞き取れたか」は平均値4.65で、5と4を付けた学生が94.12%であった。また、設問3「開始時間は守られていたか」は平均値4.88で、5と4を付けた学生が100%であった。設問10「授業の妨げになる行為に対して適切な対処がなされていたか」は平均値4.76で、5と4を付けた学生が100%であった。

ZOOMによる授業であったが、WebClassのメッセージ機能やZOOMのチャットによって学生とうまくコミュニケーションが取れたのではないと思う。課題として資料をいつupするかという問題をあげることができる。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営管理論B
 授業コード 42E04-001
 教員名 藤川 なつこ
 教員コード 101618
 登録人数 39
 回答数 8
 回答率 20.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の学修目標は、①経営管理論の理論的内容を理解した上で、②現実の企業の事例を、経営管理論を用いて分析し、③現実の企業が抱える経営課題に対し、経営管理論の視点から打開策や改善策を提示すること、であった。学生による授業評価の設問13の回答の平均値が4.88、設問14の回答の平均値が4.63であることから、学修目標を概ね達成できたと判断できる。

また、全ての設問項目で学科平均以上の高い評価を学生から得ることができたが、これは以下の点に心がけながら講義を進めたことによるものであろう。

①小レポートの実施

単に講義を聴くだけでは、受け身の講義になってしまうので、講義後には小レポートを実施し、その日の講義内容について学生に考える時間を与え、理解を深めるようにした。

②学生からの質問への対応

講義後にチャットに質問を書いてもらうということを毎回行った。また、そこで出た質問に対しては、全体に対してその都度回答した。このことによって疑問と答えの共有を進めることができた。

以上のように、一方的に講義をするのではなく、学生からの意見や質問にも応えることによって、双方向の関係を築き、学生とともに講義をつくり上げていったことが、学生からの「今回受けた授業の中で一番わかりやすい授業だった。生徒にわかりやすく伝えようとする姿勢が感じられた。チャットで質問したことに対してしっかりと答えてくれた。」という評価に繋がったと考えられる。

しかしながら、以下の課題も残されている。

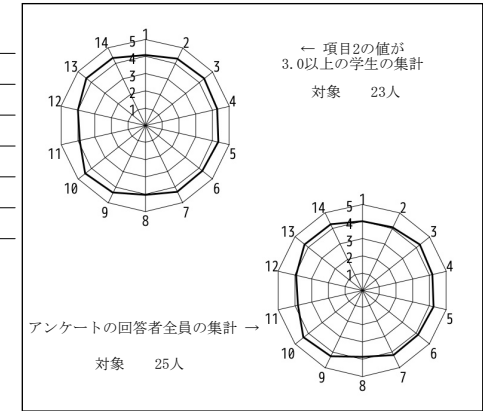
①インプットとアウトプットの時間配分

②授業外の自主的な学習意欲の喚起

以上の点を踏まえて、学生の学習意欲を高められるような、より参加的な講義にできるよう次年度はさらなる努力をしていきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(電子・電機産業論)2
 授業コード 42F03-002
 教員名 塩川 順久
 教員コード 103587
 登録人数 98
 回答数 25
 回答率 25.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



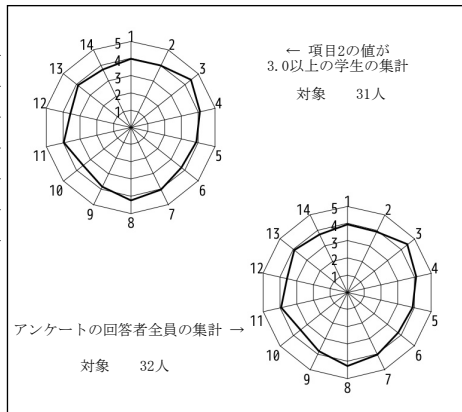
授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生90~100名対象のZoomを使ったオンライン授業は非常に難しいと判断し、オンライン授業は1回(2講義)だけで8回中7回は講義資料のPPTとExcel資料を読んでもらい、WEB Classでコメント・質問を受け、WEB Classで個別に答えると同時に次回の講義資料の前段に質問と答えを書き込み全員が参考に来るような形式にした。このやり方を良く評価する学生もいたが、結果設問項目8(教員の声や音声機器の音は)。11(学生の学習意欲を引き出したか)。12(質問や相談の機会が十分か)への評価が4以下で、総合評価が4.14と平均評価数値より低くなり残念です。2021年の授業形態は未決定と理解してるが、オンライン講義になった際には、出来る限り資料を読んでもらうだけではなく、なるべくオンライン講義にし、質問や相談をし易い工夫をし、如何に学生の学習意欲を引き出すか、適切な方法を実践していきたい。

塩川順久

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代産業論(自動車産業論)2
授業コード	42F04-002
教員名	村井 清
教員コード	103111
登録人数	98
回答数	32
回答率	32.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



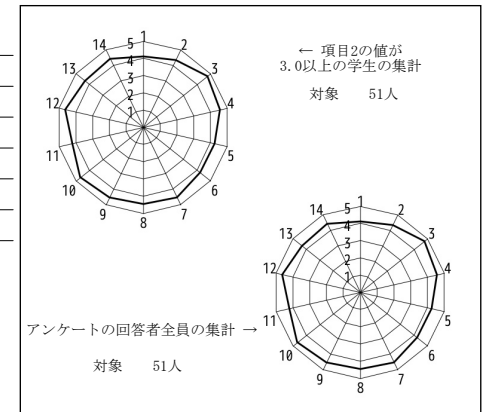
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について；最終成績A+&A 4 6人（2019年3Qでは2 4人）、C 6人（2019年3Qでは1 9人）と前年の対面授業とオンライン授業の違いはあるものの成績が向上しており到達の程度は上がったと判断。

②数値データ、自由意見等を踏まえた自己点検・評価；すべての設問で経営学部、6 1人～1 2 0人平均を下回っており、大きな要素としてオンライン授業の操作方法等小職の理解不足によるものが影響していると深く反省。特に授業の妨げになる行為に対して適切な処置がなされたかについては平均に対して1ポイント以上の評価に差がある（小職に対する評価3. 5に対して経営学部平均4. 5、6 0～1 2 0人平均4. 6 4）ことについて現れている。また自由意見に見られる「この授業でよかった点は」の回答「ない」2名、「Webクラスの質問、チャットの質問」に対して解答が無かった2名、画面が共有されていなかったは学生に迷惑をかけたと反省。対面授業のデメリットのひとつ「授業が一方向的で学生の反応に応じた臨機応変の対応が難点」が前面に出たことは残念に感ずる。急遽始まったオンライン授業について講師側、大学運営事務局側に大いに反省すべきことがらを課題として多くを残した。今後に生かすべく教訓としていただきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本法史
授業コード	44B34-001
教員名	代田 清嗣
教員コード	104266
登録人数	154
回答数	51
回答率	33.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標が必ずしも具体的でなかったため、学生には目標到達についての実感が得られなかったようであるが、古代から近代までの裁判制度・民事法・刑事法を概観し、各時代についてレポートを課したことで、当初設定した目標には多くの学生が到達できたと思われる。一方で、各時代や各法分野についての俯瞰的な知見は示さなかったため、法文化・法意識にまで学生の目を向けさせることができなかった。

講義の双方向性という面では、各回に質問時間を設け、多くの回で質疑応答を行うことができた。一方、講義中に学生の参加を促すようなイベントを設けることはできなかった。これは講義内容を過密にしたためであり、各回後半が駆け足になってしまった。

次期にあっては、内容を厳選するとともに、学生が講義中に史資料を読み、そこから知見を得るような機会を設けたい。また中長期的には、到達目標をより具体的なものとして、学生が目標到達の実感を得られるよう講義を設計したい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際経済組織法
授業コード	44C11-001
教員名	水島 朋則
教員コード	103634
登録人数	11
回答数	1
回答率	9.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

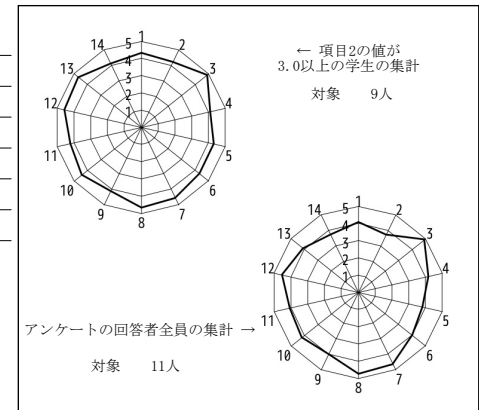
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①今年度は、目標に達していない学生（不合格）が0人であり（前年度は試験の受験者35人のうち3人が不合格）、その意味では開講当初に設定していた目標は十分に到達したと言えるが、受講者が11人と少なかった点には留保が必要である（同じく不合格者が0人であった一昨年度も受講者は11人であった）。
- ②残念ながら回答者が1人のみのため、数値データの評価については留保したい。自由記述（項目15）として「毎回レポートの仮の点数が分かるので、次は満点を取りたいと思い、意欲的に取り組むことができた。毎回コメントやアドバイスをいただけて、とても参考になり、次のレポートを改善させることができた。・・・レポートに毎回コメントをくれる先生は初めてだったので、アドバイスをみて次のレポートに活かすことができるのが、ありがたかったし、やる気につながった。」と書かれており、このような自由記述はこれまでもなかったわけではないが、こちらとしても「やる気につながる」。
- ③項目16に関する自由記述として「たまに、しゃべりだしの最初の部分が、マイクが遠くなっており、声があまり入っていないときがあった。・・・最初の一単語分くらい、急に音声小さくなって聞き取りづらいときがあった。」と書かれており、これはむしろ項目17（オンラインの授業環境）に関わるものかもしれないが、オンラインで授業する場合には注意することとしたい。逆に、項目15に関する自由記述として「授業の説明も、適宜図を使うなどして、とても分かりやすかった。」と書かれている点は、Zoomの画面共有機能を有効に活用できたことに対する評価だとすれば、対面で授業する場合にもオンライン授業の経験を活かせるように何らかの工夫をしたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	会計学
授業コード	46D08-001
教員名	梅田 守彦
教員コード	103893
登録人数	36
回答数	11
回答率	30.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



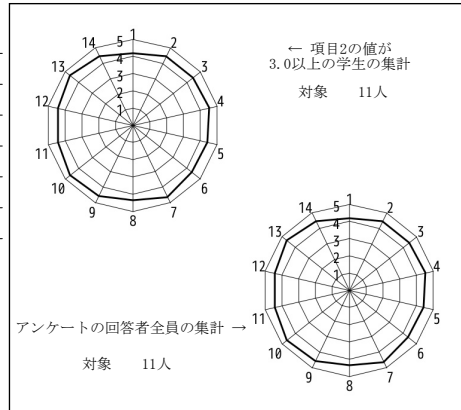
授業評価結果を踏まえた点検・評価

かなりの高評価をいただいた昨年とは異なり、今年度の評価は相当に低いものになってしまいました。とくに「全体としてあなたはこの授業に満足しましたか」という項目は3.73と非常に低い値となっています。昨年度とは内容を大幅に変更した箇所がいくつかありますので、これは講義内容そのものに起因するものなのか、それともオンライン講義の進め方の不慣れによるものなのかはよく分からない部分もありますが、いくらか内容を詰め込み過ぎたために、少なからぬ受講生のみなさんが消化不良を起こしてしまったようにも感じます。

今年度は講義の後半部分に原価計算の基礎に関する説明を置きましたが、これによって講義内容が二分されてしまった側面は否めないでしょう。そしてまたこの部分は計算が大きなウエイトを占めますので、ここで理解しづらく感じた受講生も少なくないのではないかと思います。次年度に向けては講義内容のスリム化・整理を図り、無理なく学習を進めることができるような内容のものにしたいと考えています。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代史
 授業コード 46D10-001
 教員名 柳澤 幾美
 教員コード 101592
 登録人数 49
 回答数 11
 回答率 22.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

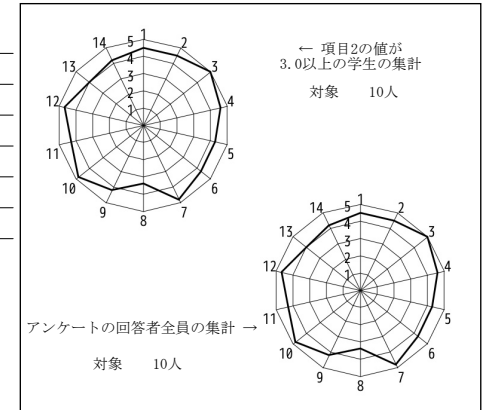


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 当初に設定していた目標と到達の程度について：オンライン授業であり、講義中心ではありませんでしたが、学生になるべく関与してもらいたいと、毎回のリアクション・ペーパーを課し、次の週に丁寧にフィードバックを心がけました。良いコメントを紹介したり、質問に答えたりしているうちに、徐々に活発な意見が述べられるようになるのが見受けられました。また、最後の授業でディカッションの時間を設けましたが、かなりの学生の発言がありました。当初の目標は、ある程度は達成できたと考えています。
- 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：数値データについては、ほぼ平均値より少し高めで、1項目のみ少し平均値より低めでした。それはオンライン環境についての項目で、通信が悪かった学生がいたのかもしれませんが。自由記載は、「わかりやすかった、ビデオもあった」というコメントが1件ありました。わかりやすく説明をし、講義の合間にビデオも効果的に使用したのが良かったと思います。回答した学生の数が少なく、少し残念に思いました。
- 次クォーター・学期に向けての改善点、今後の豊富、方針など：オンライン授業は学生も教員も慣れず、とりわけZoomで行った時に学生全員がビデオをオフにしていたため、反応が全くわからず、苦慮しました。それでも、リアクション・ペーパーは対面授業と変わらず、活発な意見が書かれていましたので安心しました。来年度も今年度同様、学生に問題提起し、考えることができるように、わかりやすい授業を心がけ、こまめにフィードバックしていきたいと思います。今後も誠心誠意を尽くして授業に臨みたいと思います。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語文法II2
 授業コード 33A18-002
 教員名 遠藤 美加
 教員コード 101551
 登録人数 24
 回答数 10
 回答率 41.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

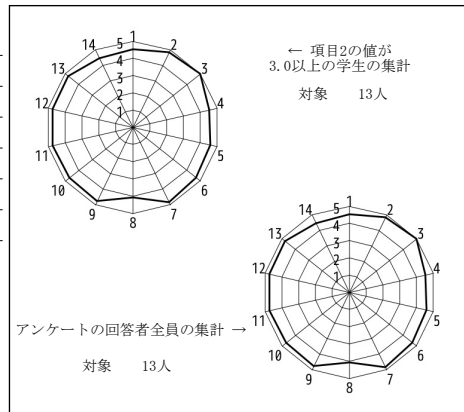


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本授業は2年生対象のフランス語中級文法の後半部分である。対象の学生と共に半数ずつ受け持つ専任の先生との話し合いにより、コロナ対応の遠隔授業を行った。方法としては、1週間前にテキストの解説文書ファイルと課題を提示し、学生には授業時限までに課題を自習してもらい、授業時間には質問の受付、解説補足を行う、というものである。
- 当初の授業では、質問の受付と、課題外の問題のチャレンジを中心にしていたが、解説文書の口頭の補足を求める声が出て解説を増やす等、進行の変更を適宜施した。解説文書については、遠隔授業の自習用として、同授業を対面で行った時よりも詳細かつ厳密な性質が要求され、前回の担当時より情報レベルは向上したと思われる。学生によってはこの学習法が適合し、以前の担当時よりも学生の理解度が一部上がった印象がある。
- 一方でこの学習法が合わず、十分な理解度に到達できなかった学生もいた。自由記述に「文法の授業はオンラインには向いていないと感じた。周りの友達や先生に気軽に話をして疑問を解決できず、1人で色々調べたりしたのでやはり対面でやりたかった」との意見が見られた。また私の問題として、今年是对面授業では必要のないほどの長時間の授業準備、大量の課題の採点・添削に追われ、本授業では課題の迅速な返却ができなかった。この点は学生のスムーズな学習の妨げになったと反省している。
- 今年度は非常に特殊な授業形態となったが、この遠隔授業で得た技術と反省点を生かして今後同様の授業を改善していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語作文B
授業コード	35C11-001
教員名	陳 志平
教員コード	049346
登録人数	23
回答数	13
回答率	56.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業評価集計」によれば、設問3（授業時間）は5.00、設問7（誠実さ・真剣さ）は4.85となっており、これらは教員として果たすべき基本責務であるが、授業姿勢が評価されて率直に嬉しい。また、授業運営に関する設問9「理解度に配慮」、設問11「情報提供」、設問12「質問・相談」はいずれも4.77であり、そして設問3～14の平均値が4.67などの数値データ及びレーダーチャートを見る限り、開講当初の目標は概ね達成されたと思われる。

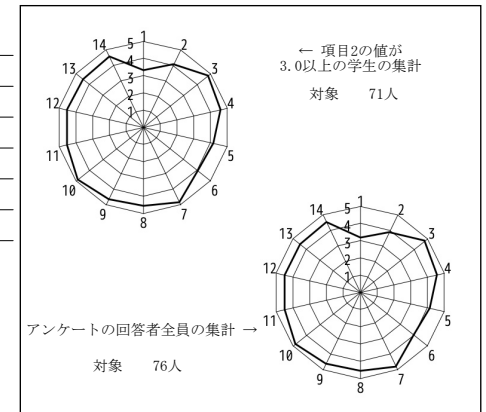
今学期もオンライン授業であるため、Q1の経験・反省も踏まえて、主に下記の点において工夫した。①題材・テーマについて参考例は与えるが、自分の日常にまつわる事柄やそれに対する考えを中国語能力に即して自由に作文を書いてもらえばよい。②学生全員に対する徹底した添削指導ならびに発表（一人あたり2回以上）・指摘・質疑などを定例化して実施する。③作文の添削例示・講評や文法演習などはできるだけ画面共有しながら行う。受講生からは、「自由作文が作れて楽しかったです。」「他の生徒の作文をパソコンの画面で見ることができ、ミスと一緒に見直すことができた。」と言ったようなコメントを頂いた。

一方、オンライン授業は新しい試練であり、手探りしながら授業を推し進めてきたが、やはりZoom授業の質を上げるコツも含めて至らぬ点があると思う。今回、設問8「ネットワーク環境」の平均値が最も低く（4.08）、「先生が横を向いて話している時に、何を話しているのか全く聞こえなかったのでマイク的位置を改善していただきたいです。」というご意見が1件寄せられた。

次学期からは更なる授業改善への模索を行い、指導の向上を図る努力を重ねて行きたいと考えている。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[H・F]3
授業コード	10A51-004
教員名	暮林 響
教員コード	102624
登録人数	150
回答数	76
回答率	50.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

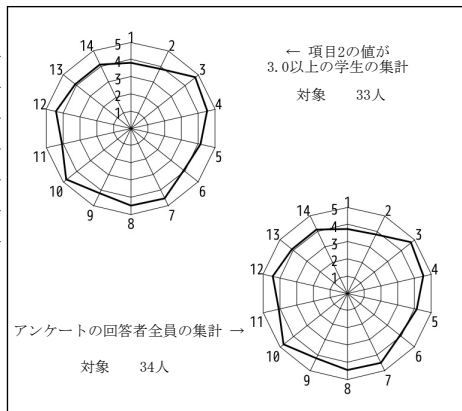
Zoomでの入室に関する不可抗力のトラブルがあったが、内容に関する設定していた目標は果たせたと思う。コロナ禍での対策で講義前日の正午までにレジュメをアップロードするという縛りが、講義内容をより明確にする一助となったと思われる。

評価に関する回答に「質問をする時間がなかった」とあるが、この形態で150人相手には授業時間中には時間が取れないため、質問はリアクションペーパーで行うように明示してあった。また、「レジュメを読んでも要点がつかめなかった」との指摘があったが、講義に参加できない人のためにも細かいところまで書かなければならなかったため、いわゆる「要点」としてのレジュメにはしなかった。今回のコロナ禍での大学の対策に答えた結果であるため、これも特殊状況におけるひずみと思われる。なお、レジュメは講義に参加できない人を想定しており、講義参加者にはより丁寧に余談、例、経験談を踏まえた説明を加えたため、そのズレは当然であろう。

なお、無関係な余談を入れたことはないが、余談が多いとの指摘をリアクションペーパーで受けた後、改善を行ったところ、理解のために余談がむしろ必要だったとの指摘を別の学生から受けたりと、オンライン授業という壁はありながらも、リアクションペーパーを通じて、学生たちとのコミュニケーションに基づいた躍動的な授業ができた手ごたえはあるので、今後ともこの姿勢を保ちたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	思想史に学ぶ人間の尊厳1
授業コード	10D03-001
教員名	浦 英雄
教員コード	101166
登録人数	97
回答数	34
回答率	35.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

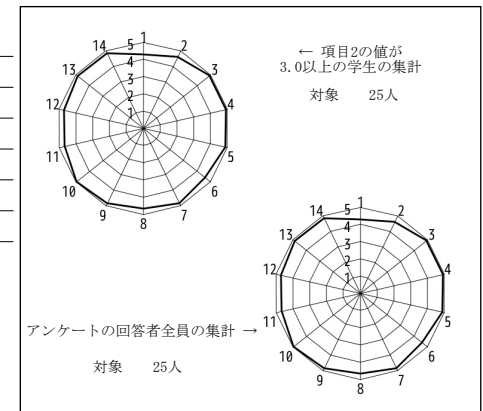


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生自身が、文献を読み、考え、自らの思想として論理的に表現する一連の作業を、繰り返し実施することによってしか、学生自身に「力」を付けてもらうことはできない。講義期間中にそれを実現することは出来なかったようなので、まずは文献に興味を持って、実際に手にしてもらうように、今後は刺激的話し方をする必要がありそうだ。用意した資料も、更に詳しいものに改良しよう。学生の「積極的な授業参加」を促すために、リアクションペーパーを毎回提出してもらうことにしよう。学生が「新しい知識」を得たと感じる授業を展開するには、私自身が日々新たな知識を得るべく、膨大な文献に目を通し、深く考え直す哲学活動を続けて行かなければならない。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	性と生命における人間の尊厳5
授業コード	10D06-005
教員名	三谷 竜彦
教員コード	102441
登録人数	56
回答数	25
回答率	44.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

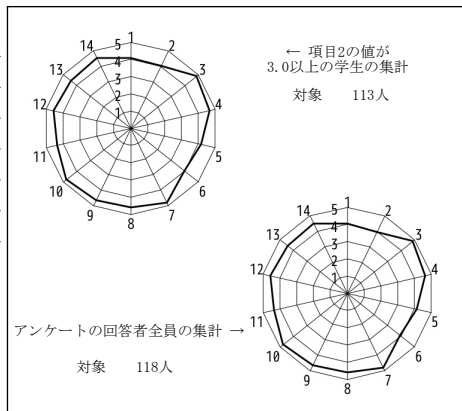


授業評価結果を踏まえた点検・評価

②受講生数は56名、回答者数は25名（回答率45%）でした。設問3～14の平均値は4.81で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.56）を上回りました。いつも最も重要視している設問13（「…新しい知識…」）および設問14（「全体として…」）の数字は、4.88および4.84で、やはり「人間の尊厳」科目全体の平均（いずれも4.47）を上回りました。これらのことから、①開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって③今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していった方がいいのだろと思っています。全体として、Q2の時よりもよい評価をいただいたようです。Q2の時よりも、動画の画面が見やすく、また音が聞き取りやすかったことが、その大きな要因なのではないかと個人的には推察しています。Q2の時は、教室内の比較的大きなスクリーンに流した動画の画面をPCカメラで映して見せるという方式だったのに対して、今回は、テレビで流した動画の画面をPCカメラで映して見せるという方式でした。今回の方が、画面が小さく、また音源に近いということで、視聴状況が良好だったのではないかという気がしています。もし来年度もオンライン授業になるならば、今回の方式でさせていただきたいと思っています。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	音楽A2
授業コード	12A07-002
教員名	吉田 文
教員コード	102447
登録人数	226
回答数	118
回答率	52.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

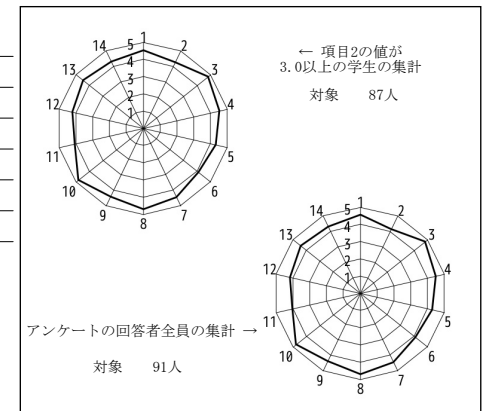


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① ミサ曲を紹介するだけでなく、作品の成立背景や歴史的背景、他ジャンルの美術等との関連性及び学生が日常生活で無意識にこれらの音楽と接している場面を解説することにより、それぞれの作品に関する理解度は深まったと考える。
作品としてのミサ曲だけではなく、実際に儀式として行われているミサを紹介しながら講義を進めたり、作曲家について紹介することにより、宗教音楽と精神文化の関連性について理解が深まっているという目標に到達できたと考えられる。
学生の評価では「授業到達目標の理解度」及び「授業の到達目標に向けて力がついてきているか」の設問で比較的低い値が出ているが、毎回行ったミニテストや期末レポートを参照する限り、当初設定していた到達目標には充分到達している力がついていることが判る。今後とも到達目標をさらに明確に提示し、学生に自信を持たせる声掛けを心がけたい。
- ② 予想以上に多くの学生が肯定的に授業を受け止め、主体的に参加し、興味を持って学んでいたことが読み取れた。これまでに大講義室で行った講義よりも、むしろ、チャット機能を活用することにより学生とのコミュニケーションが取れた結果が表れた。また、WebClassのメール機能を通して個々の学生の必要に応じたサポートを行うことができた。
- ③ 今期の授業内容は来年度の内容の基礎とできることが判明した。来年度の授業形態にもよるが、オンライン講義で培った経験を大講義室での講義にも反映できるようにしたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	世界史1
授業コード	12B12-001
教員名	大橋 真砂子
教員コード	100233
登録人数	198
回答数	91
回答率	46.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

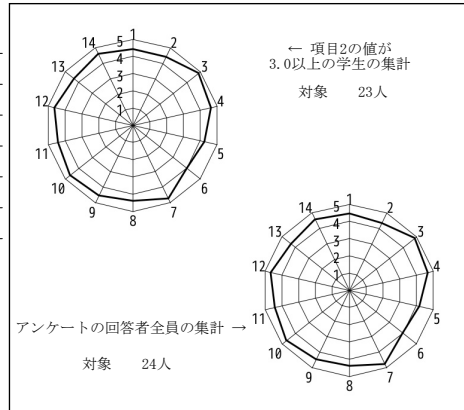


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、西暦1500年以降のヨーロッパ中心の歴史を概観し、近現代にいたる影響を考察した。開講当初に設定した目標（1. 1500年ごろから始まるヨーロッパ列強の世界進出の背景や特徴、そして19～20世紀のヨーロッパの新たな世界進出の特徴とその影響について知っている、2. 近代世界の歴史の主な流れを理解している、3. 現代世界の成立と現状の歴史的背景を理解している）の内容については、概ね取り扱うことができたと考えている。自由記述のなかには、WordとPowerPoint資料についてかなり好意的に評価するものが比較的目立った一方で、担当者の多忙による瑕疵を手厳しく批判するものもみられた。今年度はとくにどの大学でもリモート授業で教員にとって準備時間が限られているために、そのような結果となったのは残念であった。穴埋め式のWord資料のアップをもっと早めに、という声もあり、学生の学習意欲を感じることができた。今後の授業運営に活かしていきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法学A1
授業コード	12C01-001
教員名	長尾 良子
教員コード	102081
登録人数	45
回答数	24
回答率	53.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



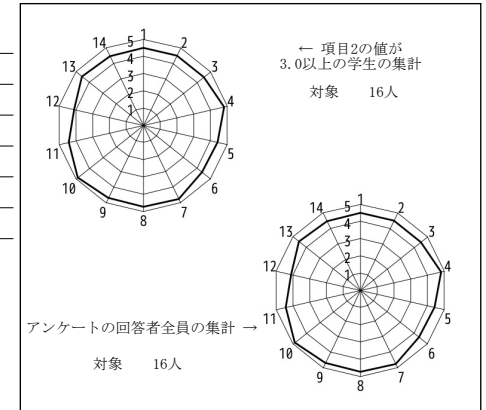
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期は新型コロナウイルス対応で急遽授業形態がZoomに変更となり、学生も教員も新たな取組みでした。この「法学」の授業は共通教育科目で、法の基本構造、裁判の仕組み、民法・刑法の基本を理解するという授業目標はおおむね達成されたと思われます。授業評価の設問項目1~4、7、11、12、14の平均は各種集計値を上まわっていますが、項目5、6、9、13などは平均をやや下まわりました。これは、授業が分かりやすいという回答と一部少し難しいとの回答が並存したためと考えられます。設問項目15の自由記述回答では、良かった点として、説明等が丁寧(3名)、関連サイトの紹介(4名)、ブレイクアウトルームでのグループ・ディスカッション(4名)等々17名(/24名中)の回答がありました。最終授業回の記名式アンケート(31名)でも、楽しかった、充実していた、これからもっと学んでいきたい等々の回答がありました。他方設問項目16の改善点としては、ミュートなど音声に関する指摘(2名)や質問方法の指摘が1名、特になしとの回答が6名でした。目標提示の仕方や音声、質問方法など改善できる点については改善していきたいと思います。

社会全体で未知の状況に突入し、試行錯誤のただ中ですが、「法学」の授業全体の満足度と理解度を高める工夫と努力を、一つ一つの改善を重ねて続けていきたいと考えます。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学B1
授業コード	12C05-001
教員名	大園 誠
教員コード	102910
登録人数	43
回答数	16
回答率	37.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①：この科目を担当して4年目になるが、昨年度まで戦前日本政治／戦後日本政治／国際平和機構というテーマをすべて盛り込み、内容・進度に無理が生じていたため、今年度から「戦後日本政治」に内容を絞り込んだことは功を奏した。「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものか」の評価が2番目に高かったことからそれは裏づけられる。今後もこの方針を継続したい。②：全項目の平均値は4.55であることから授業全体として概ね肯定的評価が得られたと思う。自由記述では、良かった点として「レジュメや授業などが丁寧で分かりやすい／映像資料の活用」、改善点として「(他の授業と比べて)課題が多い／メールの返信が返ってこない／講師の個人的な見解も聞きたかった」との指摘があった。毎週ニュース・コメントや、授業内容に関する「問い」の回答を課題としたことは、政治学の学習として重要なので継続したいが、それらへの回答を含む受講生からのメールに対して返信しきれなかった点は最大の反省点。メールに個別に返信するのではなく、あくまで授業内で応答すべきだった。また、「政治学」という科目の性格上、講師の個人的見解をどこまで紹介するかは悩ましい問題であるが、受講生から問いかけがあればできるだけ応答したい。③：今回の収穫は、授業内容を絞り込むことで、テーマが明確になり、受講生にとっても取り組みやすい授業構成と内容にすることができたことである。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	物理学B
授業コード	12D02-001
教員名	本村 扇仁
教員コード	102685
登録人数	8
回答数	4
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、授業で取り上げた物理学の知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。このような展開について、説問4の数値から、概ね成功であったと考えられる。オンライン授業という側面では、説問8の数値から、音声が届くという点は少なくともクリアできたと考えられる。映像資料については、実感を伴った理解につながるという点から要所で取り入れる展開を今後も継続したいと考える。ただしオンライン授業の場合は記述のコメントにあるような音声と映像のズレが生じる可能性があり、字幕の併用、また分割して視聴するなど次善の策を今後も併用したい。また興味があった点についてどのように学習を深められるかをより明確にするという点に関しては、参考文献の紹介など常に工夫を加えていきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	化学2
授業コード	12D05-002
教員名	沢邊 恭一
教員コード	102686
登録人数	6
回答数	1
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

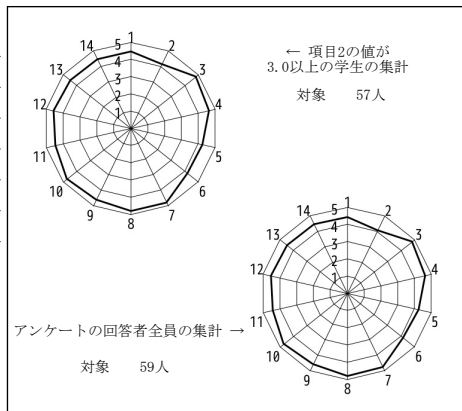
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートは受講生6名に対して一件だけの回答だったため、学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価をする。オンライン講義のため、受講状況はコンピュータ画面上でZoomの参加リストで確認していたが、実際に講義を聴いているかどうかはビデオをオフにしていたのでわからなかった(ビデオをオフにしたのは、回線混雑を避けるために大学側が要求した設定である)。この講義では、毎回講義後に小テストをして、オンライン提出をしてもらっているが、その答を見る限り真面目に講義を聴いているとは思えない学生がいた。したがって、今後もオンライン講義がある場合は、講義中に適宜小テストのようなものを実施して聴講しているかどうかの確認をする必要があるだろう。参加態度の悪い学生はレポート提出をしなかったため結局不可となったが、その他の学生はレポートの内容から判断すると、この講義の目標である「身の回りにある化学を認識する」「化学リテラシーを理解する」などが達成できたと考えられる。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学B1
授業コード 12D07-001
教員名 藤波 初木
教員コード 102077
登録人数 148
回答数 59
回答率 39.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

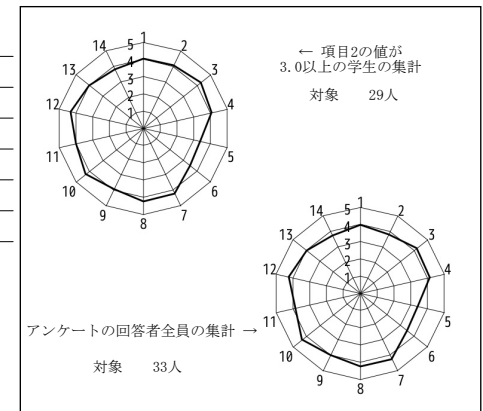


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度はコロナ禍のためzoomによるリモート講義となった。150名弱の大人数でのリモート講義で色々不安な面もあったが、開講当初に設定していた授業目標はほぼ達成したと考えている。学生評価では、この授業全般に対し、これまでの対面授業より良好な評価を得た。基本的に全てパワーポイントを用いた授業のため、zoomの授業とは相性が良かったのかもしれない。アンケートの任意解答でも「授業資料がわかりやすく、丁寧な説明で理解がしやすい」との回答を多く得た。従来とは違う方式での授業であったため、以下のことに注意して授業を行った。教養科目の自主的な予習・復習は難しいと思われるため、授業中に復習ができるように工夫した。授業資料はなるべく難しい数式を使わず、理系の専門用語の使用も最小限に止め、身近な気象現象から地球規模の環境問題の成因をできるだけ論理的に追いかけるように努力した。授業が行われる週に観測された天気の変化や異常気象などに関する説明を、動画や天気図などを用いて解説し、授業の内容がどのように気象・気候の理解に結びつくのかがわかるように資料を作成した。また、私のフィールド(海外)の観測風景などの映像も増やし、研究者が何を行っているか等も授業内容に関連づけて話題提供した。これらの点は自由形式のアンケート結果から好評であった。一方、生徒の顔が見えないため、理解度の判断が難しかった。この点は改善が必要である。しかし、(チャットによる)質問は従来の対面授業よりも多くあり、生徒とのやりとりは対面授業よりむしろ増加した。この点はリモートでの授業の良い点かもしれない。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学B3
授業コード 12D07-003
教員名 古澤 文江
教員コード 103906
登録人数 69
回答数 33
回答率 47.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①
1つ目「熱や放射の基礎物理の習得」については、小テストの平均が70点で、また半分以上の問題が7割以上の正答率であったことから、よく理解できていたと思われる。
2つ目「応用例の理解」の目標は、測器を理解した上で、その観測によって得られた表や図のデータを読み取ることで、そこにある物理や自然現象を理解できたと思う。
3つ目の「身の回りの現象について物理的に考察する能力を養う」という目標については、身の回りの現象や先端科学・技術に対し、自ら疑問を持ち、とても多くの質問をすることができたので、達成しつつあると考える。今後もこの姿勢を続けて欲しい。
- ②
履修前から興味を持っていた学生が多くいたことがわかり、理科離れが叫ばれる中、嬉しく感じた。
初めてのオンライン講義ということで、不慣れで、学生達に迷惑をかけたと思う。
その分、当日意見や疑問を電子的に受け付け、それに丁寧に答えていくことで、学生達との距離を縮め、興味を失わないような努力を心掛けた。
学生達も、たくさんの意見や質問をしてくれたので、とても楽しく、良かったと思う。
- ③
どのような授業形態になるかわからないが、授業時間が長くなるので工夫をしながら、学生達とのコミュニケーションを心掛け、臨機応変に対応していきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理学A1
授業コード	12E03-001
教員名	小澤 良
教員コード	103091
登録人数	22
回答数	4
回答率	18.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

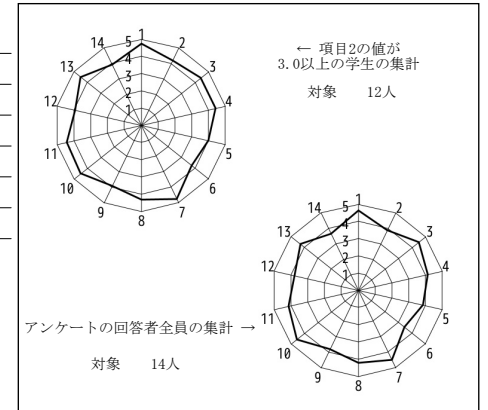
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初予定していた内容はすべて消化することができた。また、期末課題の解答から察するに、目標は十分に達せられたと考えられる。学生による評価項目いずれも4~5点であった。また、zoomを用いての資料提示に関しては、問題はなかったようである。ただし、回答数が少なかったため、正確な評価とは言いがたい点に留意する必要がある。しかし、zoomを用いての遠隔授業であったため視覚的なデモンストレーションが不十分であったことは否めない。より深い理解のためには、なんらかの形でデモンストレーション動画を他のサイトなどに提示する必要があった。また、用意した内容では講義時間を超過してしまい、翌週に持ち越してしまうことが何回かあった。来期は講義時間が長くなるが、それも考慮しながら配分に気をつけたい。来期の講義形式が対面であった場合は、問題はないであろうが、遠隔であった場合、より対面形式と遜色ない内容を可能とする手段を考えたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化との接触1
授業コード	13A02-001
教員名	チヨ スルソップ
教員コード	103282
登録人数	37
回答数	14
回答率	37.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

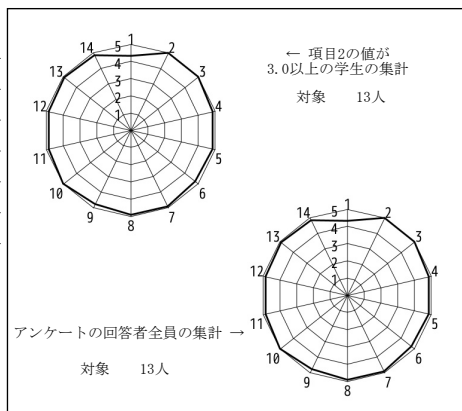


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
1. 韓国・朝鮮社会の衣食住や文字、生活環境などの文化要素の詳細をみていくことで、韓民族独自の社会や伝統文化の本質を理解する。
 2. 韓国現代社会の動向、半島を生きる人々の生活相を具体的に考察することで、朝鮮半島の昨今の情勢や今後の発展の可能性を把握する。
- 以上が当初設定された到達目標である。目標達成のために核心に触れる情報を提供できることに努めた。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
- 「楽しかった。/細かく丁寧に教えていた。/韓国について幅広く学ぶことができた。」とある学生の自己記述欄にあったコメントが嬉しかった。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など授業をする人・受ける人がともに楽しく、有意義な授業ができるように努めていく。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解4
授業コード 13C01-004
教員名 杉尾 浩規
教員コード 102055
登録人数 48
回答数 13
回答率 27.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

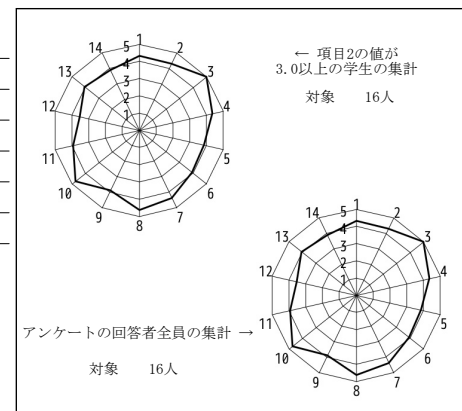


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では「文化を考える」こと自体が持つ多様性への学びを通して、自文化と異文化へのバランスの取れたスタンスの習得を目指しました。具体的には「世間」をキーワードとしながら、「日本で個人として生きる」ことについて「考える」ことで、「日本における異文化理解のあり方」を多角的に検討しました。遠隔という不慣れな授業スタイルで「考える」ことを強く求めた学びの実践は、受講してくれた皆さんにとっては孤独な営みだったかもしれません。しかし、このような状況下でも、深い自己分析を伴う丁寧な課題レポートを作成し続けてくれた人が少なからずいました。毎回の課題レポートの文字数は200字を下限設定としましたが、2000字前後の文字数で内容もハイレベルなレポートを作成・提出してくれる学生が最後まで一定数存在しました。レポートでは、「世間」という「しがらみ」と「自分」という「ユニークな存在」の板挟みの中で自らが感じる「生きにくさ」が客観的に分析されていました。「考える」という目標の達成状況を客観的に判断することは困難です。しかし、このような真剣かつ誠実なレポートがあったことを踏まえると、個として考えることの意義を強く打ち出した本授業に一定の肯定的評価を与えることができると思われます。遠隔授業に関する改善点としては、毎回の授業内容のボリュームがあります。遠隔では、Zoomと自主学習共に、対面と比較して毎回負担なく消化できる授業内容は少なめが適切だと思います。来年度の授業が遠隔になる場合には、この点を考慮して毎回の授業内容を構成したいと考えます。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命と法律問題2
授業コード 13C02-002
教員名 三枝 有
教員コード 100468
登録人数 58
回答数 16
回答率 27.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

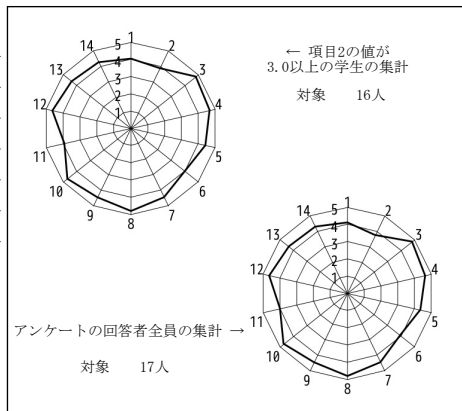


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①については、想定通りとはいえませんが、特段の低い評価があったわけではないが、対面授業を想定していたこともあり、想定外の遠隔講義での評価ではこの程度であろうかというものです。②の数値データについては、必ずしも状況的に一致したアンケートではないためどのように評価したらよいか疑問ですが、今までの対面講義の場合の評価とは異なり、均一化した評価となっていることがある意味講義自体にメリハリが欠けたものになっている可能性があるように思われました。自由記述でも、レジュメや課題については評価していただいておりますが、講義自体との関連性が、学生の理解を深めるにまでは至っていない感がありました。③については、遠隔講義のレジュメや課題にかなり沿った形で講義を展開する必要を感じました。残念ながら、講義のためのレジュメではなく、レジュメのための講義の要求があり、これに答えることは、思考性よりも知識重視型の教育方法に変化させる必要があるということです。遠隔が続く限り、知識重視の講義へと変化させることで要望に対応するしかないだろうかと思索しております。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相7
授業コード 13C04-007
教員名 松野 正太郎
教員コード 104285
登録人数 58
回答数 17
回答率 29.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

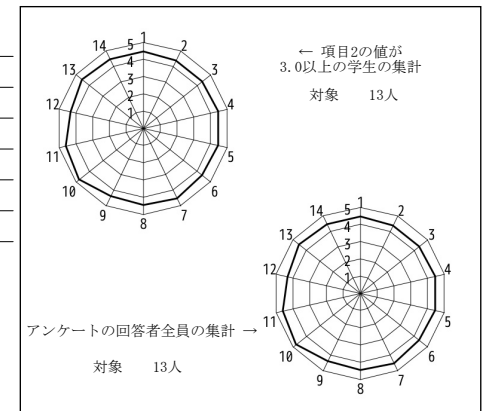


授業評価結果を踏まえた点検・評価

担当者としては、今年度初めて開講する講義であった。
講義の目標到達度、受講生の満足度等、比較的高いものであったと考えられる。
特に今年度は、全てリモートによる講義であったので、学生の理解度などを直接的に確認することは難しく、一部の学生は、教員が一方向的に話しているだけと感じたようである。この点は反省点の一つであり、次年度対面講義が再開された折には、リアクションペーパーを活用する等して、質問の汲み上げ、理解度の確認に努めたいと考えている。
扱った内容としては、昨今行く目にするSDGsを中心にケーススタディを含め論じたが、これについては学生も関心を持って聞いてくれたようであり、時宜を得たものであったと思う。
総じて、講義のレベル、内容、進度など、適切なものであったと自己評価している。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生活環境と物質1
授業コード 13D03-001
教員名 成田 靖子
教員コード 100250
登録人数 29
回答数 13
回答率 44.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

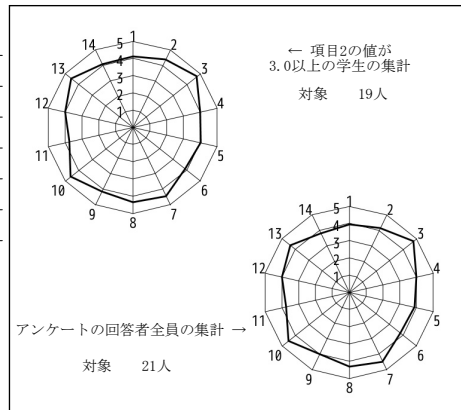


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期の対象科目は、副題「生命の科学」として、DNA(遺伝子)やクローン動物、再生医療を扱った。なるべく専門用語を使わず、動画や新聞記事などを併用し、新聞・ニュース・ネットで取り上げられる情報を学生が自分の言葉として理解、判断できるのを目標としている。
授業評価結果は、項目3～14の平均値は4.48であった。授業評価の自分のなりの目安を4としているのでそれなりの成果が出たと考えている。オンライン授業として開講した。学生にとって従来の対面授業に比べて質問しやすい形式であるせいか、口頭もしくはチャットでの質問が増えた。ただ、授業終了後も15分ほど質問タイムを設けたが、これに対して応答がほとんどなかったのはやや残念である。もっと工夫が必要だったかもしれない。担当者として配慮したのは「授業内容に興味をもったか」と「授業内容に満足できたか」である。結果として4.54と4.46の値を得たので、担当者としての取り組みと考える程度伝わったものと考えている。また、配信テレビ放送やDVDなどを使って、文字・言葉・図だけでは理解しにくい生物のしくみの理解補助とした。
自由表記では、丁寧でわかりやすかった、最初に受講生の状況を確認する、資料に図や映像資料が多く理解しやすい、適度なタイミングで映像を挟んだことがよいとの評価を得た。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知識の探求3
授業コード 13E03-003
教員名 牛島 謙
教員コード 042549
登録人数 67
回答数 21
回答率 31.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について。

オンラインで授業を行ったが、授業の目標は変更しなかった。インターネットの基底には明確な設計思想（デザイン）がある。その思想を理解することにチャレンジさせるのがこの授業の目標である。その目標を達成するために、自前で構築したデータベースから各回の教材を作成した。

②総合的な自己点検・評価。

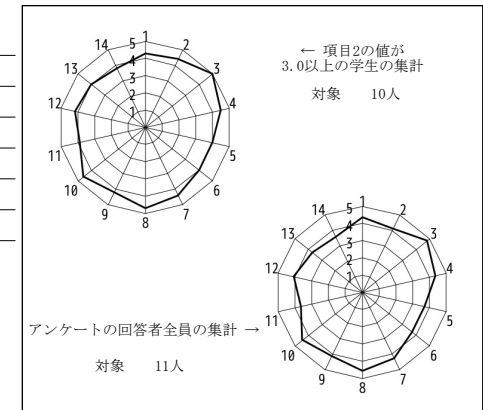
授業のテーマが思想系であるだけに、事前の興味や到達目標の理解度のポイントが低い。授業の質は学生に評価されていると思われるが、全体としての評価は学際科目の平均を下回っている。自宅からオンライン授業を行ったが、教室での授業と遜色がない内容にすることを第一にした。そのため授業後のフォローが手薄になったと思う。

③改善点、今後の抱負、方針など

やや難しめの教材を使いながらその意味を授業中に読解するという形式で、授業を行っていきたい。学生の理解度をフィードバックしながら、解説のレベルを調整する必要がある。また、授業への満足度が低いので上げる努力はするが、思想を学ぶという場を共有することを第一に考えたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と機械3
授業コード 13E04-003
教員名 大野 波矢登
教員コード 100625
登録人数 24
回答数 11
回答率 45.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

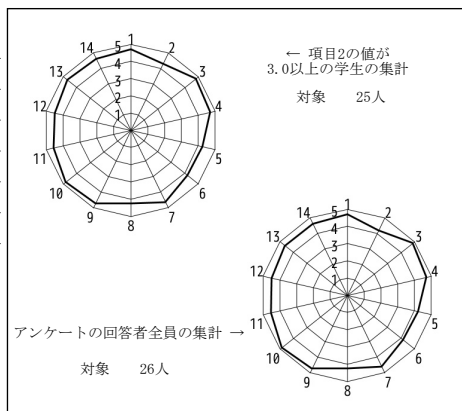
(1)人工知能やロボットに関わる哲学・倫理学的問題を理解し、自らもそれらの問題について考え、討論できるようにすることがこの講義の目標である。目標達成度は、アンケートの全項目の平均が4.10であったこと、そして小テストとレポートの合計点の平均が81点であったことから8割程度と思われる。

(2)アンケートの結果については、項目5、6、13の平均値が3.73、項目11が3.64、項目14が3.55であった。この結果から次のことが読み取れる。授業の到達目標の理解が十分にできておらず、そのため到達目標に向けて自主的に学習することができず、結果として新たな知識が得られたとの実感がなく授業に対する満足感も得られなかった。また、教員側の指導や情報提供も不十分であった。

(3)今後の改善点として、到達目標や受講の意義について丁寧に説明すること、質問や相談に対する対応、自主的な学習の指導を適切に行うことを心がけたいと思う。近年のAIブームから人工知能やロボットに対する学生の関心は高いと思われるが、教員側の提供する情報と学生の関心が一致しておらず、授業内容が学生の期待に応えるものではなかった。次学期も授業はオンラインで行うことになっているが、学生の関心や要望等を的確に把握するために、双方向の対話ができるよう工夫する必要がある。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	博物館学E
授業コード	15M05-001
教員名	可児 光生
教員コード	102475
登録人数	59
回答数	26
回答率	44.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

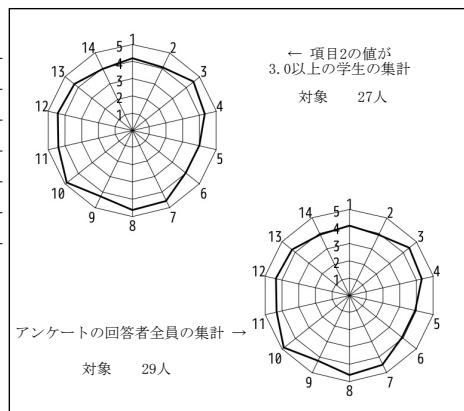
学生の多くが1年、2年生であり、また学芸員資格取得のための他の必要単位を未履修の学生が多いと思われるため、博物館学E（博物館経営論）の内容とあわせて、博物館に関する基礎的事項や現状をつかんでもらうことを意識して授業に臨んだ。結果的に項目(9)「理解度への配慮」について一定の評価（4.73）があった。社会の中での博物館に対する評価や現実的課題、市民目線でみた博物館像などを把握するために一般新聞の記事などを用いたことがそれにつながったと考える。「実際に起きている問題について資料が豊富に用意されており理解しやすかった」という学生のコメントは、それを裏付けていると思う。

項目(13)の「理解が深まった」と、項目(14)の「満足しましたか」の数値が、いずれも4.62であり、授業全体に対して一定の評価があったと思う。さらに、学生の学習意欲を引き出す工夫をしていきたい。

今回は、初めてのオンラインによる授業であった。システムも含めて進め方などに不明な点が多く、話している内容が伝わっているのかどうか、学生の興味関心がどこにあるのか、コミュニケーションをどうとったらいいのか、など不安のままの授業であった。改めて、リアルな対面授業というものの重要性を自身を知る機会になった。また小レポートの提出方法などについてはこちらの不慣れな点が多く、学生に少なからず戸惑いを与えた点については反省している。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地誌概説
授業コード	22C07-001
教員名	佐藤 久美
教員コード	102924
登録人数	65
回答数	29
回答率	44.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンラインによる授業となり、受講生の表情や反応を見ることができなかったが、できるだけ、チャットでコメントを送ってくれるように促した。そのコメントから読み取れる要望にできるだけ沿うような内容で授業を行った。アンケートの回答を見ると、関心を持って受講してくれたことがわかり、やりがいを感じる。ただ、自由記述の中で「第一回目の授業の時点で、どのように授業を行っていくか、の説明を明確に行ってほしい」とあったので、次クォーターでは、改善したい。毎回の授業後のレポート提出および期末レポートの提出にて評価を行ったが、特に期末レポートに関してはしっかり取り組んでくれたことが読み取れるものが多かった。「この講義をきっかけに世界への視野を広げたり、国同士の関係や異文化交流について考えを深めることができるようになった」という感想があった。さらに、学生さんたちが世界の出来事などに関心を深めるきっかけになるような授業を行っていきたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会・公民科指導法B2
授業コード	15B51-002
教員名	成田 健之介
教員コード	101555
登録人数	16
回答数	3
回答率	18.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

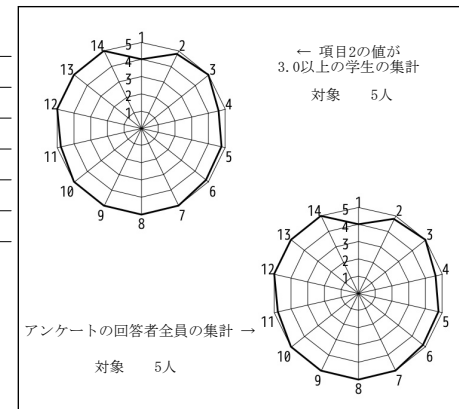
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、中学校社会科公民的分野と高等学校公民科の授業に必要な授業実践力を高めることを目標としている。Q3もオンラインLive授業となったため注文販売での検定済教科書が使えず、学習指導要領も文科省のWEBからの利用とした。前半は、学習指導要領の理論的側面の学修や「主体的・対話的で深い学び」、資質・能力等最新の情報を取り上げ新学習指導要領に対応できる実践力の育成に力を入れた。当初予定していた動画教材を使った学修は、学生の多様な通信環境を配慮して一部しか使用できなかったため、実際の指導場面や教育現場での授業録画を用いての学修は最小限にとどまった。後半は、履修する学生全員に15分～20分間のオンライン授業を想定した模擬授業を課し、オンラインLive授業のリアルタイム性を生かして授業構想、学習指導案細案の作成及び模擬授業と事後検討を中心とした実践的な学修となるように実施した。

学生評価については、3名の回答しかなかったために統計的に有意なデータが得られなかった。学生への告知が最終回になってしまったことも回答数が少なくなった原因と考えている。少数の回答者からの設問3～設問14の平均値は4.89であり、自由記述での良かった点では「実際に教職員として働いている方のことや海外での教育の様子を聞くことができた点や、模擬授業に対して受講生でディスカッションをし感想を共有できた。」と記述されていた。オンライン授業での学性への授業評価への回答要請について事前の告知を含めて意識化を図りたい。また、先の見えない中で、オンライン授業継続も視野に入れて、今後も学生との双方向のコミュニケーションを重視した授業運営に努めたい。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	書道
授業コード	15E01-001
教員名	岡野 央
教員コード	101227
登録人数	15
回答数	5
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

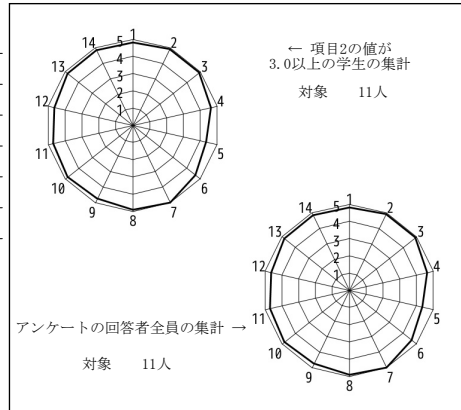


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目的である「日常生活における書のあり方」として、毎授業、中国唐代の書の古典の中から楷書、行書を中心に「形臨・意臨・背臨」の学習を行った。そしてこの授業の最後に目的達成の記念として受講生全員がこの授業で学習した蘭亭叙の中から自選による四字句を色紙作品に書き上げ、それぞれの自宅に飾り、鑑賞することで日常生活の中に最も書を身近に感じる環境を作るという目的が達成されたように思う。受講生は自作の色紙作品の出来栄に満足感が見られたが、近年クォーター制授業の導入により、指導する側の効率としては良くなったものの、受講生にとっては自宅での練習時間が短くなり、書の技術向上については更なる練度が必要であるという課題も残された。また今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインと対面を併用する授業となり、オンラインでは細かい技術指導の説明まではなかなか伝えきれないのが現状で、今後の対策が必要とされる。

2020年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English III3
授業コード 48A07-003
教員名 VENEMA, James
教員コード 102707
登録人数 18
回答数 11
回答率 61.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Given the unusual circumstances of teaching a very interactive course online, I thought the class went as well as could be expected. The one part of the course I thought worked really well was bringing in guest speakers. This was much more easily done with an online class.